

平成3年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

西 別 府 廃 寺

1992

埼玉県熊谷市教育委員会

平成3年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

にし べっ ぷ はい じ
西 別 府 廃 寺

1992

埼玉県熊谷市教育委員会

序

私たちの郷土熊谷は、原始・古代の集落跡等の埋蔵文化財が、数多く分布することで知られています。こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。

しかしながら近年は、様々な開発にともない、日々郷土の景観は変化しております。このような状況において、失われつつある文化財を保護し、次世代に伝えていくことは現在に生きる私たちにとって大きな課題であり、責務であると考えます。

さて、西別府廃寺は熊谷市大字西別府字西方に所在する古代の寺院跡であります。この寺院は埼玉県でも最古級の寺院として、さらに規模も大きいものとして知られています。また、当寺院北の湧水地点では、水辺の祭祀を行った県選定重要遺跡の西別府祭祀遺跡があります。この遺跡の一部に、会社事務所及びその取り付け道路が建設される計画がもちあがりました。遺跡の保護と保存について、熊谷市教育委員会と開発業者との間で協議を重ねてまいりましたが、事業計画の変更が難しいことから、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、平成2年4月から8月にかけて実施された記録保存のための発掘調査成果をまとめたものでございます。本書が埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行にいたるまで御協力いただきました県文化財保護課、株式会社三昌並びに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成4年2月

熊谷市教育委員会
教育長 関根幸夫

例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市大字西別府字西方1594-12他に所在する西別府廃寺（埼玉県遺跡番号59-003）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、会社事務所建設及び道路舗装工事に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、株式会社三昌から委託を受け、熊谷市教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、I章のとおりである。
- 4 発掘調査期間は、平成2年4月20日から8月31日である。
整理・報告書作成期間は、平成3年4月1日から平成4年3月31日である。
- 5 発掘調査の担当は、熊谷市教育委員会金子正之・吉野 健が、本書の執筆・編集は、吉野 健が行った。
- 6 写真撮影については、発掘調査及び遺物とも吉野が行った。
- 7 出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。
- 8 西別府廃寺出土鉄滓の分析調査は、川鉄テクノロジー株式会社へ委託して調査したものである。
- 9 本書の作成にあたり、下記の方々から御教示、御協力を賜った（敬称略）。記して感謝いたします。
池田敏宏、酒井清治、大里都市文化財担当者

凡 例

- 1 本文中、遺構の表記記号は、次のとおりである。
S J…………住居跡、S X…………竪穴遺構、S K…………土坑、P…………ピット、S D…………溝跡
- 2 各遺構の番号は、整理作業の段階で変更した。ただし、一部は発掘調査時に付したものを用了。
- 3 土層断面図中の表記記号は、次のとおりである。
P…………土器、瓦…………T、鉄滓…………F、羽口…………W、川原石…………S
- 4 遺構挿図の縮尺は、次のとおりである。
遺構全測図…………1／800、住居跡・竪穴遺構・土坑・ピット…………1／40、1／60、1／80、
溝跡…………1／80、1／100、1／120
- 5 遺構土層断面図及びエレベーション図のポイントの標高は、原則としてその都度表記して示した。
但し、同一図中において標高が同じ場合は、原則として図のポイントA－A' に表記して示した。
- 6 遺構挿図中のスクリーントーン指示は、その都度示した。
- 7 遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。
土器・羽口・瓦塔・瓦堂・砥石・板石塔婆・鉄製品…………1／4、瓦類…………1／5、
三彩陶器・土錘・古銭・鉄製品の一部…………1／2、石臼…………1／6
- 8 遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にはできる限り残存率を記した。また、断面表現は、須恵器については還元焰焼成のものは黒塗り、酸化焰焼成のものは白抜き、灰釉陶器は 、古代瓦は左斜線、瓦塔・瓦堂の屋蓋部破片は右斜線、それ以外の土師器、陶磁器等の遺物はすべて白抜きで示した。
スクリーントーン指示は、灰釉陶器の釉葉は 、その他についてはその都度示した。
- 9 遺物分布図中の遺物番号は、遺物実測図中の番号と一致している。また、遺物実測図の縮尺は統一されていない。
- 10 遺物観察表の凡例は、次のとおりである。
法量の単位は、cm である。また、推定値は括弧付けで示した。

目 次

序	I
例 言	II
凡 例	III
目 次	IV
挿図目次	V
図版目次	VI
出土遺物観察表目次	VII

I 発掘調査の概要	1
1 調査に至る経過	1
2 発掘調査・報告書作成の経過	1
3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	2
II 遺跡の立地と環境	3
III 遺跡の概要	10
1 調査の方法	10
2 検出された遺構と遺物	10
IV 遺構と遺物	10
1 住居跡	10
2 竪穴遺構	29
3 土坑	43
4 ピット	50
5 溝跡	52
6 グリッド・表採遺物	60
V 調査のまとめ	72
出土遺物観察表	77

附編

西別府廃寺出土鉄滓の分析調査 川鉄テクノリサーチ株式会社 総合検査・分析センター
千葉営業所
写真図版 西別府廃寺出土鉄滓 外観写真・顕微鏡写真

挿 図 目 次

第1図	埼玉県地形図	3	第33図	第3号竪穴遺構出土遺物(3)	37
第2図	周辺遺跡分布図	4	第34図	第3号竪穴遺構出土遺物(4)	38
第3図	西別府廃寺位置図	8	第35図	第3号竪穴遺構出土遺物(5)	39
第4図	西別府廃寺全測図	9	第36図	第3号竪穴遺構出土遺物(6)	40
第5図	第1号住居跡	11	第37図	第4号竪穴遺構、第20号土坑	41
第6図	第1号住居跡遺物分布図	12	第38図	第4号竪穴遺構遺物分布図	41
第7図	第1号住居跡出土遺物(1)	13	第39図	第4号竪穴遺構出土遺物	42
第8図	第1号住居跡出土遺物(2)	14	第40図	第1～8号土坑	44
第9図	第2号住居跡	15	第41図	第9～13・15・18・19・23～27号土坑	45
第10図	第2号住居跡遺物分布図	16	第42図	第14・16・17・21・22号土坑	47
第11図	第2号住居跡鉄滓・羽口分布図	17	第43図	土坑出土遺物	49
第12図	第2号住居跡出土遺物(1)	18	第44図	第1・2・4～8号ピット	51
第13図	第2号住居跡出土遺物(2)	19	第45図	第1号溝跡	53
第14図	第2号住居跡出土遺物(3)	20	第46図	第1号溝跡出土遺物	54
第15図	第2号住居跡出土遺物(4)	21	第47図	第2・3号溝跡	55
第16図	第2号住居跡出土遺物(5)	22	第48図	第2号溝跡出土遺物(1)	56
第17図	第2号住居跡出土遺物(6)	23	第49図	第2号溝跡出土遺物(2)	57
第18図	第3号住居跡	24	第50図	第4号溝跡	58
第19図	第3号住居跡遺物分布図	25	第51図	第4号溝跡出土遺物	59
第20図	第3号住居跡出土遺物(1)	26	第52図	第5号溝跡、第28・29号土坑	60
第21図	第3号住居跡出土遺物(2)	27	第53図	グリッド・表採遺物(1)	61
第22図	第3号住居跡出土遺物(3)	28	第54図	グリッド・表採遺物(2)	62
第23図	第3号住居跡出土遺物(4)	29	第55図	グリッド・表採遺物(3)	63
第24図	第1号竪穴遺構遺物分布図	29	第56図	グリッド・表採遺物(4)	64
第25図	第1号竪穴遺構出土遺物	30	第57図	グリッド・表採遺物(5)	65
第26図	第2号竪穴遺構	31	第58図	グリッド・表採遺物(6)	66
第27図	第2号竪穴遺構遺物分布図	32	第59図	グリッド・表採遺物(7)	67
第28図	第2号竪穴遺構出土遺物	32	第60図	グリッド・表採遺物(8)	68
第29図	第3号竪穴遺構	33	第61図	グリッド・表採遺物(9)	69
第30図	第3号竪穴遺構川原石分布図	34	第62図	グリッド・表採遺物(10)	70
第31図	第3号竪穴遺構出土遺物(1)	35	第63図	グリッド・表採遺物(11)	71
第32図	第3号竪穴遺構出土遺物(2)	36			

図 版 目 次

図版 1	西別府廃寺調査区全景	図版 5	第27号土坑
図版 2	第1号住居跡		第1号溝跡
	第1号住居跡遺物出土状況		第1号溝跡軒平瓦出土状況
	第2号住居跡		第2号溝跡
	第2号住居跡鉄滓・羽口出土状況		第2号溝跡遺物出土状況
	第2号住居跡坏出土状況		第4号溝跡
	第2号住居跡瓦・羽口出土状況		瓦塔出土状況(1)
	第3号住居跡		瓦塔出土状況(2)
	第3号住居跡カマド	図版 6	第1号住居跡出土遺物
図版 3	第3号住居跡遺物出土状況	図版 7	第2号住居跡出土遺物
	第3号住居跡坏出土状況(1)	図版 8	第2号住居跡出土遺物
	第3号住居跡坏出土状況(2)	図版 9	第2号住居跡出土遺物
	第1・2号竪穴遺構		第3号住居跡出土遺物
	第1号竪穴遺構遺物出土状況	図版10	第3号住居跡出土遺物
	第2号竪穴遺構遺物出土状況(1)	図版11	第3号住居跡出土遺物
	第2号竪穴遺構遺物出土状況(2)		第2号竪穴遺構出土遺物
	第3号竪穴遺構		第3号竪穴遺構出土遺物
図版 4	第3号竪穴遺構川原石分布状況	図版12	第3号竪穴遺構出土遺物
	第4号竪穴遺構遺物出土状況(1)		第4号竪穴遺構出土遺物
	第4号竪穴遺構遺物出土状況(2)	図版13	第10号土坑出土遺物
	第2号土坑		第1号溝跡出土遺物
	第2号土坑遺物出土状況		第2号溝跡出土遺物
	第9～13号土坑、第4～8号ピット	図版14	第4号溝跡出土遺物
	第10号土坑坏出土状況		グリッド・表採遺物
	第4号竪穴遺構、第15～29号土坑、	図版15	グリッド・表採遺物
	第9号ピット、第5号溝跡		

出土遺物観察表目次

第1表	第1号住居跡出土遺物観察表……………77	第7表	第4号竪穴遺構出土遺物観察表……………92
第2表	第2号住居跡出土遺物観察表……………78	第8表	土坑出土遺物観察表……………93
第3表	第3号住居跡出土遺物観察表……………81	第9表	第1号溝跡出土遺物観察表……………95
第4表	第1号竪穴遺構出土遺物観察表……………85	第10表	第2号溝跡出土遺物観察表……………96
第5表	第2号竪穴遺構出土遺物観察表……………85	第11表	第4号溝跡出土遺物観察表……………97
第6表	第3号竪穴遺構出土遺物観察表……………86	第12表	グリッド・表採遺物観察表……………98

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経過

平成元年9月7日、市内大字西別府字西方において有限会社池田製材所から資材置場（後に会社事務所）及びその取り付け道路建設予定があるため埋蔵文化財の取り扱いについての協議があった。この際、熊谷市教育委員会は、当該地は周知の遺跡及び遺跡の存在する可能性が高い地域であり、埋蔵文化財の詳しい所在を確認するための試掘調査の協力依頼をした。

平成元年9月22日付けで、同開発業者から熊谷市教育委員会教育長あてに、当該地の埋蔵文化財の所在を確認するための試掘調査依頼を受けた。そこで、平成元年10月30日に試掘調査を実施したところ、古墳時代後期から中世かけての住居跡・土壌・溝跡、土師器・須恵器・瓦・板石塔婆片が検出され、埋蔵文化財の詳しい所在が確認された。本教育委員会は確認調査の結果を受け、西別府廃寺（県遺跡番号59-003）の遺跡範囲が広がった旨、埼玉県埋蔵文化財包蔵地カードの変更増補を行った。

これを受け、平成元年11月8日付け元熊教社収第656号で有限会社池田製材所あてに下記のとおり回答した。

当該地は、現状で保存するか、または埋蔵文化財に影響を及ぼさない方法での開発が望ましい。やむを得ず埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は、文化財保護法第57条の2の規定により事前に文化庁へ埋蔵文化財発掘届出を提出し、記録保存のための発掘調査が必要である。

その後、保存策についての協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、平成2年4月12日に株式会社三昌（旧有限会社池田製材所）・熊谷市間で埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を締結し実施することとなった。

発掘調査に先立ち、事業者から文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が平成2年4月16日付けで提出され、埼玉県教育委員会教育長から教文第3-26号で発掘調査の実施の指示通知があった。そして、熊谷市教育委員会教育長は、文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を平成2年4月18日付け2熊教社発第65号で提出した。これに対して文化庁から平成2年10月22日付け2委保記第5-2069号で受理通知があった。

発掘調査は、平成2年4月20日から開始した。

2 発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

西別府廃寺の発掘調査は、平成2年4月20日から平成2年8月31日にかけて行われた。調査面積は、遺跡面積48,000㎡の内会社事務所建設及びその取り付け道路舗装工事によって破壊をうける1,530㎡であった。

平成2年4月20日から遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行い、4月23日から表土剥ぎと並行して遺構精査作業を行った。重機による表土剥ぎ作業は、5月28日までの期間中の4日間行った。遺構精査作業の結果、住居跡、溝跡、土坑等の遺構とともに瓦が多数検出され、順次遺構の調査に着手した。

遺構の検出は、遺跡の地山がローム層であったため容易ではあったが、後世の攪乱を受けた箇所が多く遺構の遺存状態が心配された。その攪乱箇所は、調査面積の約40％にまで及んでいた。

平成2年8月31日には、調査のすべてを終了した。

(2) 整理・報告書作成作業

整理作業は、平成3年4月1日から始めた。遺物の洗浄・注記・復元を行い、それと同時に遺構の図面整理作業を行った。12月までに順次、遺物の実測・拓本取り・写真撮影を行い、遺構の最終的な図面整理を行った。12月から平成4年2月にかけて遺構・遺物図面のトレース、遺構図・遺物図版組を行い、2月下旬には、原稿執筆、割付をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、3月31日に本報告書を刊行した。

3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 熊谷市教育委員会

(1) 発掘調査（平成2年度）

教育長	関根幸夫
教育次長	島田和男
社会教育課課長	高田普通
課長補佐	岡田伸洋
係長	金子正之
主事	権田宣行
主事	吉野 健

(2) 整理・報告書刊行（平成3年度）

教育長	関根幸夫
教育次長	島田和男
社会教育課長	高田普通
課長補佐	翠田晴夫
係長	金子正之
主事	権田宣行
主事	吉野 健

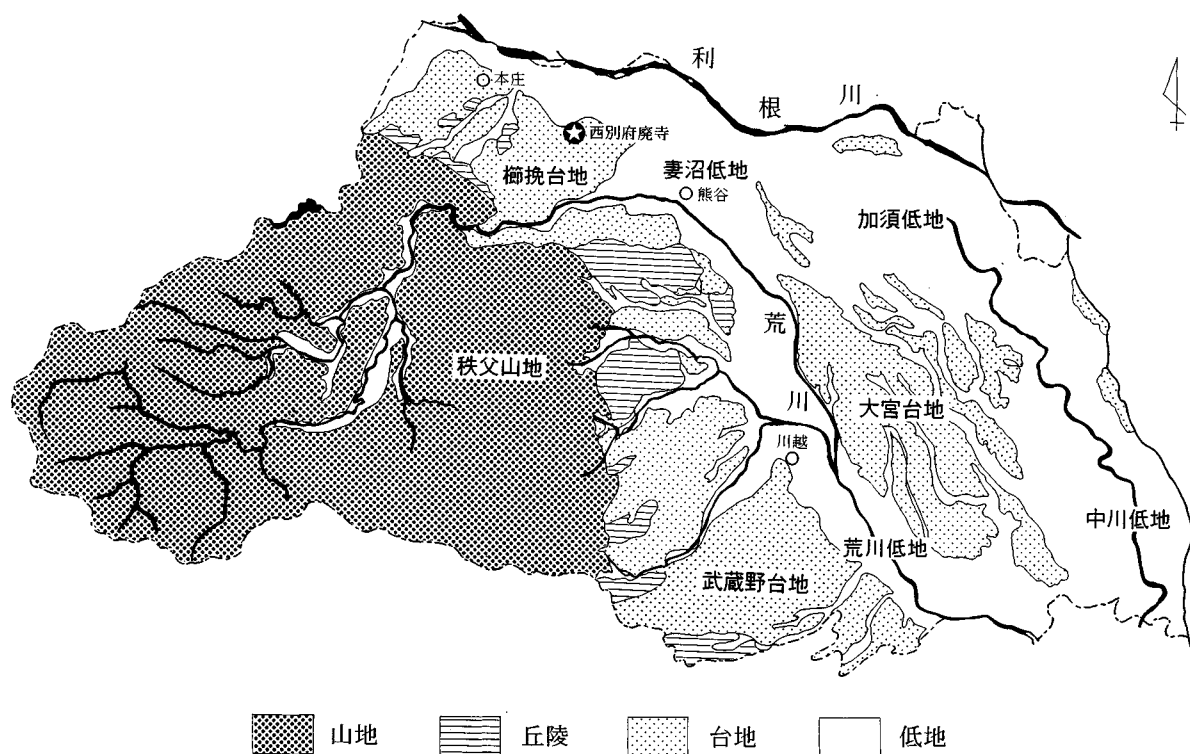
Ⅱ 遺跡の立地と環境

西別府廃寺は、熊谷市大字西別府字西方1594-12他に所在し、J R 高崎線籠原駅の北約 3.0km、荒川から北へ約6.0km、利根川から南へ約4.5km に位置する。

西別府廃寺の所在する西別府地区は、熊谷市の北西部にあたり、櫛挽台地の北端にある。櫛挽台地は、寄居町末野付近を扇頂に、荒川の両岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地の荒川左岸側の一帯が浸食されてできたものである。そして、この櫛挽台地の北には、利根川及びその支流により形成された沖積地である妻沼低地が広がる。この妻沼低地は、熊谷市の大半を覆っている沖積扇状地の新荒川扇状地（熊谷扇状地）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、櫛挽台地の北縁、標高約33m前後に立地し更地となっていた。遺跡に北側には、比高差約3mをもって妻沼低地が広がる。台地と低地と境には、湯殿神社裏の湧水堀から旧別府小学校跡地北側へと堀が続く別府沼が存在する。本遺跡を覆っていた土は概ね褐色土及び黒褐色土で、おおよそ50cm の厚さをもっていた。基壇と思われる箇所は、現在でも若干の高まりをもっている。

次に、本遺跡を中心に櫛挽台地及び妻沼低地における歴史的環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、旧石器時代から縄文時代であるが、この時期の遺跡の発見例はきわめて少ない状況である。旧石器時代で知られているのは、平安時代の住居跡の覆土中から出土した籠原裏遺跡の黒曜石製の尖頭器が唯一の例である。縄文時代になると、櫛挽台地上さらには妻沼低地上にも発見例が少々増える。寺東遺跡では前期関山式土器が、三尻林遺跡でも前期黒浜式期の集落が発見されている。そして、同じく三尻天王遺跡では中期から後期の集落が発見されており、妻沼低地には石田遺跡も存在する。中期から後



第1図 埼玉県の地形図



- | | | | | |
|------------|-------------|------------|-----------|------------|
| 1. 西別府廃寺 | 9. 樋ノ上遺跡 | 17. 別府古墳群 | 25. 籠原裏遺跡 | 33. 玉井陣屋跡 |
| 2. 三尻林遺跡 | 10. 上辻遺跡 | 18. 玉井古墳群 | 26. 西方遺跡 | 34. 奈良氏館跡 |
| 3. 三尻天王遺跡 | 11. 下辻遺跡 | 19. 原島古墳群 | 27. 黒沢館跡 | 35. 東遺跡 |
| 4. 寺東遺跡 | 12. 天神下遺跡 | 20. 坪井古墳群 | 28. 若松遺跡 | 36. 社裏遺跡 |
| 5. 三ヶ尻上古遺跡 | 13. 新ヶ谷戸遺跡 | 21. 石原古墳群 | 29. 社裏北遺跡 | 37. 社裏南遺跡 |
| 6. 横間栗遺跡 | 14. 西別府祭祀遺跡 | 22. 広瀬古墳群 | 30. 五反畑遺跡 | 38. 入川遺跡 |
| 7. 石田遺跡 | 15. 横塚山古墳 | 23. 三ヶ尻古墳群 | 31. 西別府館跡 | 39. 深町遺跡 |
| 8. 三尻中学校遺跡 | 16. 木の本古墳群 | 24. 宮塚古墳 | 32. 別府城跡 | 40. 別府条里遺跡 |

期には、前述の寺東遺跡で埋甕を伴う土坑や敷石住居跡等が発見されており、豊富な土器群が検出された入川遺跡や深町遺跡も知られる。また、深谷市に目を転じてみると、自然堤防上で発掘調査された中期後葉から後期の遺跡が存在する。本郷前東遺跡・原遺跡等である。このことから、熊谷市だけに限らず深谷市においても妻沼低地の自然堤防上に生活の場を展開していったことが窺える。

一方、縄文時代晩期から弥生時代前半にかけての熊谷市内の発見例はほとんどなく、縄文時代晩期の深谷市の妻沼低地では、前述の遺跡を継承した位置に再び集落が営まれたようである。

次に熊谷市内において本格的展開の知られる遺跡は、現段階では弥生時代中期まで待つことになる。須和田式期の再葬墓が13基発見された横間栗遺跡、同じく須和田式期の壺が発見されている三ヶ尻上古遺跡が知られる。市内東部にある平戸遺跡も同時期の遺跡として挙げられる。また、行田市小敷田遺跡では関東地方で最も古い段階の須和田式期の方形周溝墓が検出されている。一方、同時期の集落や住居跡が検出されている遺跡としては、池上遺跡（市内東部）が存在する。後期には妻沼低地の各地に遺跡が見られ始め、深谷市明戸東遺跡・妻沼町弥藤吾新田遺跡・東沢遺跡（市内北東部）・行田市池守遺跡が存在する。明戸東遺跡・東沢遺跡・池守遺跡では吉ヶ谷式土器が、弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。横間栗遺跡・別府条里遺跡・中耕地遺跡・東沢遺跡・北島遺跡・天神遺跡、深谷市明戸東遺跡・東川端遺跡・本郷前東遺跡、弥藤吾新田遺跡、小敷田遺跡等がある。横間栗遺跡では住居跡が3軒、北島遺跡では21軒検出されており、北島遺跡さらには弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。小敷田遺跡では畿内や東海地方等の外来系の土器が多数出土しており、東沢遺跡とあわせて河川跡から鋤・鍬をはじめとした多量の木製農具を出土した遺跡として知られている。

墓域の存在としては、東川端遺跡・小敷田遺跡等で方形周溝墓群が検出されていて、各々5基・17基である。特に東川端遺跡第2号方形周溝墓からは、パレススタイルの大型壺が出土している。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降となるようである。北島遺跡・権現山遺跡・常光院東遺跡（いずれも市内北東部）等で遺構・遺物が検出されている。北島遺跡では住居跡から須恵器の甕を模倣した土師器小型壺が、権現山遺跡では出現期の竈をもつ住居跡が検出されている。また、集落内の祭祀は東川端遺跡に確認されていて、遺物が集中分布している谷にむかう斜面部で剣形の滑石製模造品が検出されている。また、古墳に目を転じてみると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防上に横塚山古墳が存在する。これは、B種横刷毛の埴輪をもつ前方後円墳（後円部は一部欠損）である。

そして、後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりでなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は、古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地上及び新荒川扇状地上では、樋ノ上遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居跡が90軒以上検出され、このうち古墳時代後期のものは14軒以上を数える。また上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居跡が50軒以上検出された。三尻天王遺跡や三尻中学校遺跡でも後期の集落が検出されている。一方妻沼低地の自然堤防上では、天神下遺跡・原遺跡・東川端

遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡等が存在する。

一方、古墳を見てみると群を形成して築造されているのがわかる。櫛挽台地上の別府古墳群・籠原裏古墳群（籠原裏遺跡内）・三ヶ尻古墳群・深谷市木の本古墳群、新荒川扇状地上の玉井古墳群・原島古墳群・広瀬古墳群・坪井古墳群・石原古墳群・肥塚古墳群（市内中央部北）、妻沼低地上の深谷市上増田古墳群・中条古墳群（市内北東部）等が分布する。これらは概ね6世紀から7世紀ないしは8世紀初頭にかけて形成された古墳群である。

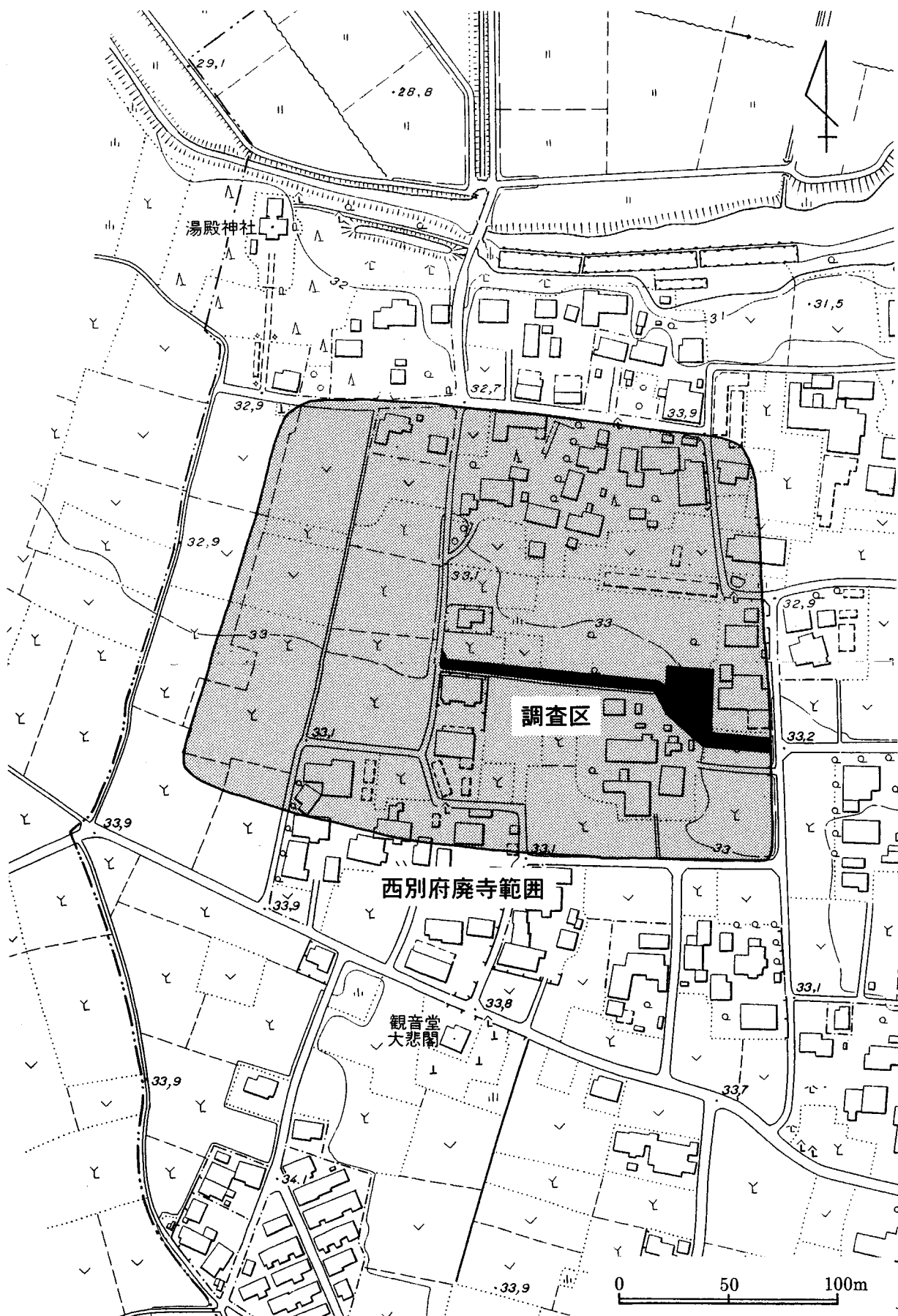
別府古墳群は、農夫の埴輪を出土している。籠原裏古墳群は川原石乱石積の胴張型横穴式石室を有する古墳群であるが、7世紀末の築造と考えられる八角形の墳形をもつ古墳の存在が知られており、終末期の古墳の様相、さらには本遺跡である8世紀初頭創建の西別府廃寺との関係においても見逃すことのできない発見である。三ヶ尻古墳群は、前方後円墳の二子山古墳を盟主墳とする100基以上の古墳で構成される大古墳群であるが、現在でも61基の所在が確認されている（消滅・半壊を含める）。玉井古墳群に含まれると考えられる新ヶ谷戸遺跡1号墳でも川原石使用の胴張型横穴式石室が発掘調査によって発見されている。また、広瀬古墳群中の宮塚古墳は、上円下方墳という特異な墳形を今に残し、熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。

古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするものの奈良・平安時代へと継続されていく。新屋敷東遺跡・明戸東遺跡は、竪穴式住居を主体に少量の掘立柱建物で構成された集落である。他に東川端遺跡等が挙げられる。奈良時代には、この地域も律令制体制に組み込まれていき、別府条里遺跡等が見られる。このころの中心的遺跡は櫛挽台地上に見られ、この地域には幡羅郡が設置され、台地上に「原郷」の地名が残り、前述のとおり西別府廃寺が存在する。以前から軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦が多量に表採され、瓦は8世紀初頭から9世紀後半のものまで確認されており、県内でも滑川町寺谷廃寺に次いで最も古い建立の寺院の一つとして認識されている。また、その北西約200mの湯殿神社裏の湧水箇所には西別府祭祀遺跡が所在し、奈良時代を中心とする古墳時代後期から平安時代までの土師器・須恵器と共に馬形・櫛形・勾玉形・有孔円板形・有線円板形・剣形等の滑石製模造品が約150点発見されており、県内でも類例がほとんどない水辺の祭祀の実態を考える上で貴重な遺跡である。本遺跡の西別府廃寺は、この祭祀遺跡との関係を考慮に入れば、幡羅郡の郡寺的な機能を有すると考えることもできるし、周辺古墳群を形成した有力氏族との関係も想定できる。

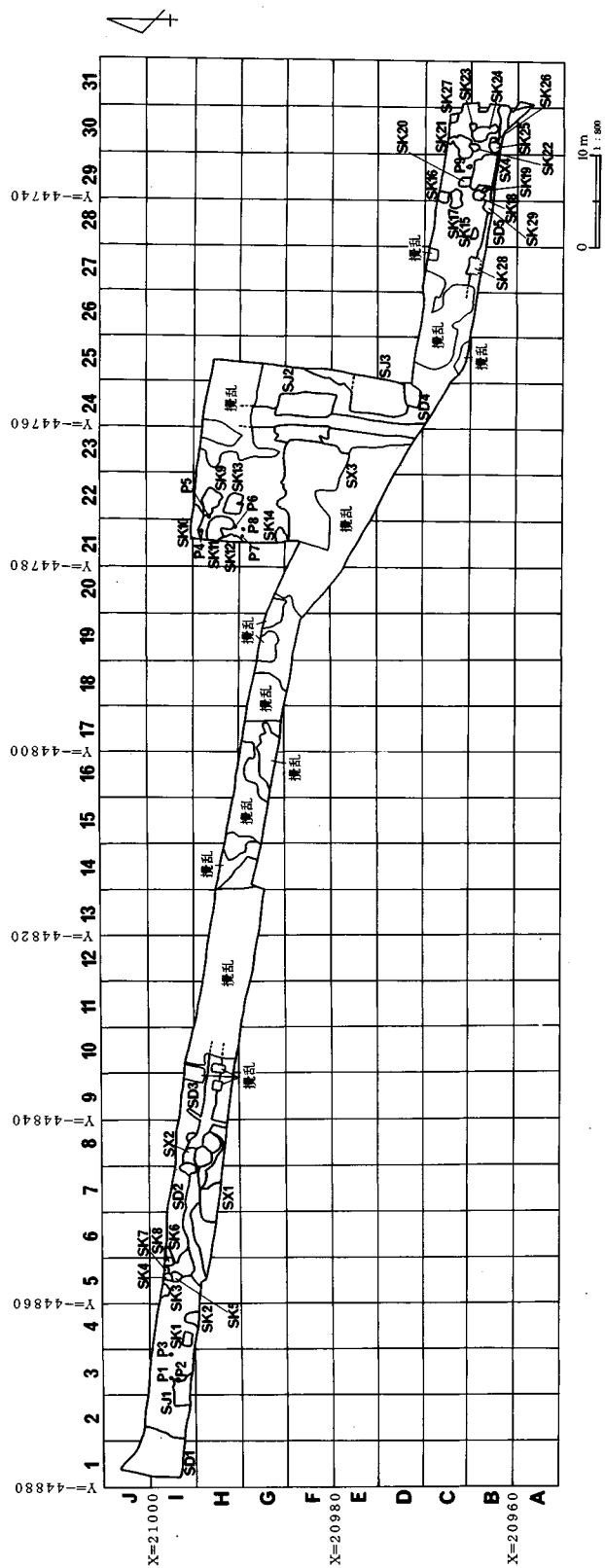
奈良・平安時代の集落遺跡としては、籠原裏遺跡・拾六間後遺跡・堂西遺跡・新ヶ谷戸遺跡・北島遺跡がある。特に北島遺跡は大規模な集落で、多数の住居跡とともに大規模な掘立柱建物跡等興味深い発見がされている。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。別府城跡・別府氏館跡・西別府館跡・玉井陣屋跡・奈良氏館跡・黒沢館跡・兵部裏屋敷、深谷市東方城跡・庁鼻和城跡・幡羅太郎館跡等であるが、いずれの居館も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、本遺跡の東方に所在する別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀を良く残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって出柙形に張り出して台形に全周する堀・土塁の一部・2箇所虎口・柱穴跡・土壇・集石遺構等が検出され、渡辺崋山の記した『訪舘録』に残る「黒沢館跡」の記載と遺構が合致した貴重な例である。遺物としては、14～15世紀の年号

が記載された板石塔婆や15～16世紀の瀬戸・美濃焼の陶器・内耳土器・土師質土器等が出土している。北側に所在する樋ノ上遺跡でも、15～16世紀の土壌・集石遺構とともに比較的深くコーナーをもつ溝跡が検出されており、館跡の一部である可能性が考えられている。墓域としては、三尻天王遺跡・樋ノ上遺跡・若松遺跡・社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡・西方遺跡等があげられ、櫛挽台地及びそれを仰ぐ新荒川扇状地上に分布する。樋ノ上遺跡・若松遺跡では土葬墓・火葬墓等が検出されており、内耳土器・土師質土器・白磁、青磁、常滑、瀬戸等の陶磁器・板石塔婆・石臼等が出土している。また、黒沢館跡及び樋ノ上遺跡の南西に位置する社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡では土壌墓群が、台地上の三尻天王遺跡でも墓地群が、さらに本遺跡の北、台地の縁辺部に位置する西方遺跡では中世から近世にかけての150基以上もの土壌墓が幾重にも重なり合って検出されている。しかし、中世以降の歴史的実態はまだまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、情報の蓄積に期待するところであろう。



第3図 西別府廃寺位置図



第4図 西別府廃寺全測図

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の方法

発掘調査の方法は、1辺5mのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、南西隅をA-1として北へA・B・C……、東へ1・2・3……とし、Aラインは西から東へA-1・A-2・A-3……と呼称した。Bライン以北もAラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

発掘調査は、重機による遺構確認面までの表土剥ぎを行った後、上記のグリッド設定を行った。なお、座標は国家座標IX系に基づく基準点測量による。表土剥ぎ後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手堀りを行った。原則として遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごとに慎重に取り上げた。遺構は写真撮影した後、実測を行った。そして最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

2 検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、調査区の東部および西部に分布し、中央部は攪乱を受けていた。住居跡3軒（奈良時代1軒、平安時代2軒）、竪穴遺構4基（古墳時代後期1基、古墳時代末～奈良時代初頭1基、平安時代1基、近世1基）、土坑29基（古墳時代後期2基、平安時代2基、近世7基等）、ピット9基、溝跡5条（古墳時代後期～平安時代1条、平安時代2条、近世1条等）の遺構、土師器坏・甕・台付甕・羽釜、須恵器坏・蓋・皿・鉄鉢形土器・甕・壺、羽口、鉄滓、瓦（単弁12葉・16葉・9葉蓮華文軒丸瓦、三重弧文・均正唐草文軒平瓦、丸瓦、平瓦、近世瓦）、瓦塔、瓦堂、土鍾、鉄製刀子・釘、土師質土器皿、陶磁器（碗、皿、灯明皿、鉢、片口鉢、擂鉢等）、焙烙、砥石、板石塔婆、石臼、古銭等の遺物が検出され、コンテナ約60箱分の出土量であった。遺物は古墳時代後期から近世まで幅広く、住居跡（特に第3号住居跡から平安時代の遺物）、竪穴遺構（特に第3号竪穴遺構から近世の遺物）および溝跡（平安時代の遺物）から出土したものが主体で、土坑・ピット等からの出土は少なかった。また、遺構外のグリッド出土遺物や表採遺物も多数を占めた。

Ⅳ 遺構と遺物

1 住居跡

住居跡は総数で3軒確認された。第2号住居跡と第3号住居跡は各々隣接して検出された。第1号住居跡は、調査区西に単独で検出された。深さは、第1・2号住居跡が確認面から約40cm、第3号住居跡が約20～30cmであった。第2・3号住居跡はプランのすべてが、第1号住居跡は部分的に確認されたにすぎなかった。また、第2・3号住居跡とも他の遺構と重複関係にあった。

遺物の出土量は、第3号住居跡が群を抜いて多かった。次いで第2号住居跡、第1号住居跡という順である。特筆すべきことは、第2号住居跡が瓦を多数出土するとともに鉄滓・羽口が検出され、精錬鍛冶ないしは鑄造の工房跡と考えられることである。さらにこの住居跡からは三彩陶器の小壺破片が検出された。また、第3号住居跡からは灯明皿用途と考えられる酸化焰焼成の須恵器坏が多数出土したこと

が挙げられる。

時期は、8世紀中頃、9世紀後半、11世紀代とばらつきがあった。

以下各住居跡ごとに詳細を記載する。

第1号住居跡（第5～8図、第1表）

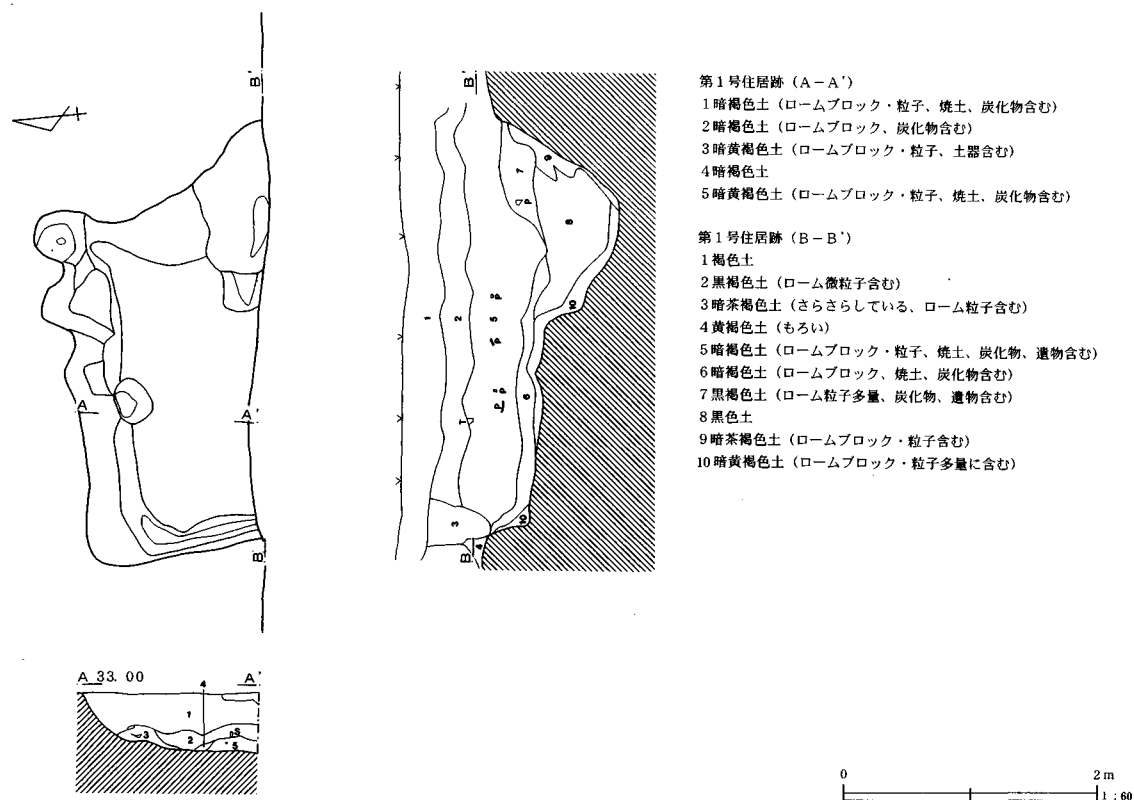
I-2・3グリッドから検出した。遺構は調査区域外へと伸びていた。

平面プランは方形で、規模は一方軸2.85m、深さ0.30～0.45m（カマド箇所は1.05m）であった。規模的には比較的小規模であったが、調査区域外にどれほどのびるか不明であるため長軸が南北の可能性もあり、南北に大きな住居跡とも考えられる余地が残される。主軸方向は、N-95°-Eである。壁溝は西短軸側から北長軸側かけて一部検出された。柱穴や貯蔵穴は検出されなかった。北東隅にピット1基が確認された。

住居跡の覆土は、暗褐色土が主体でローム土のブロックや粒子を含んでいた。

カマドは、住居跡東側の壁に調査区壁が縦に半截するように北側のみ検出された。袖は明確に検出できなかった。カマドはほとんど煙道が残っていなかった。

遺物は、須恵器・土師器の他瓦、羽口、鉄滓が出土した。羽口・鉄滓は第2号住居跡から比べると格段の少ない出土量であったが、鍛冶等の生産工房跡とも考えられる。土器は、土師器杯・甕・甗、須恵器杯・皿・鉄鉢形土器などが出土した。また、カマド焚き口前付近で焼土・炭化物とともに比較的まとまって出土した。土師器杯には灯明皿用途のものが、須恵器杯には墨書のものも含まれていた。また、寺院関連資料として、須恵器鉄鉢形土器（内外面黒色処理）が出土した。



第5図 第1号住居跡

時期は、およそ9世紀の後半でも終わり頃と考えられる。

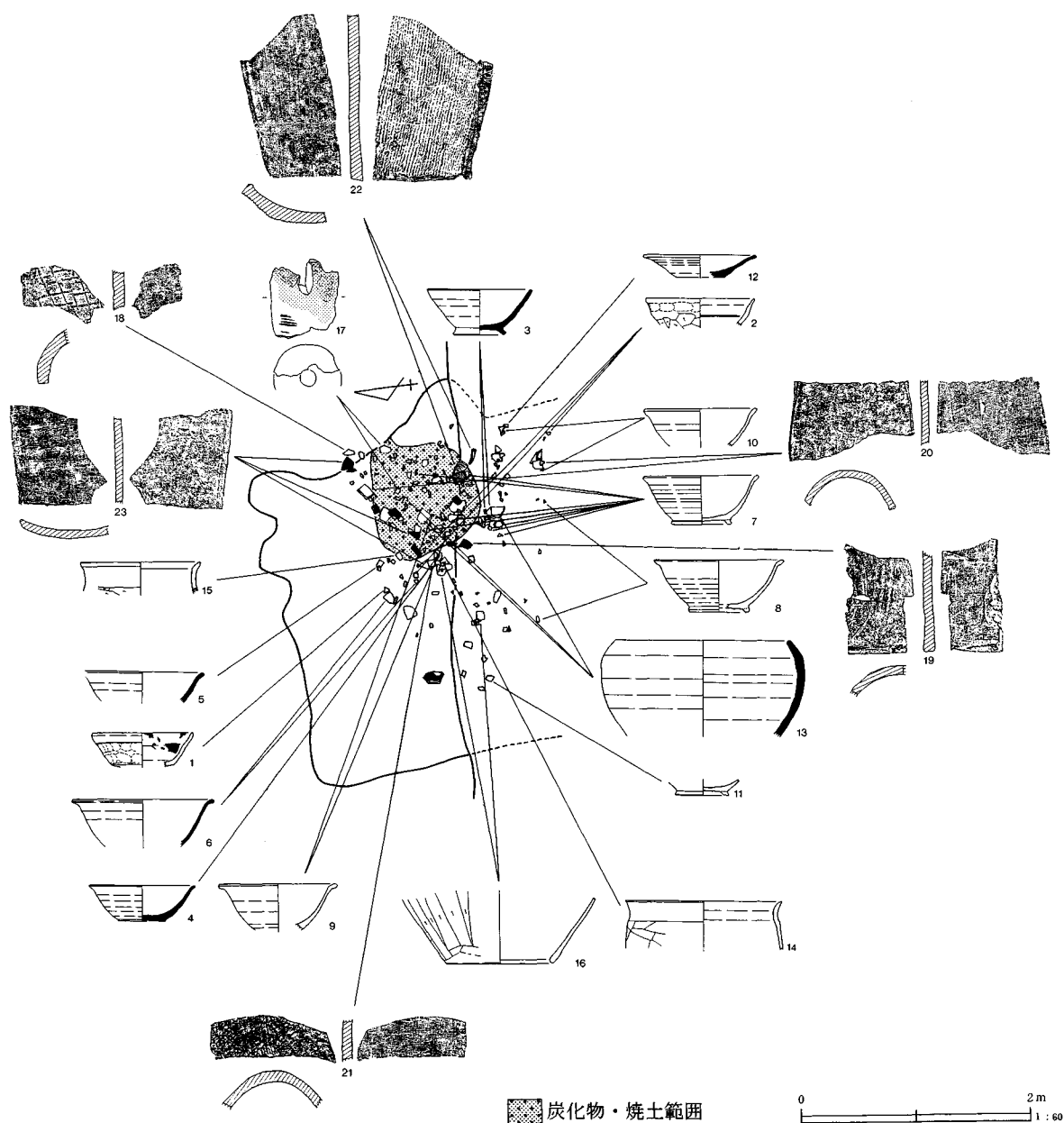
第2号住居跡 (第9～17図、第2表)

E・F・G-23・24グリッドから検出した。遺構は、第4号溝跡と重複関係にあり、溝跡によって住居跡のほぼ中央部が分断されるように壊されていた。

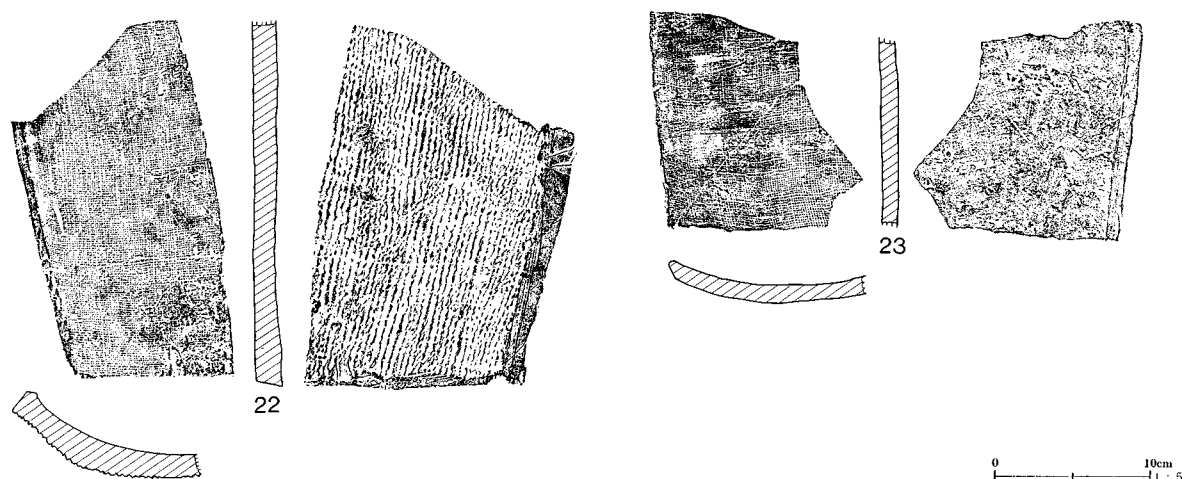
平面プランは方形で、規模は長軸5.90m、短軸4.87m、深さ0.30～0.62mであった。主軸方向は不明である。壁溝や柱穴は検出されなかった。

住居跡の覆土は、暗褐色土・暗茶褐色土・暗黄褐色土が主体で、ローム土粒子が含まれていた。地山のローム土には礫が混じっていた。

カマドは、確認されなかった。



第6図 第1号住居跡遺物分布図



第8図 第1号住居跡出土遺物(2)

住居内の施設としては、舟形の掘り方で不整形な長楕円の鍛冶炉と土坑及びピットを検出した。鍛冶炉は、南北約3.23m、東西約1.02mで、床面から約0.30m掘り窪めている。平面的には、長楕円の穴に不整形な浅い穴が北側に付く形で、覆土は、鉄滓を多量に含む暗褐色土、鉄滓や炭化物を多量に含む黒褐色土、暗黄褐色土が主体で、北側端に鉄滓とともに炭化物・灰が混じった土が堆積していた。北側の浅い土坑の床面に土師器坏が3個体並んで出土した。また、この鍛冶炉の西側にもピット・土坑が並んで検出され、南の2基上の覆土はやはり多量の鉄滓や羽口を含む炭化物・灰混じりの土が堆積していた。一番北の平面形が丸い土坑内では、ほぼ床面から羽口が三重弧文軒平瓦とともに検出された。この瓦は比熱を受け一部が発泡化や還元熔化していた。鉄滓の総重量は、20.48kgを量った。

遺物は、瓦破片の占める割合が高かった。土器は土師器の坏が多く、台付甕、須恵器の坏・蓋・高台碗・甕、三彩陶器小壺、鉄製刀子、鉄釘等が出土した。須恵器高台碗の底部内面には「平」の墨書があった。また、羽口も多量に出土し、前述の箇所その他、北側の壁に並行した溝跡及びその周辺でまとまって検出された。多量に出土した瓦片は、住居跡内の第4号溝跡より東側に散らばって出土し、酸化鉄が付着しているものが多く見られた。また、土師器坏にも付着例が見られた。土師質土器皿が1点出土しているが、流れ込みであると考えられる。

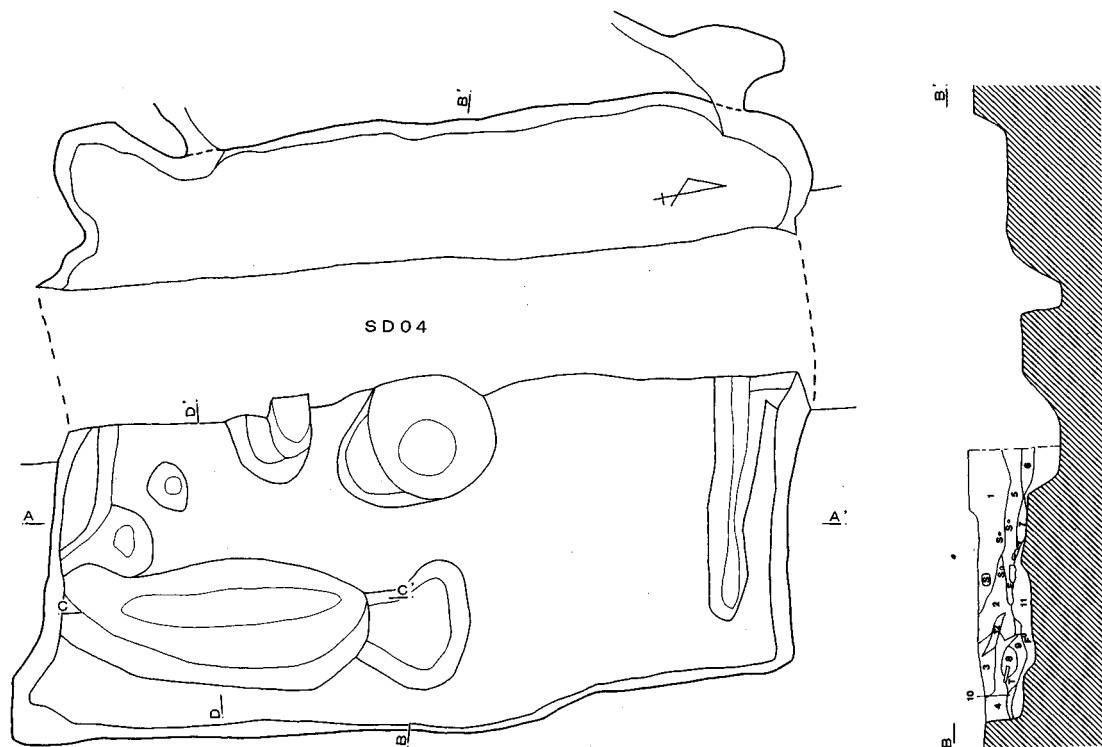
時期は、おおよそ8世紀中頃から後半代と考えられるが、9世紀中頃の土器も含まれていた。

第3号住居跡 (第18～23図、第3表)

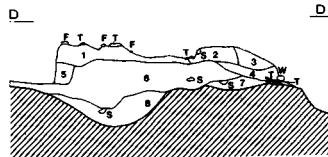
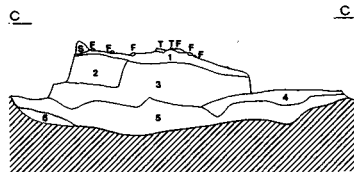
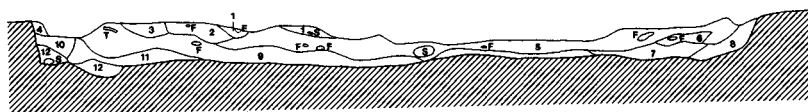
D・E-24・25グリッドから検出した。遺構は他の遺構と重複しており、住居跡の南東隅、東側及びカマドの煙道部分は、調査区域外のため検出できなかった。

調査できた部分より、平面プランは方形で、規模は推定長軸6.35m、残存短軸3.43m、深さ0.18～0.48mであった。主軸方向はN-82°-Eである。壁溝や柱穴は検出されなかった。貯蔵穴と思われるピットがカマド右脇に確認された。また、床面の中央部が2段に掘り窪められていた。

住居跡の覆土は、褐色土及び暗褐色土が主体で、焼土・炭化物さらには礫を含むものであった。床面は礫を多く含む淡黄褐色土（ハードローム土）に作られていた。また、カマド手前左に炭化物・焼土がまとまって検出された。



A_32.50



第2号住居跡 (A-A')

- 1 暗茶褐色土 (ローム微粒子若干、鉄滓含む)
- 2 黒褐色土 (炭化物を多量、鉄滓含む)
- 3 暗褐色土 (焼土、鉄滓含む)
- 4 暗黄褐色土
- 5 暗褐色土 (ローム微粒子、焼土、炭化物、鉄滓含む)
- 6 黒褐色土 (炭化物多量、鉄滓含む)
- 7 灰褐色土 (ローム微粒子多量に含む)
- 8 褐色土 (やわらかくもろい感じ、ローム粒子、炭化物含む)
- 9 暗黄褐色土 (焼土、炭化物、鉄滓、瓦含む)
- 10 黒褐色土 (黒褐色土多量に混じる、ロームブロック含む)
- 11 褐色土 (暗褐色土多量に混じる)
- 12 暗黄褐色土

第2号住居跡 (C-C')

- 1 暗褐色土 (鉄滓多量、砂利含む)
- 2 暗茶褐色土
- 3 暗黄褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 黒褐色土
- 6 暗黄褐色土

第2号住居跡 (B-B')

- 1 暗褐色土 (ローム微粒子、火山灰少量含む)
- 2 褐色土 (全体的に黄色味帯びる、ローム微粒子、火山灰含む)
- 3 暗黄褐色土 (ローム微粒子多量、焼土、炭化物、鉄滓含む)
- 4 暗褐色土 (ローム粒子・微粒子多量、焼土、炭化物多量に含む)
- 5 暗褐色土 (ローム微粒子、下層付近に砂利含む)
- 6 暗茶褐色土
- 7 暗茶褐色土
- 8 暗黄褐色土 (ローム土多量に混じる、焼土、炭化物含む)
- 9 褐色土 (ローム粒子、焼土、炭化物含む)
- 10 黒褐色土 (ローム粒子、多量に含む)
- 11 灰黄褐色土 (褐色土混じる)

第2号住居跡 (D-D')

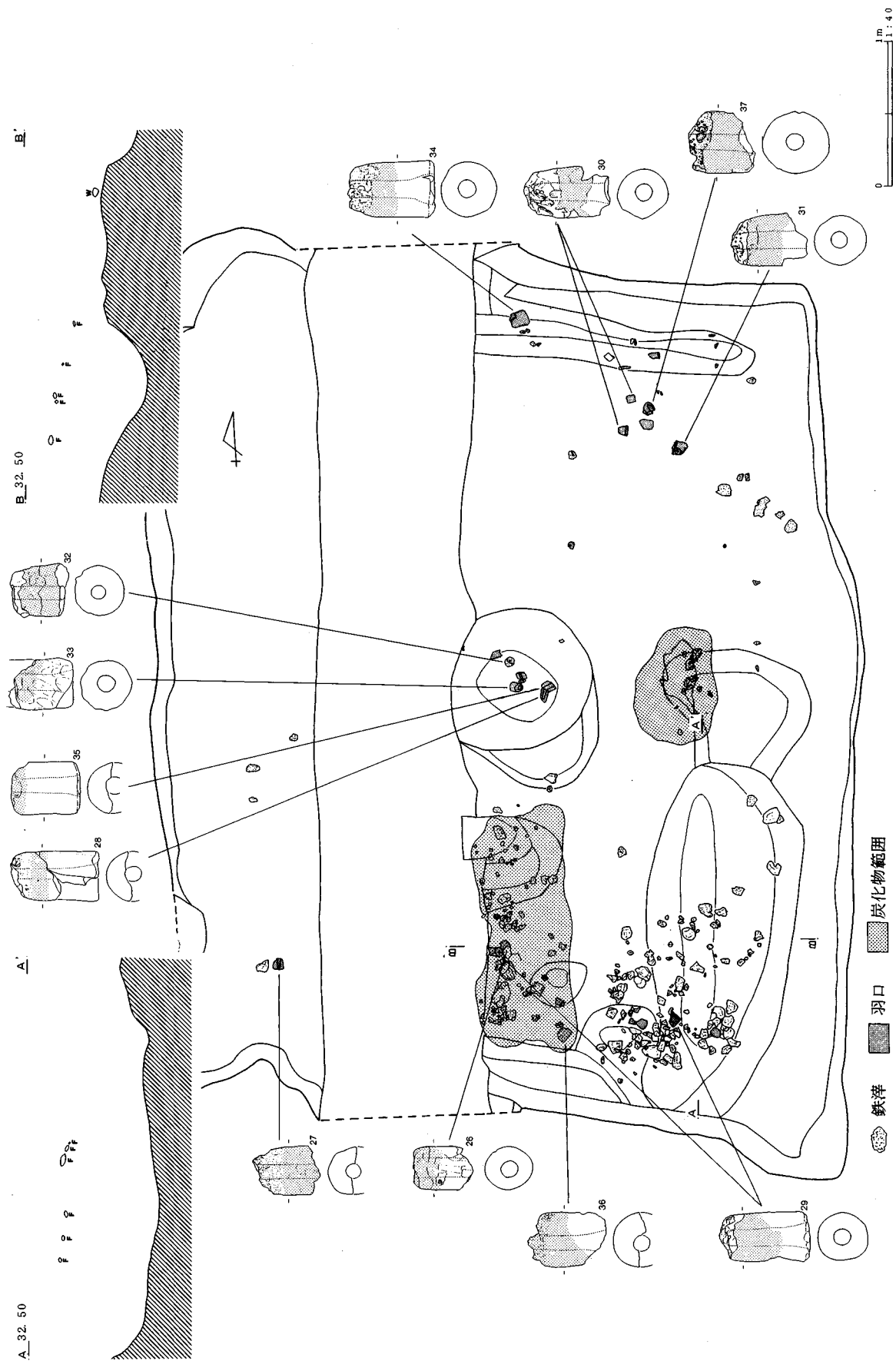
- 1 暗褐色土 (鉄滓多量、砂利含む)
- 2 黒褐色土 (炭化物多量、鉄滓含む)
- 3 暗褐色土 (ローム粒子含む)
- 4 暗赤褐色土 (鉄滓多量、遺物含む)
- 5 暗茶褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 6 暗黄褐色土 (若干褐色味帯びる、ローム粒子含む)
- 7 褐色土 (若干ローム粒子含む)
- 8 黒褐色土

0 2m
1:60

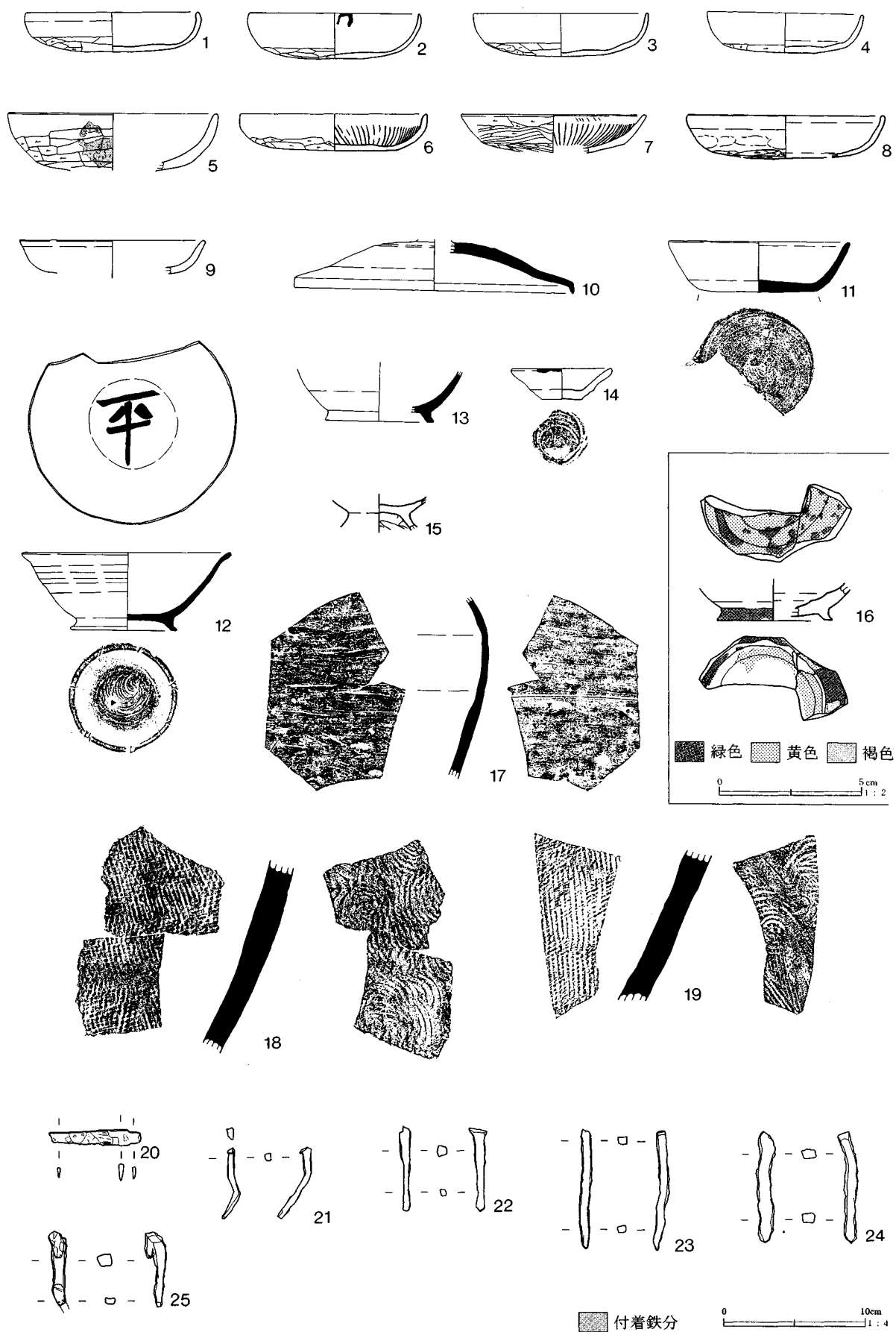
第9図 第2号住居跡



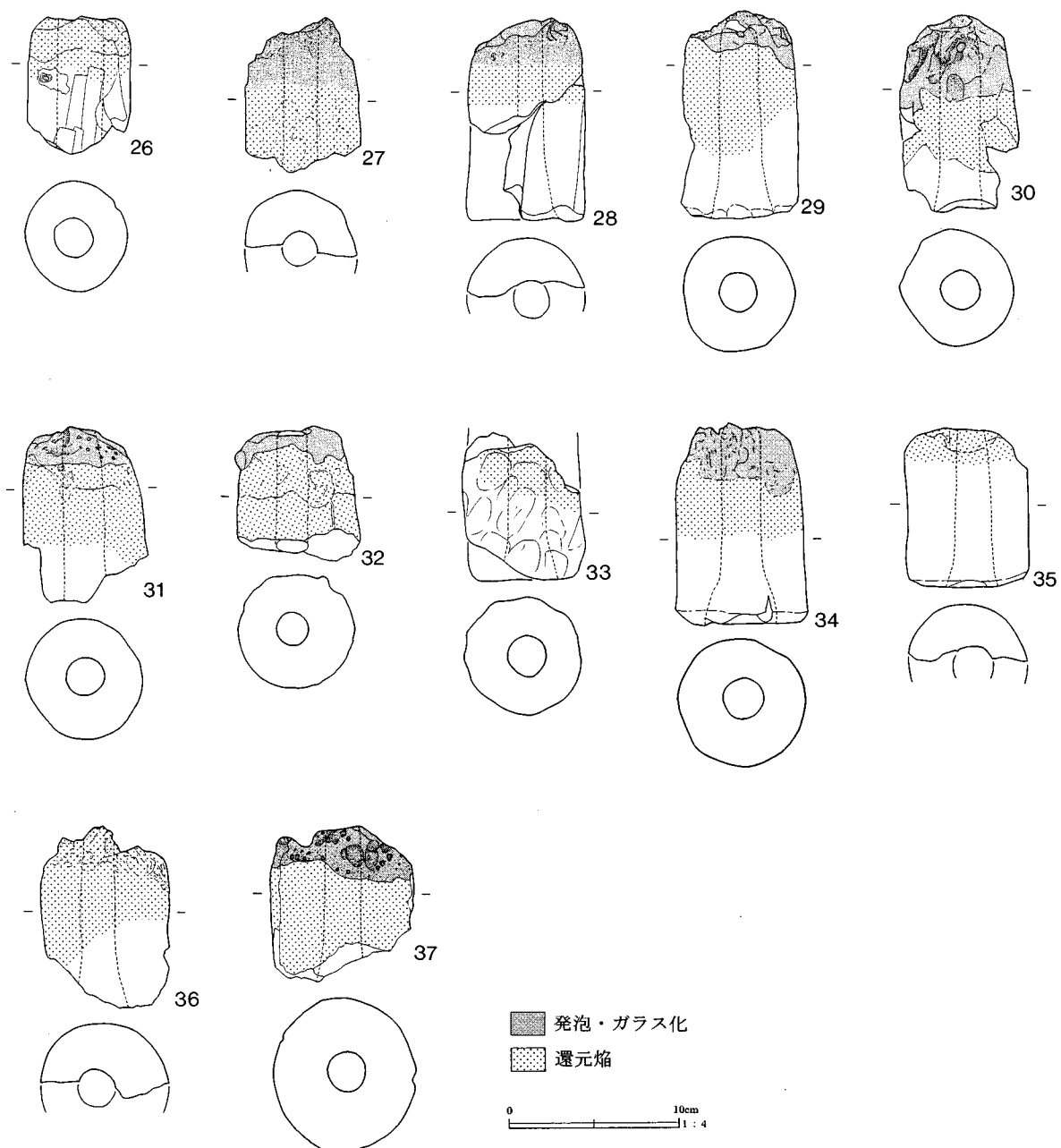
第10图 第2号住居跡遺物分布図



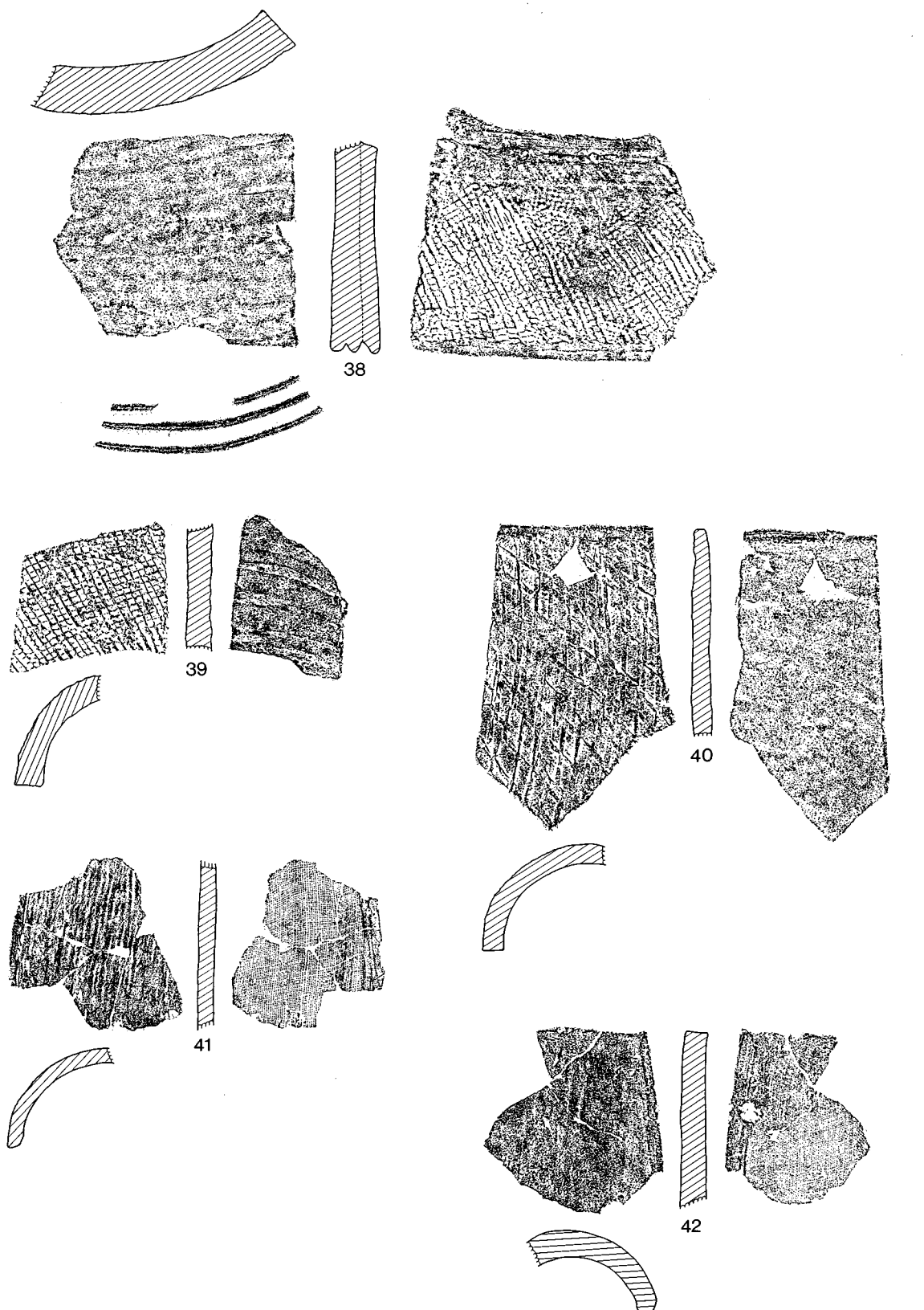
第11図 第2号住居跡 鉄滓・羽口分布図



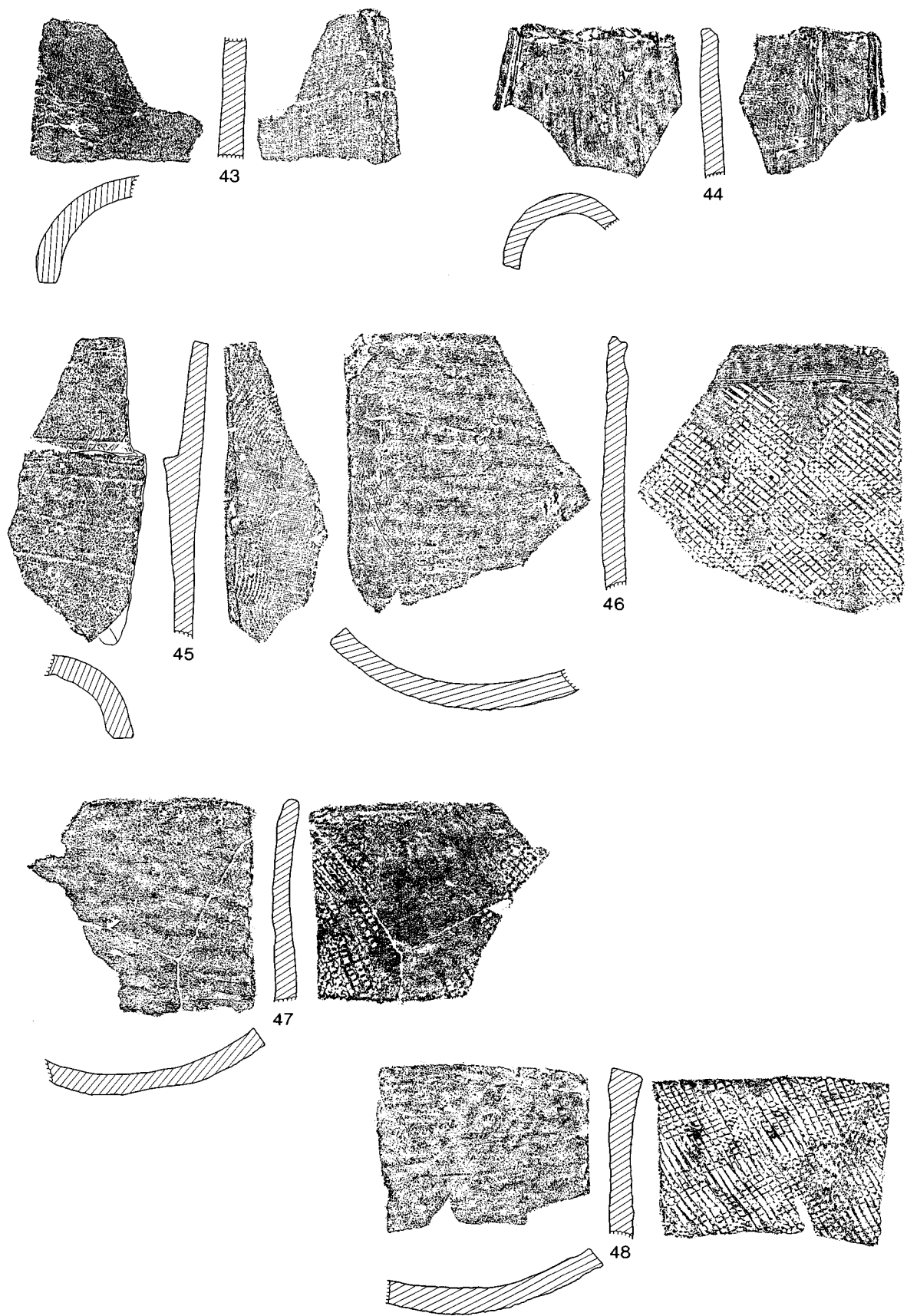
第12図 第2号住居跡出土遺物(1)



第13図 第2号住居跡出土遺物(2)



第14図 第2号住居跡出土遺物(3)

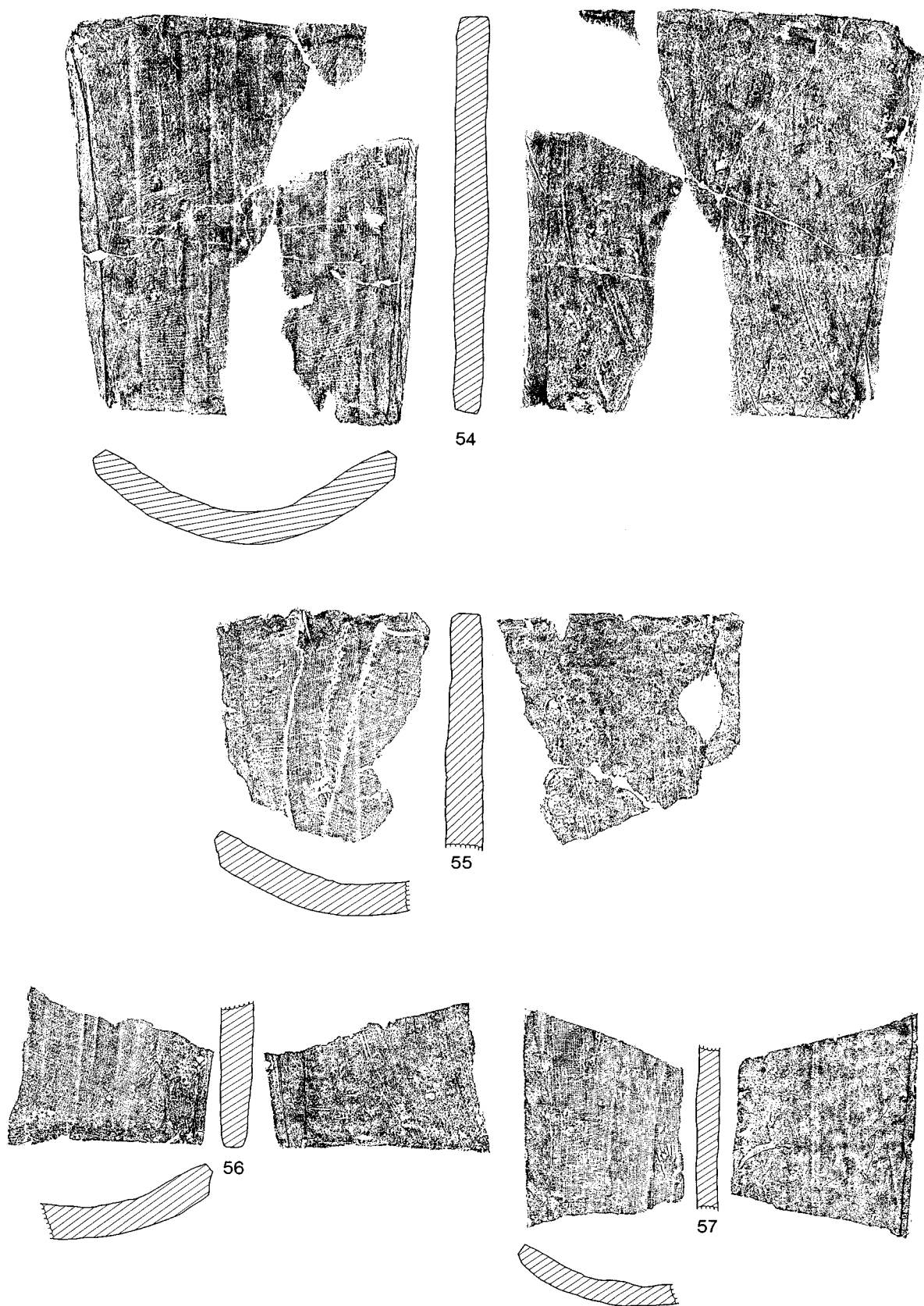


第15図 第2号住居跡出土遺物(4)



0 10cm
1:5

第16図 第2号住居跡出土遺物(5)



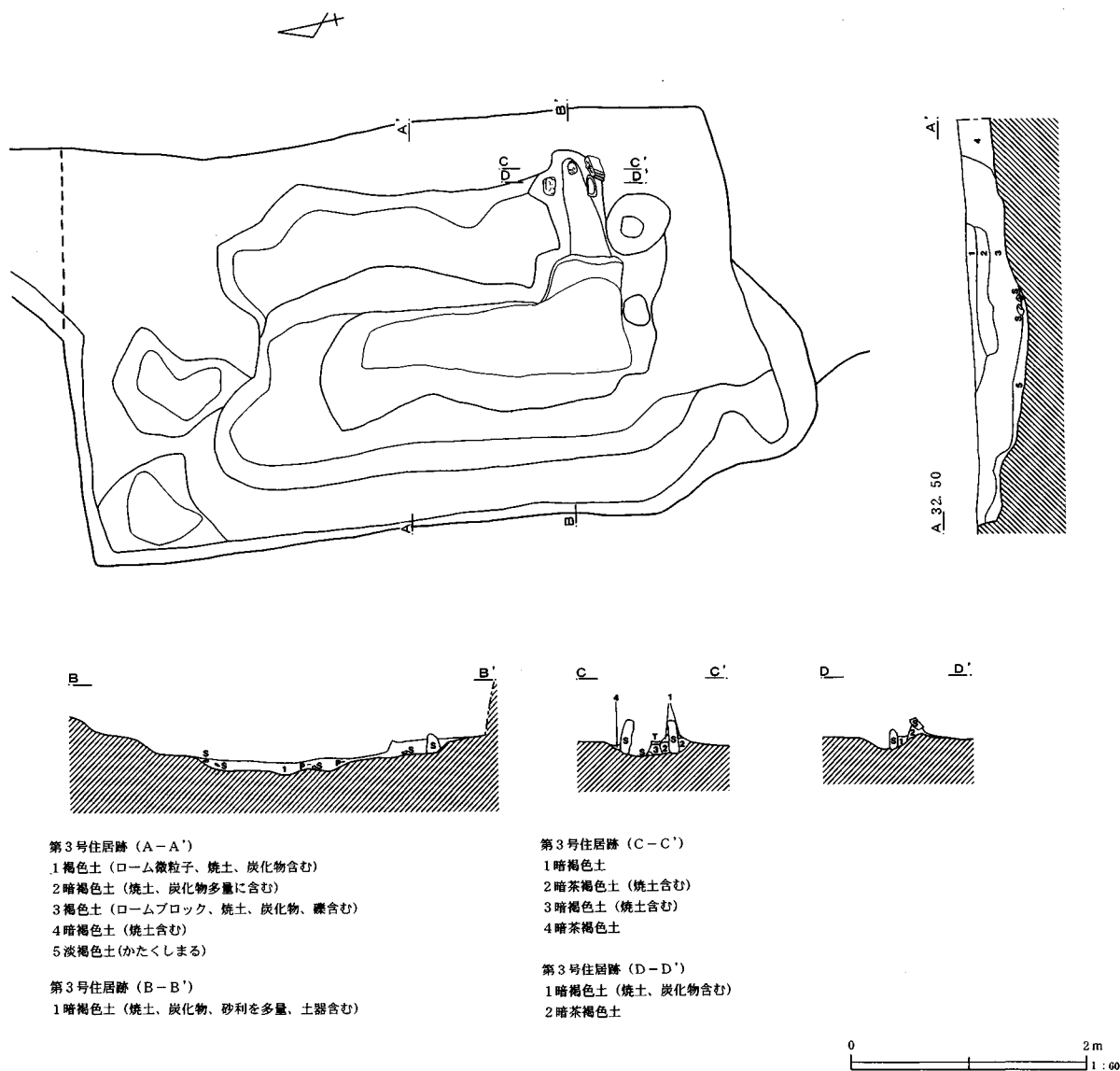
0 10cm
1:5

第17図 第2号住居跡出土遺物(6)

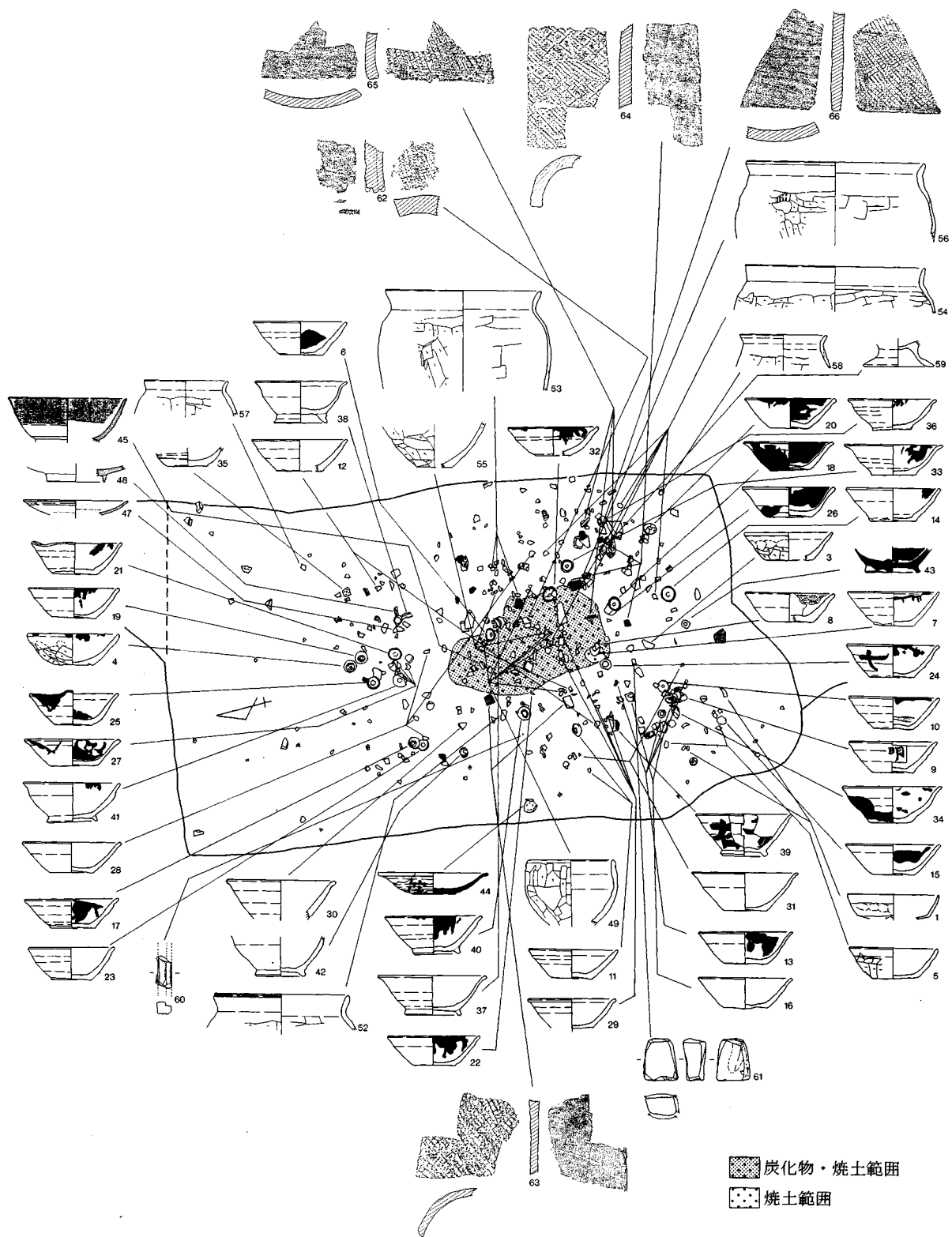
カマドは、住居跡東側の南寄りで検出され、袖の補強材であると考えられる川原石及び緑泥片岩が対の位置で検出された（向かって右側は川原石と緑泥片岩、左は川原石であった）ことから確認できた。対の補強材に挟まれた中央部には支脚としての川原石が地山に据えられた状態で検出され、比熱を受け赤色化していた。袖は、補強材の一部のみで明確に検出できなかった。カマドの煙道は前述のとおり検出できなかった。

遺物は、ほぼ完形の酸化焰焼成の須恵器坏・高台坏が多数、住居跡のほぼ全体で検出された。それらのほとんどに油煙が付着しており、灯明皿用途で使われたと考えられる。中には「明」という墨書が内外面に書かれたものや「有?」、「七」の墨書土器も見られた。その他の土器は土師器坏・鉢・甕・台付甕、須恵器皿、灰釉陶器碗・皿等が出土した。また、瓦塔初軸部破片、三重弧文軒平瓦等の瓦破片、砥石等も出土した。須恵器皿の外面に「院」という墨書が書かれたものが見られ、これは寺院施設を示すものと考えられる。また、この皿の内面底には朱と考えられる痕跡が残っていた。

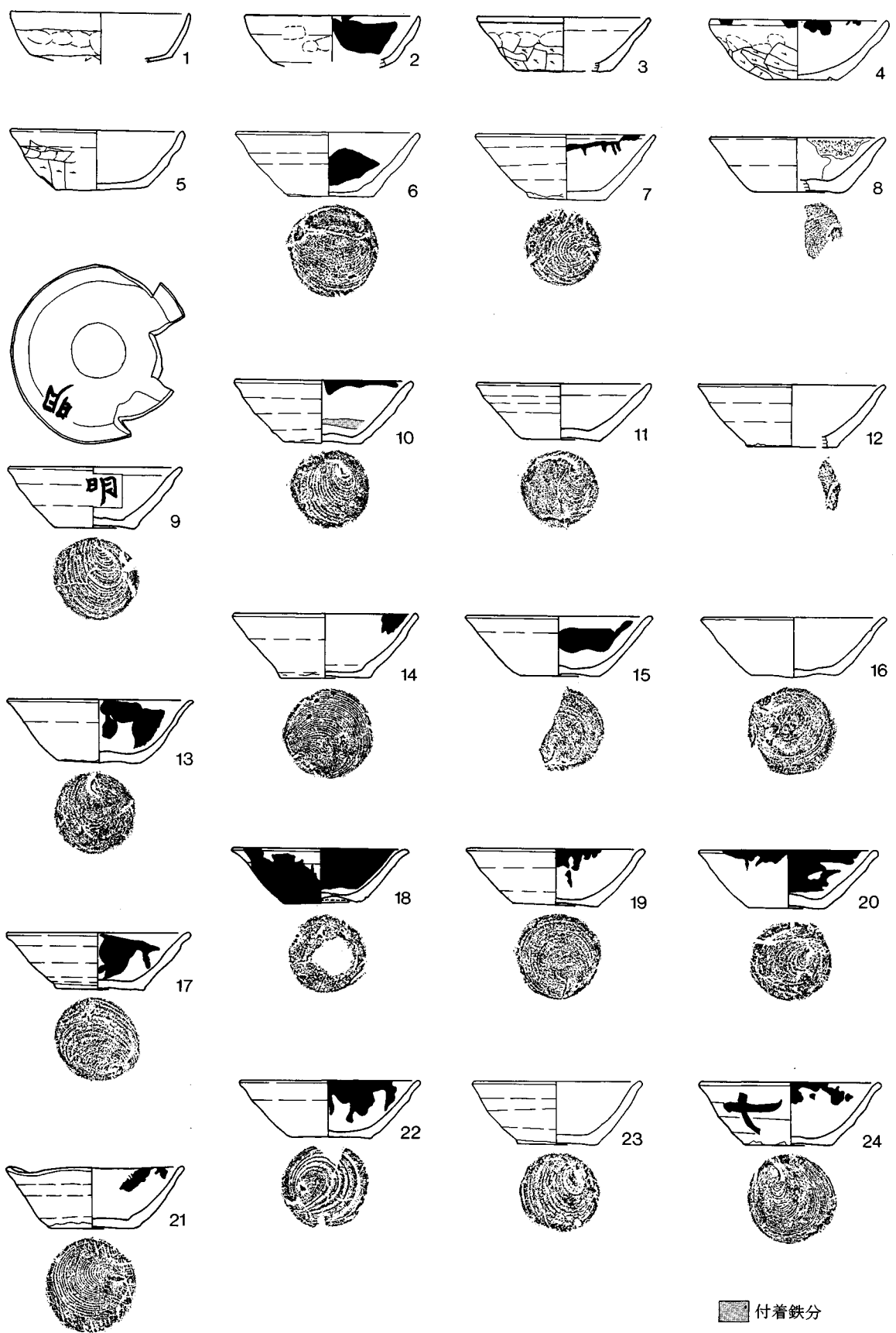
時期は、酸化焰焼成の須恵器及び土師器の甕の特徴からおおよそ11世紀代と考えられる。



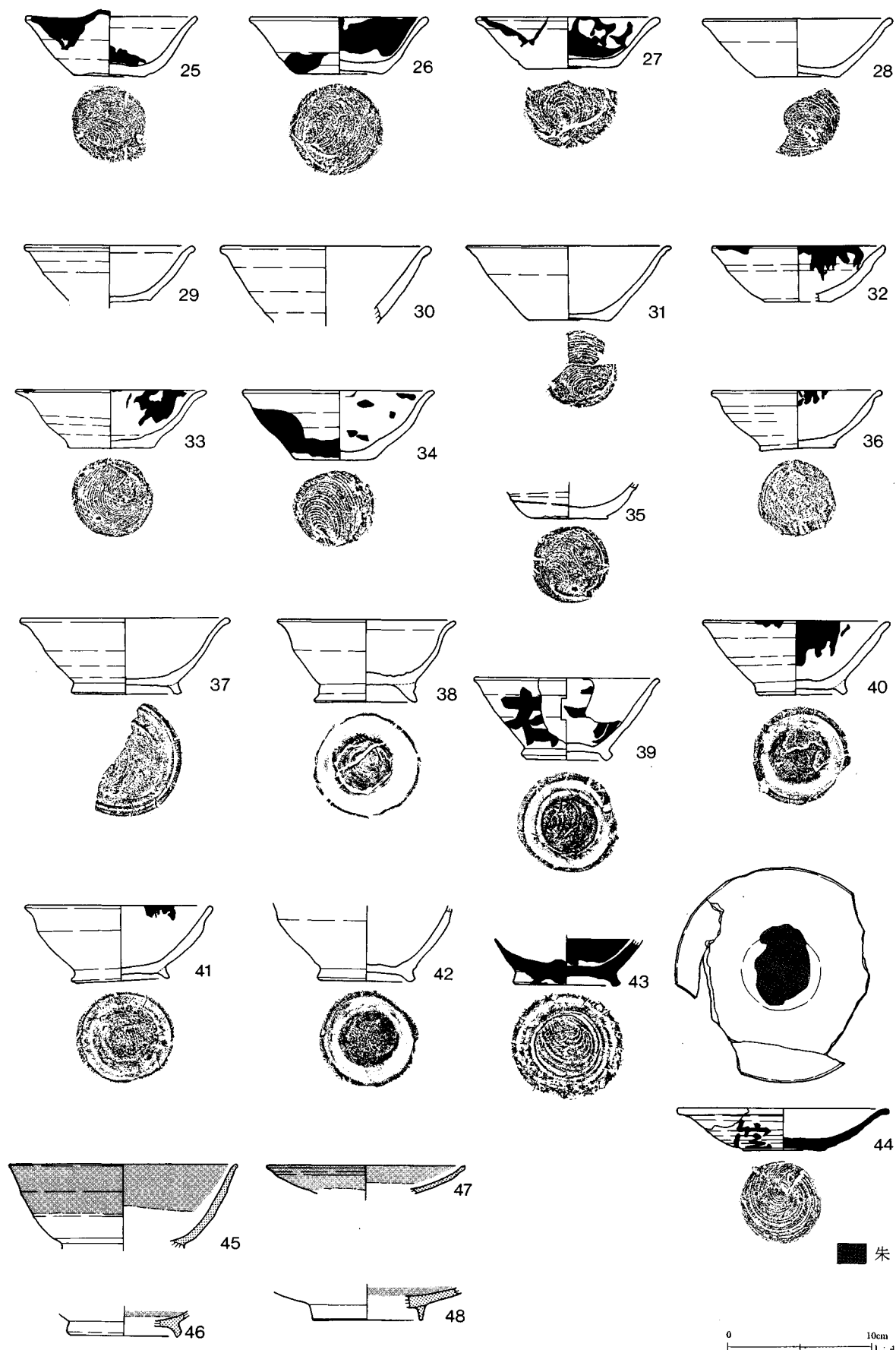
第18図 第3号住居跡



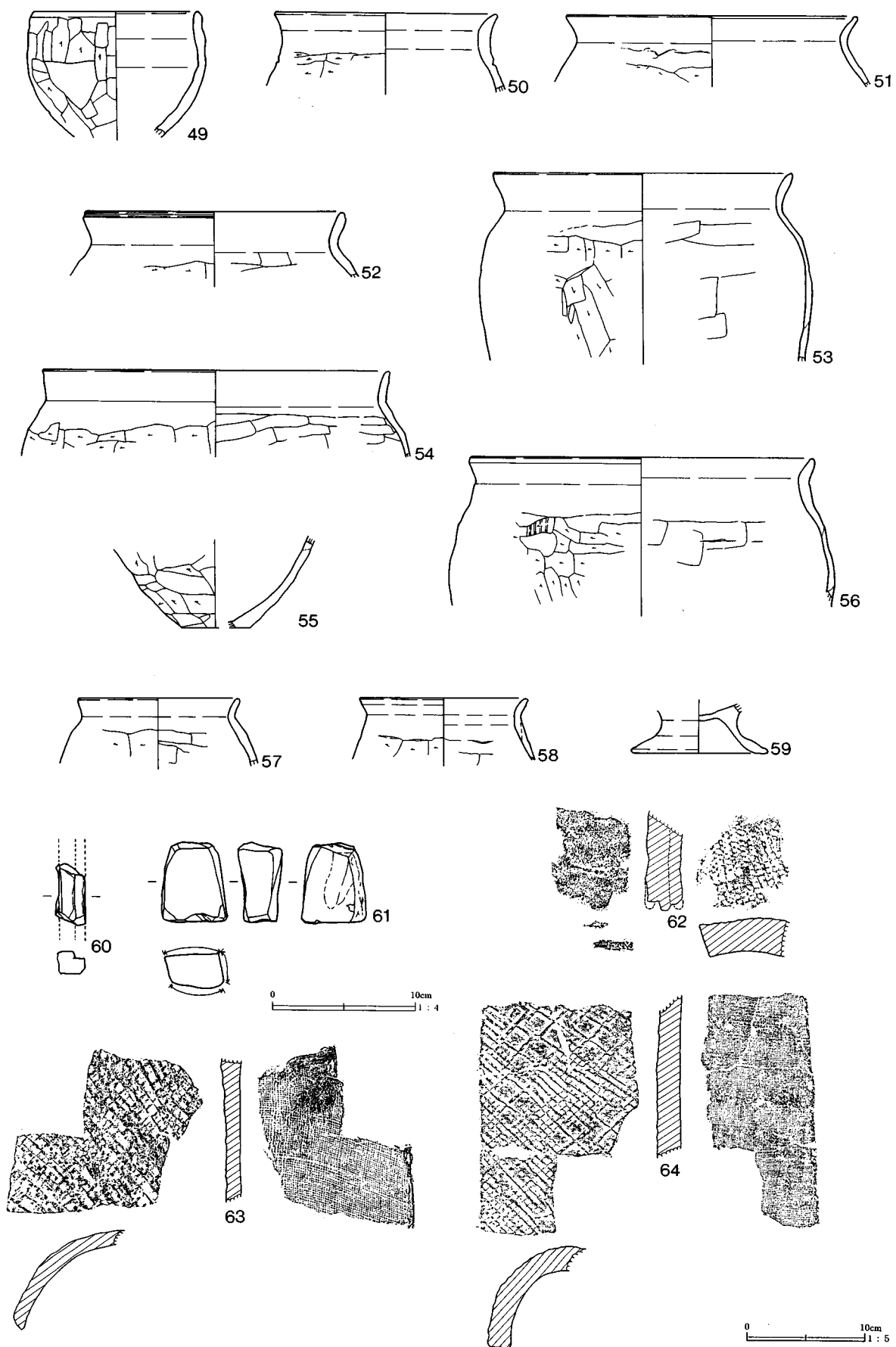
第19図 第3号住居跡遺物分布図



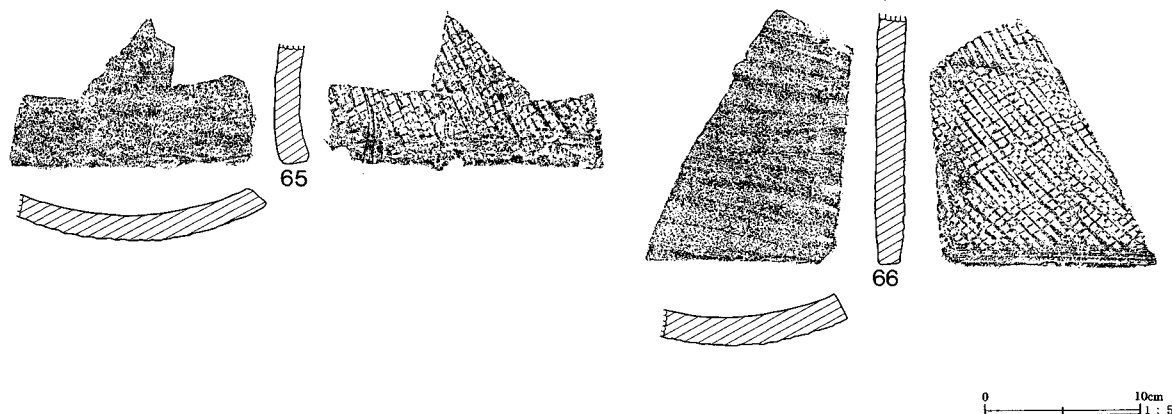
第20図 第3号住居跡出土遺物(1)



第21図 第3号住居跡出土遺物(2)



第22図 第3号住居跡出土遺物(3)



第23図 第3号住居跡出土遺物(4)

2 竪穴遺構

竪穴遺構は総数で4基確認された。第1号竪穴遺構と第2号竪穴遺構は各々近接して検出された。第3号竪穴遺構は調査区東中央寄り、第4号竪穴遺構は調査区東で単独で検出された。深さは、第2号竪穴遺構が確認面から約0.6m、第3・4号竪穴遺構が約0.40～0.45mであった。第2号竪穴遺構はプランのすべてが、第1・3・4号竪穴遺構は部分的に確認されたにすぎなかった。また、第1・2・4号竪穴遺構とも他の遺構と重複関係にあった。

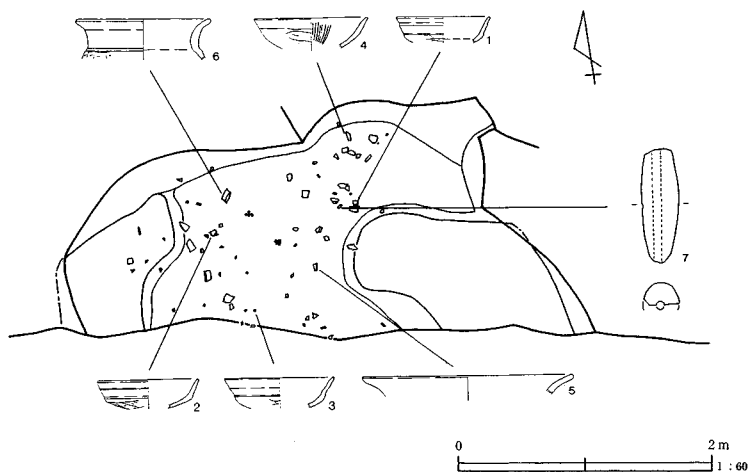
遺物の出土量は、第3号竪穴遺構が群を抜いて多かったが、時期は第1号竪穴遺構が古墳時代後期、第2号竪穴遺構が古墳時代末から奈良時代初頭、第3号竪穴遺構が近世、第4号竪穴遺構が平安時代と時期は様々である。特に第3号竪穴遺構は、遺構全体に川原石が分布し覆土中に多量に含まれており、その川原石に混じって陶磁器、砥石・板石塔婆等の石製品、瓦、鉄釘、古銭等が検出された。

以下各竪穴遺構ごとに詳細を記載する。

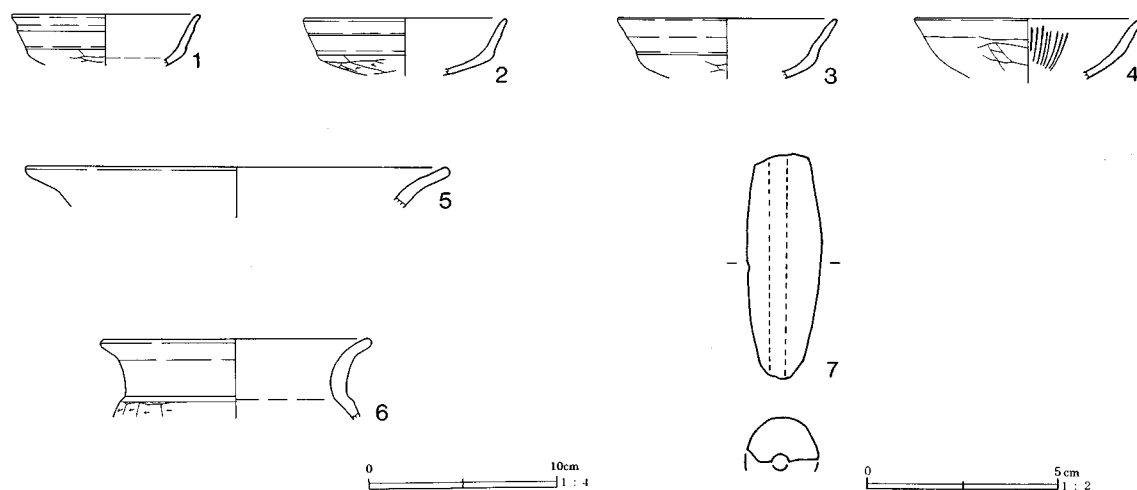
第1号竪穴遺構 (第24・25図、第4表)

H-6・7グリッドから検出した。遺構は、第2号溝跡と重複関係にあり、南部は調査区域外へと伸びていた。

平面プランは隅丸の方形状と推測され、規模は確認された部分で東西長 4.00m、南北長 1.85mであ



第24図 第1号竪穴遺構遺物分布図



第25図 第1号竪穴遺構出土遺物

った。

遺構の中央部が南北に一段低い床面であった。また、西壁及び東壁の一部が袋状の掘り方になっていた。

遺物は、土師器坏・甕、土錘等が出土し、出土量は比較的少ないものであった。

時期は、およそ7世紀後半と考えられる。

第2号竪穴遺構（第26～28図、第5表）

H・I-7・8グリッドから検出した。第2号溝跡と重複関係にあり、溝跡によって遺構の中央部上面が分断されるように壊されていた。

平面プランは長楕円形状で、さらに円形ないしは楕円形に床面が3箇所掘り窪められていて3基の土坑がまとまったような形状であった。規模は、長軸5.75m、短軸3.35m、深さは南部の掘り込み床面で0.95m、中央部で0.66～1.12mであった。

遺構の覆土は、褐色土・暗茶褐色土・暗褐色土が主体で、ローム土粒子が含まれていた。また、南部の掘り込み全体に炭化物・焼土がまとまって検出された。

遺物は、中央部及び南部の掘り込みを中心に分布して検出しており、土師器坏・甕・台付甕・器台形土器、須恵器甕、鉄製刀子等が出土した。鉄製刀子は、恐らく使用による摩耗で切先が若干短くなっているもののほぼ完存状態で出土した。

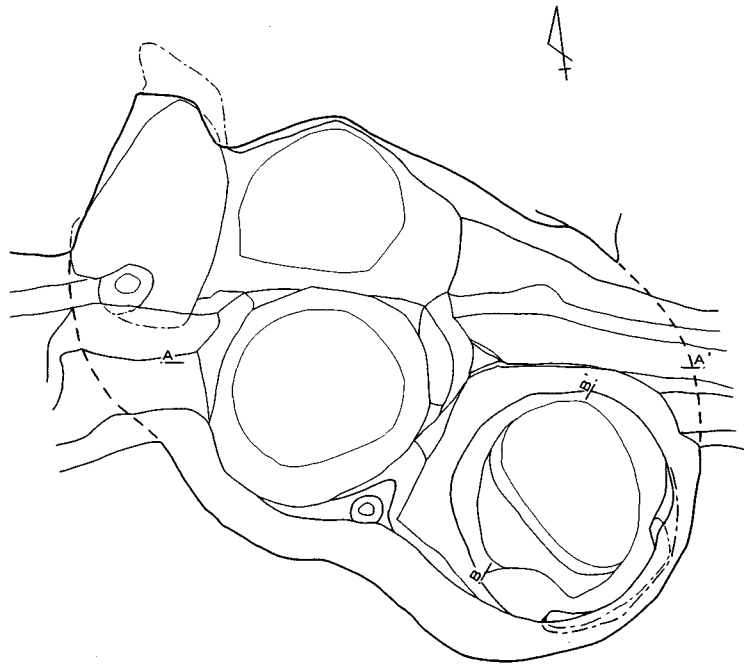
時期は、およそ7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

第3号竪穴遺構（第29～36図、第6表）

E・F-21・22・23グリッドから検出した。遺構は南部及び西部が攪乱を受けており、西部の一部は調査区域外へのびていた。

調査できた部分より、平面プランは方形と推測され、規模は検出東西長10.44m、南北長6.80m、深さ0.34～0.44mであった。床面は、遺構の東側と中央部から西側の2箇所が、その間の南北にのびる帯状の高まりによって区画されていた。

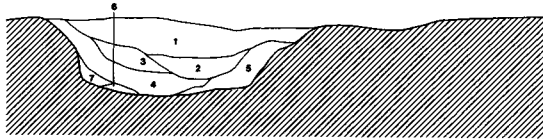
遺構の覆土は、褐色土、暗褐色土、茶褐色土、暗茶褐色土が主体で、床面上の堆積土は暗灰褐色ない



A 33.00

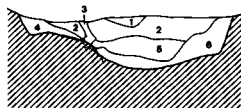
A'

SD02



B

B'



第2号竖穴遺構 (A-A')

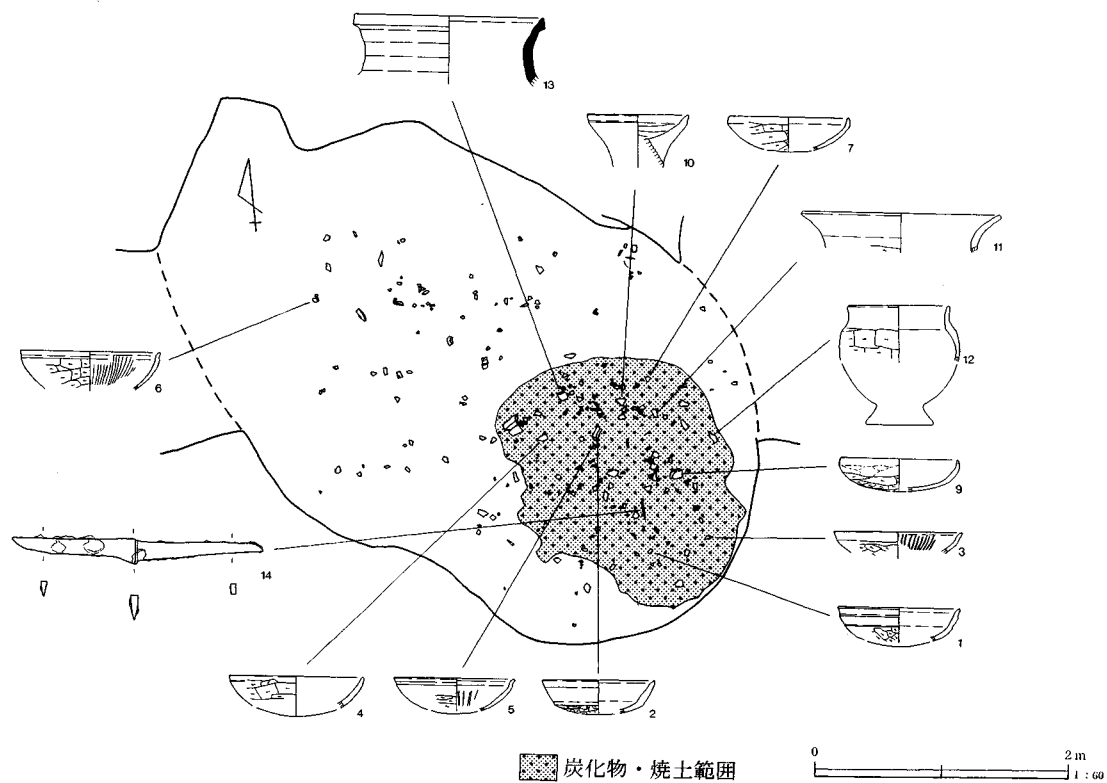
- 1 褐色土 (全体的に黄色味を帯びる、ロームブロック少量、ローム微粒子多量に含む)
- 2 褐色土 (ローム粒子多量、焼土、炭化物含む)
- 3 暗茶褐色土 (ローム粒子少量含む)
- 4 暗褐色土 (ローム粒子含む、黒褐色土混じる)
- 5 褐色土 (強く黄色味帯びる、ローム微粒子多量、焼土、炭化物含む)
- 6 褐色土
- 7 灰黄褐色土

第2号竖穴遺構 (B-B')

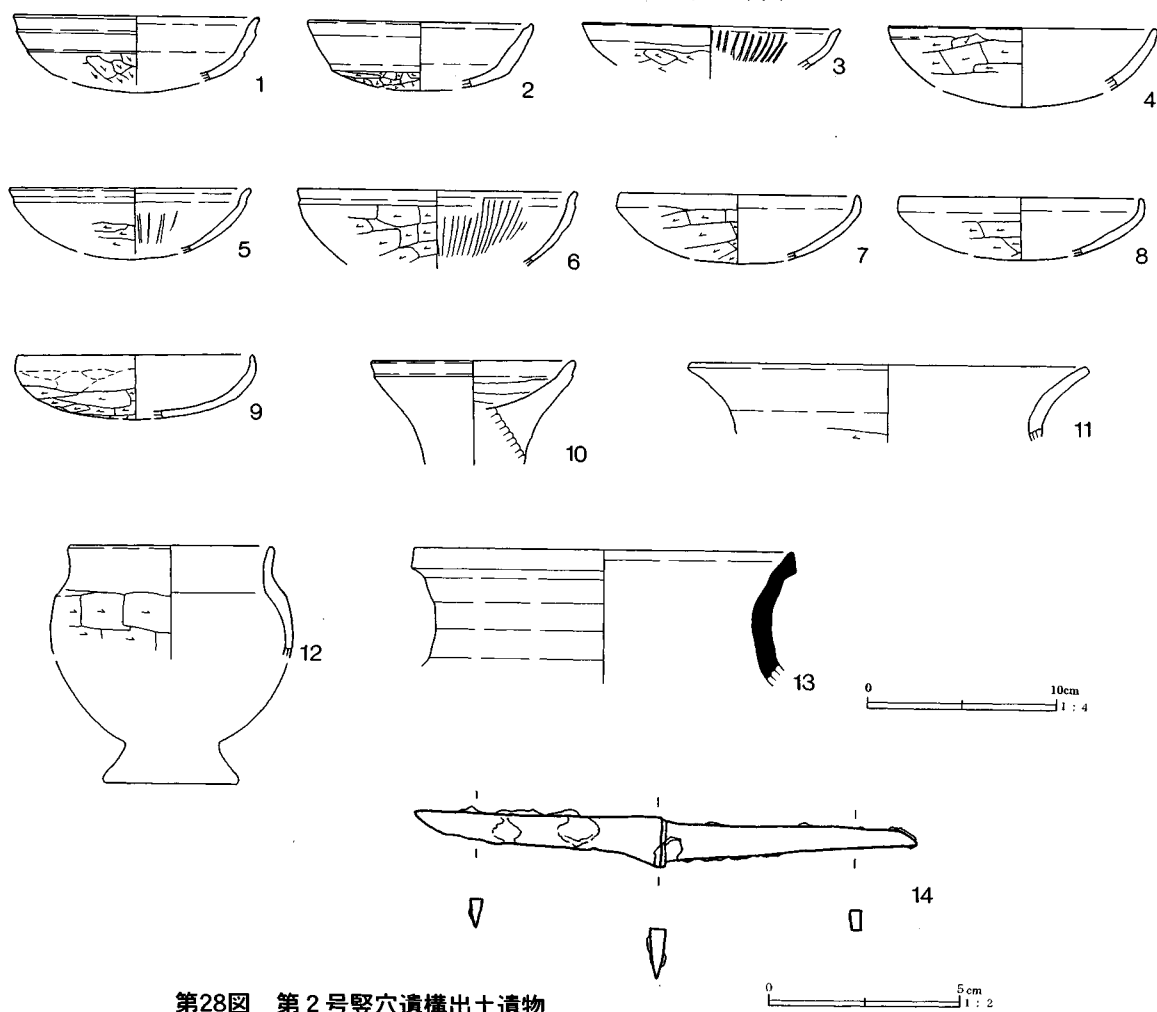
- 1 黒褐色土 (ローム微粒子、焼土、炭化物含む)
- 2 暗褐色土 (黄色味帯びる、ローム粒子・微粒子、焼土、炭化物含む)
- 3 黄褐色土
- 4 褐色土 (ローム土混じる)
- 5 褐色土 (ローム微粒子、焼土、炭化物少量含む)
- 6 暗黄褐色土 (全体的に黄色味を帯びる、ローム微粒子多量、焼土、炭化物含む)

0 2m
1:60

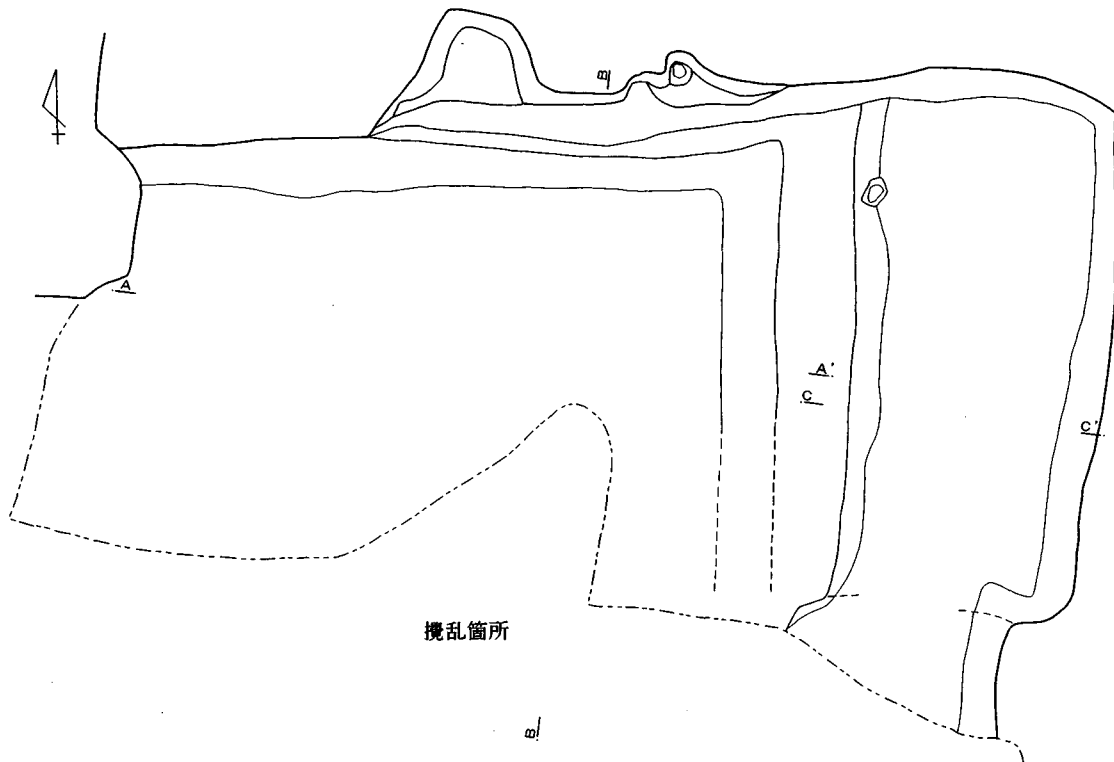
第26図 第2号竖穴遺構



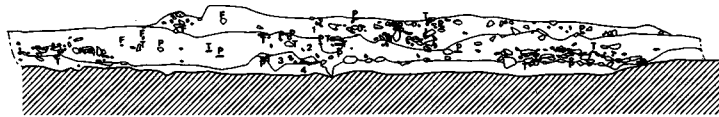
第27図 第2号竖穴遺構遺物分布図



第28図 第2号竖穴遺構出土遺物

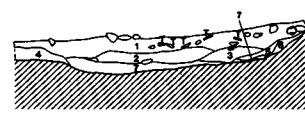


A 32.50



A

C



B



B'

第3号竖穴遺構 (A-A')

- 1 褐色土 (少々砂質、ローム微粒子少量、火山灰多量含む)
- 2 茶褐色土 (ローム微粒子多量、炭化物、火山灰含む)
- 3 暗灰褐色粘質土 (ローム粒子、焼土、炭化物、火山灰含む)
- 4 暗灰褐色粘土 (ロームブロック若干、鉄分含む)

第3号竖穴遺構 (B-B')

- 1 褐色土 (ローム微粒子少量、火山灰多量、遺物含む)
- 2 暗灰褐色砂質土 (ロームブロック含む)
- 3 暗灰褐色砂質土 (ローム粒子、炭化物多量に含む)
- 4 灰褐色砂質土 (ローム粒子少量、火山灰含む)
- 5 暗褐色土 (ロームブロック多量に含む)
- 6 茶褐色土 (ローム微粒子多量、炭化物、火山灰含む)
- 7 灰黄褐色粘質土 (ローム土多量に混じる)
- 8 灰色粘質土 (火山灰含む)
- 9 淡灰褐色粘質土 (かたくしめる、ローム微粒子、火山灰含む)
- 10 暗灰褐色粘質土 (ローム粒子含む)

第3号竖穴遺構 (C-C')

- 1 暗褐色土 (ロームブロック・粒子、炭化物、遺物多量に含む)
- 2 暗茶褐色土 (ローム粒子、焼土、炭化物含む)
- 3 暗灰褐色土
- 4 暗褐色土 (ロームブロック多量に含む)
- 5 灰褐色土
- 6 暗褐色土 (若干灰色味帯びる)
- 7 暗青灰褐色粘質土 (ローム粒子、焼土、炭化物、遺物含む)

0 2 m
1 : 80

第29図 第3号竖穴遺構

しは暗青灰褐色の粘質土であった。それぞれほぼ水平に堆積していた。また、多量の川原石が遺物とともに含まれており、その川原石は上半の堆積層中及び下半床面直上の粘質土層の直上に堆積していた。

遺物は、ロクロ成形の土師質土器皿、肥前系の碗、瀬戸・美濃の灯明皿・椀・鉢、備前の播鉢、常滑の大甕、焙烙、軒棧瓦・丸瓦・板塀瓦等の瓦、砥石、板石塔婆、石臼、鉄釘、古銭（寛永通寶）等が出土した。

時期は、江戸時代と考えられる。

第4号竪穴遺構（第38・39図、第7表）

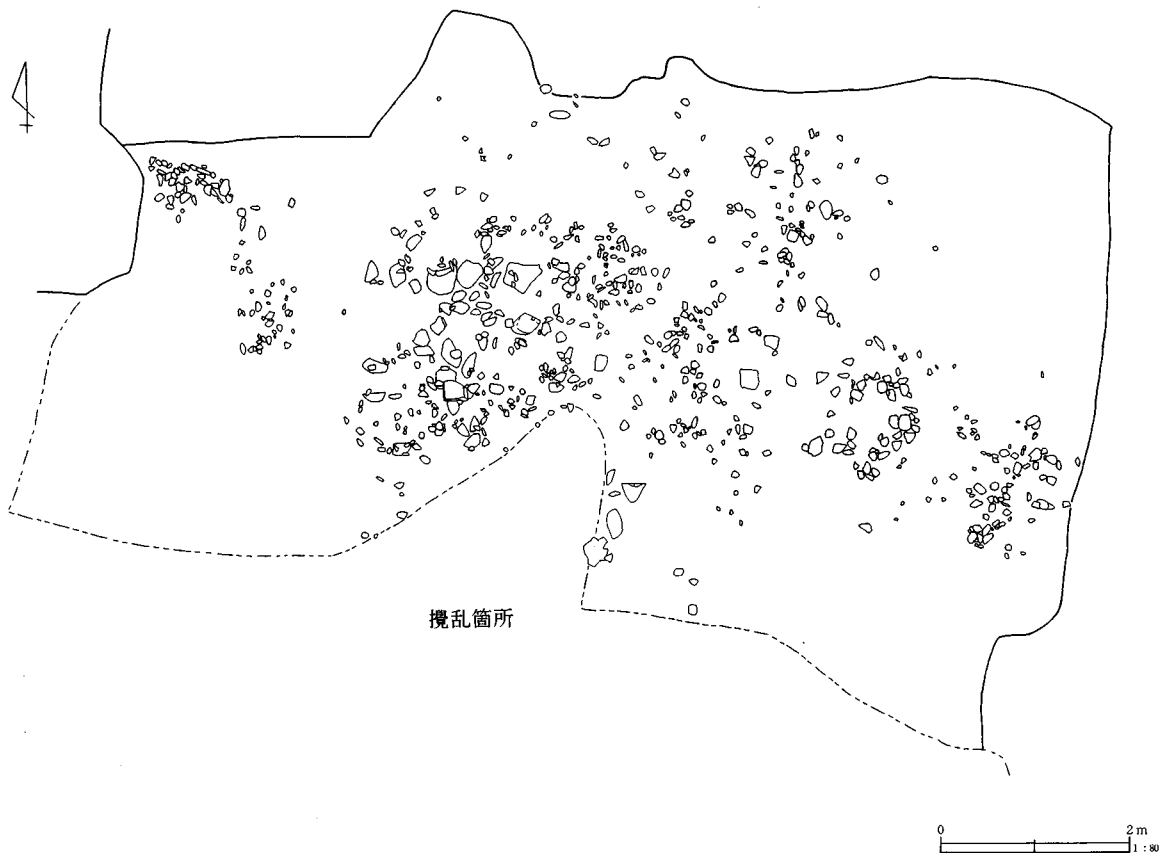
B-29グリッドから検出した。遺構は、第20号土坑及び第5号溝跡と重複関係にあり、溝跡によって壊されていた。南部は調査区域外へと伸びていた。

平面プランは変形の方形状と推測され、規模は確認された部分で東西長3.34m、南北長2.46m、深さ0.38～0.50mであった。

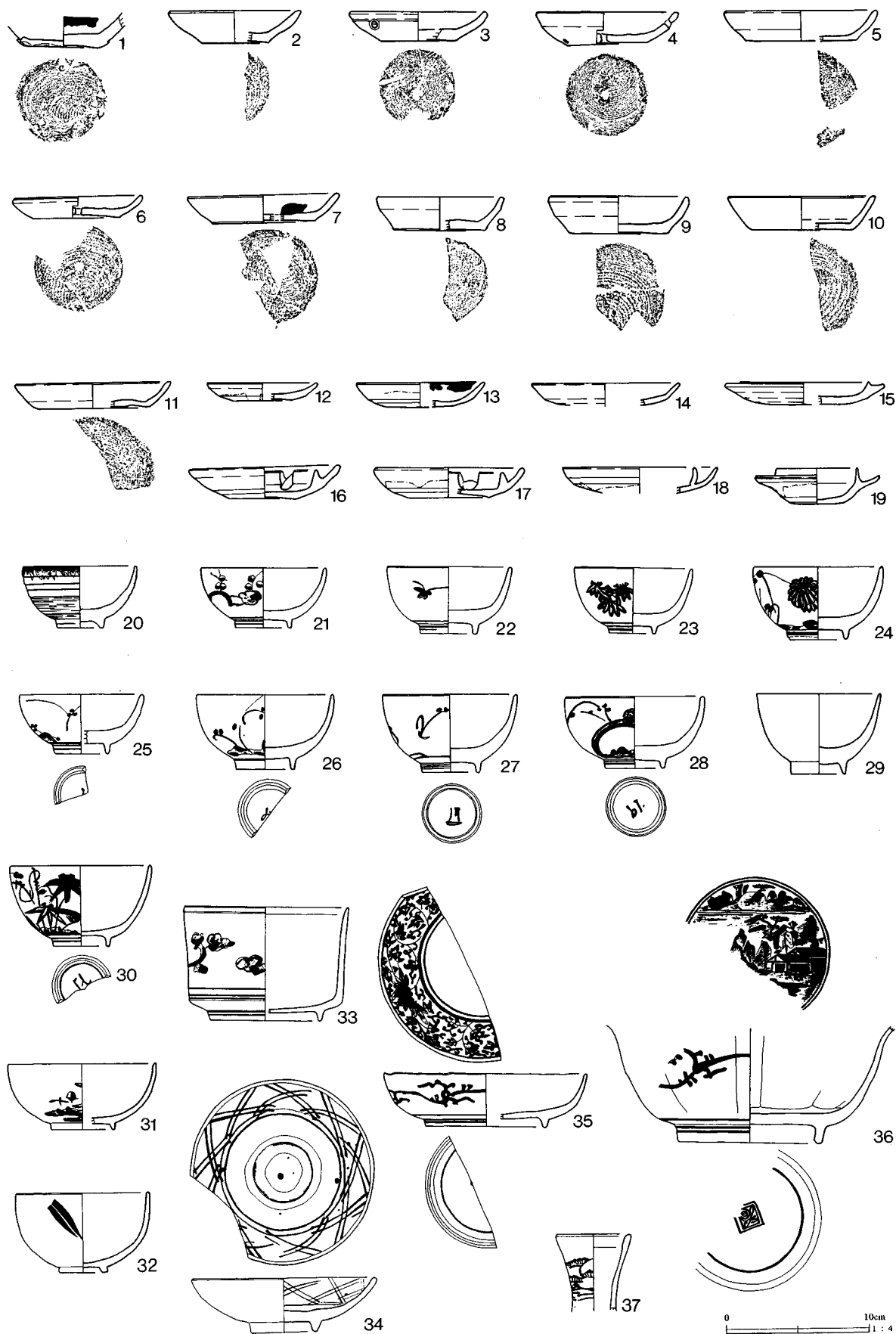
遺構の覆土は、暗褐色土が主体で、焼土及び砂利を含んでいた。床面は地山に砂利を含んだ層まで掘り込まれていた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台椀・皿・甕・瓶、平瓦、土錘等が出土し、比較的遺存状態が良好で特に高台椀は大形で良好なものであった。

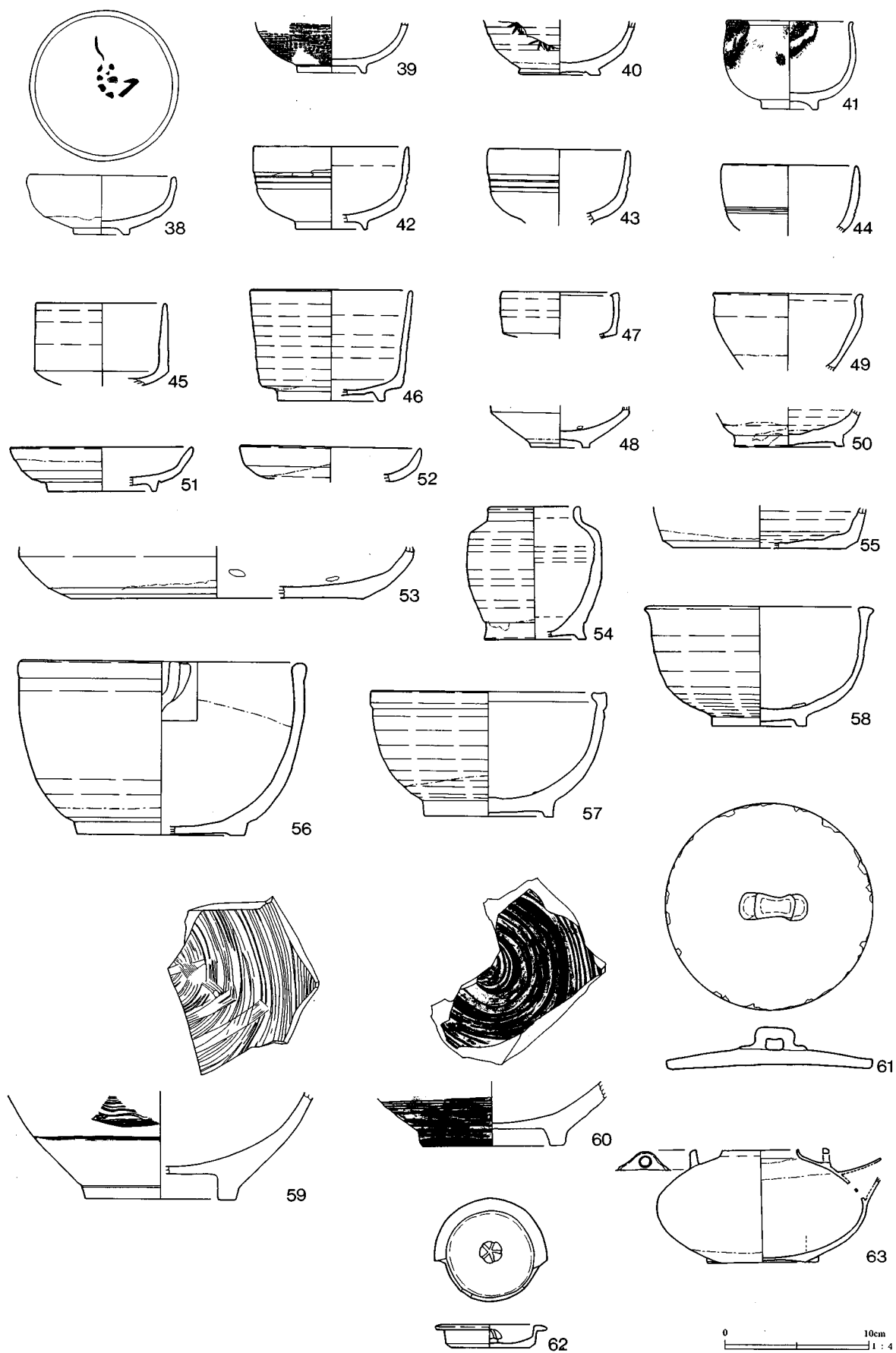
時期は、おおよそ9世紀後半と考えられる。



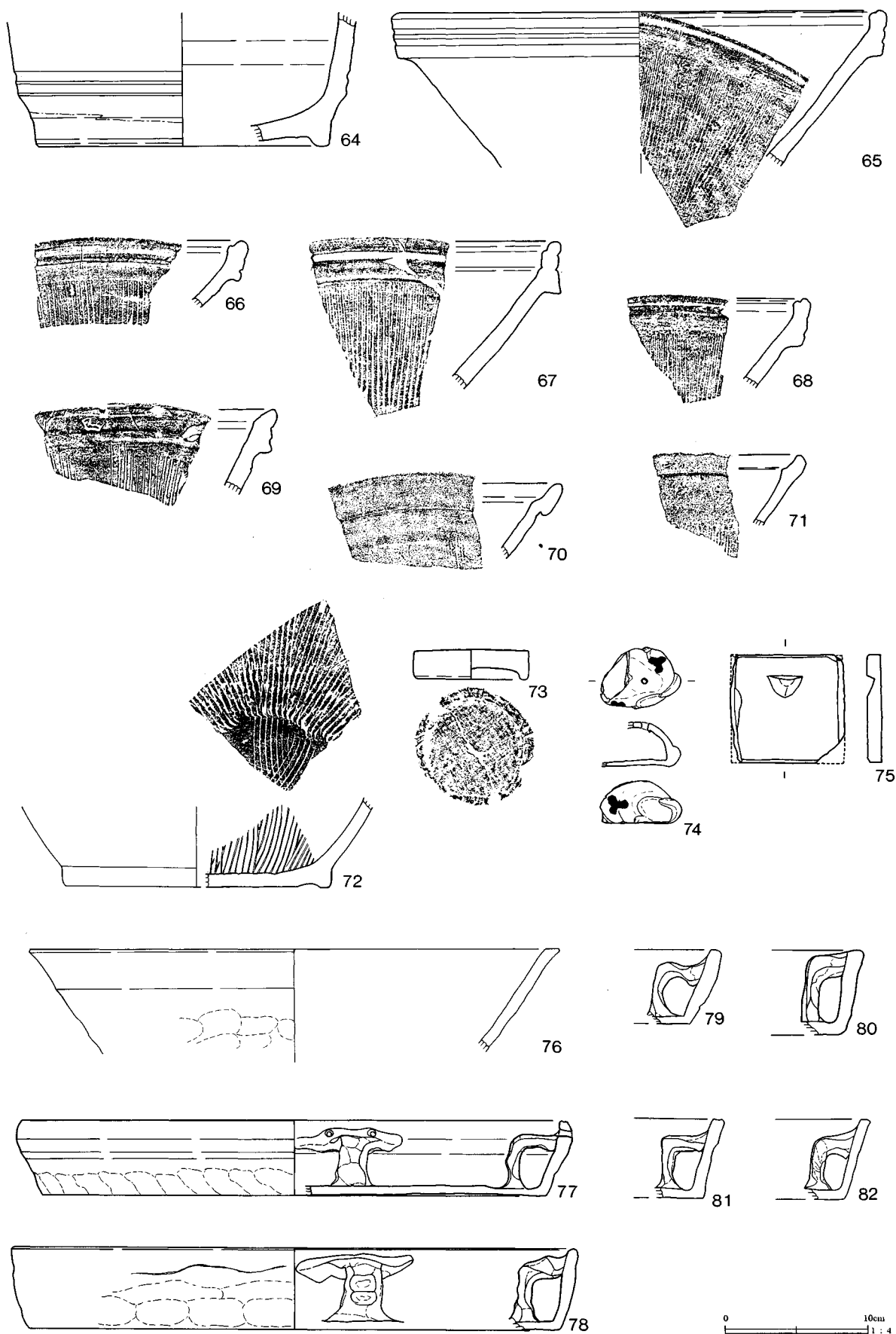
第30図 第3号竪穴遺構川原石分布図



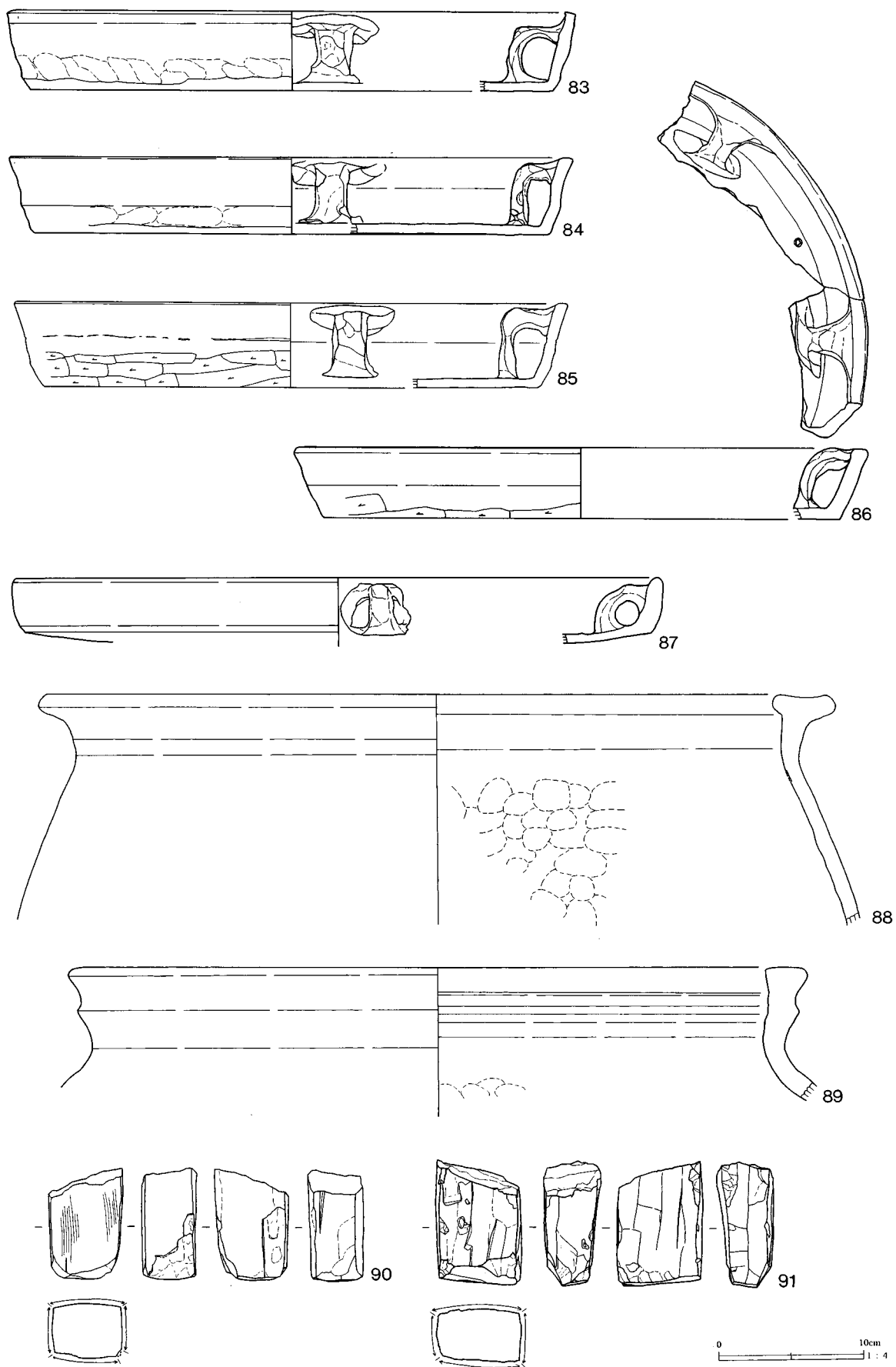
第31图 第3号竖穴遺構出土遺物(1)



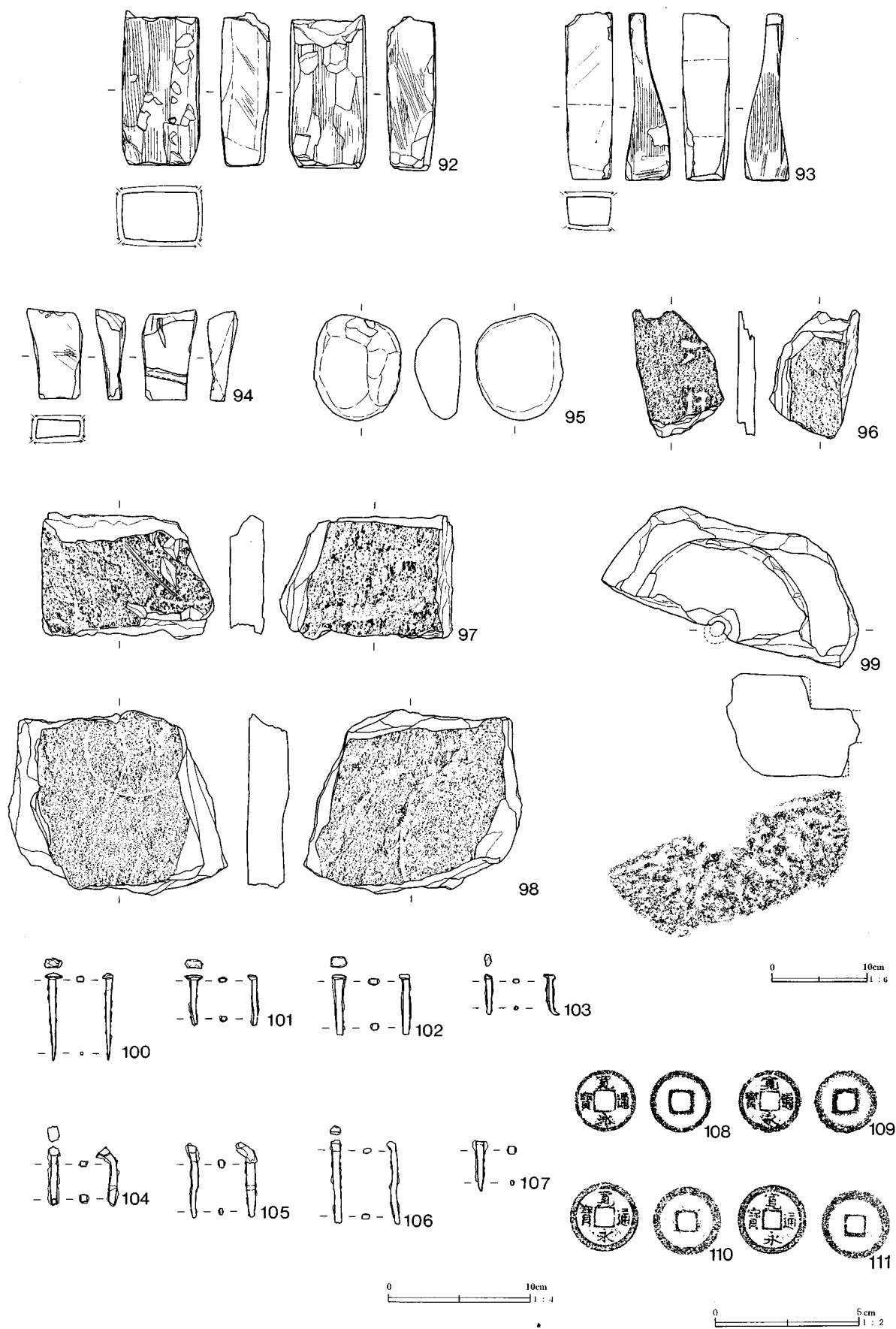
第32図 第3号竖穴遺構出土遺物(2)



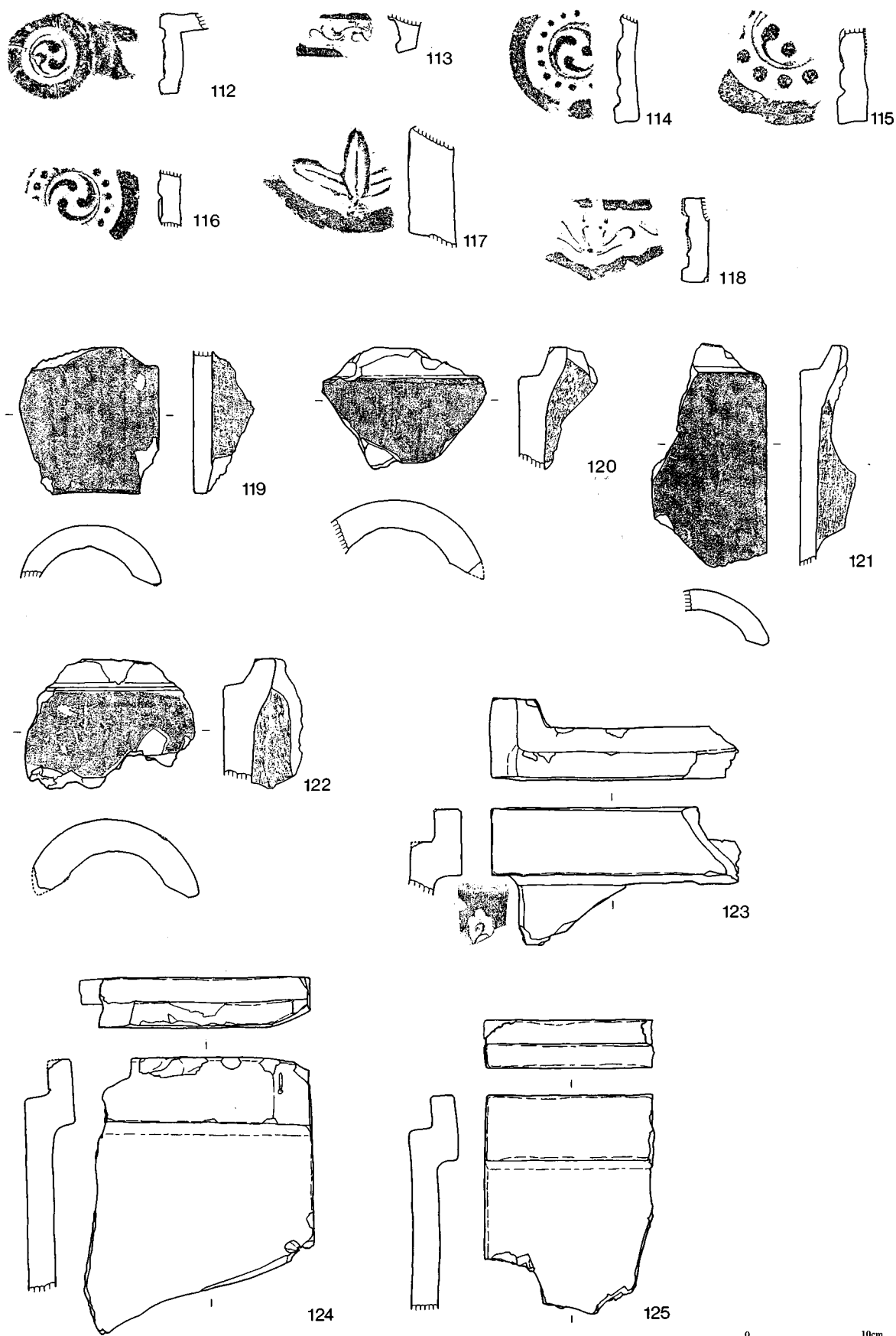
第33図 第3号竖穴遺構出土遺物(3)



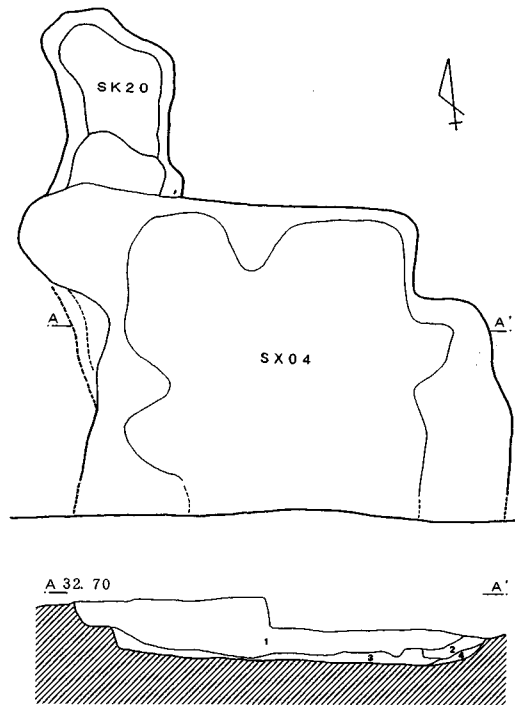
第34図 第3号竖穴遺構出土遺物(4)



第35図 第3号竖穴遺構出土遺物(5)

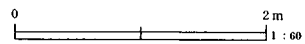


第36図 第3号竖穴遺構出土遺物(6)

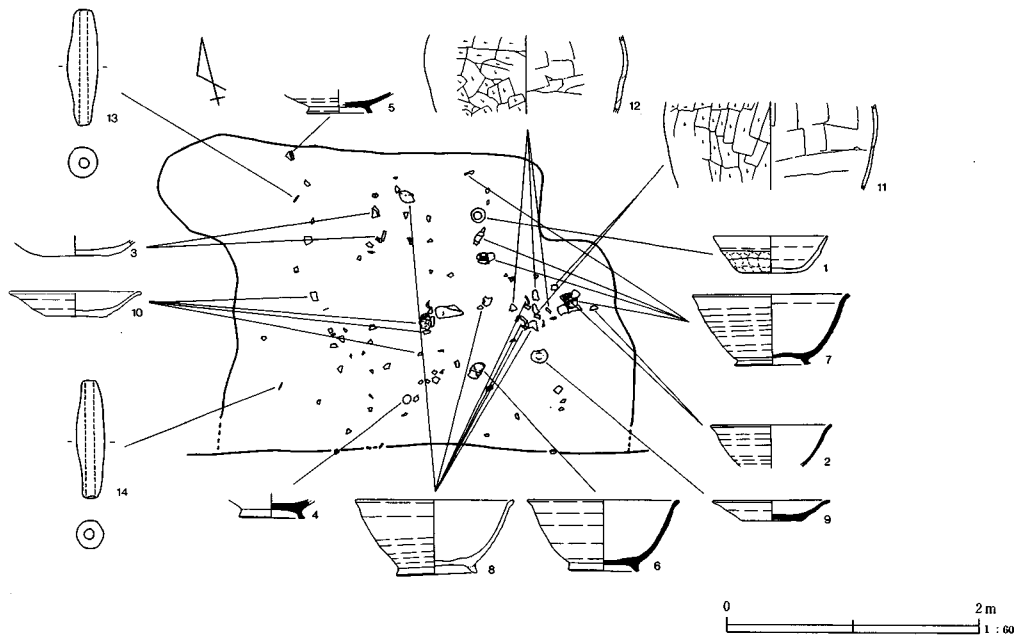


第4号竖穴遺構 (A-A')

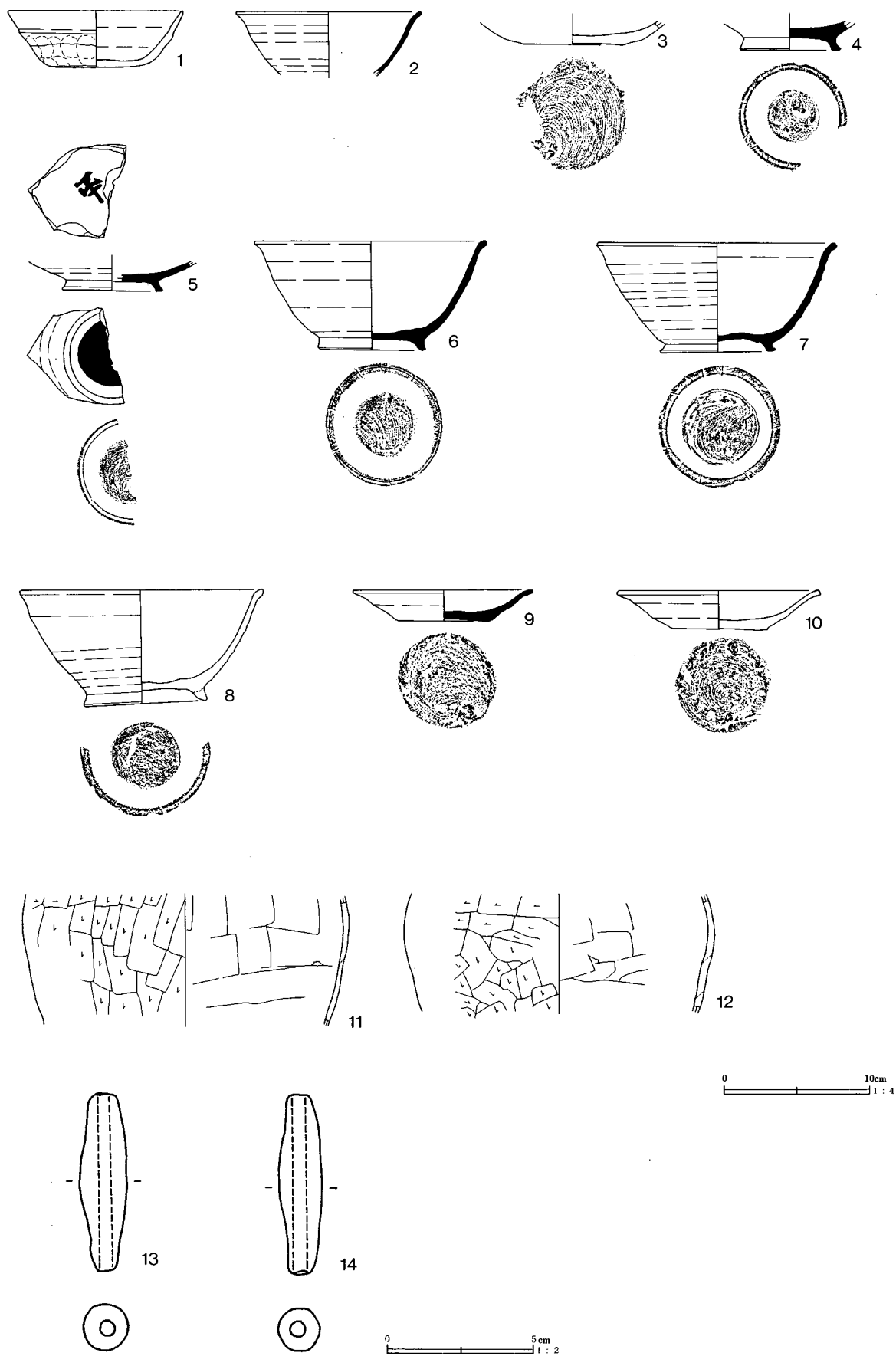
- 1 暗褐色土 (ローム微粒子、焼土、砂利含む)
- 2 暗茶褐色土 (全体的に黄色味帯びる、もろい、ローム粒子多量、焼土若干含む)
- 3 黒褐色土 (ローム粒子、焼土含む)
- 4 暗褐色土 (ローム粒子、焼土多量に含む)



第37図 第4号竖穴遺構



第38図 第4号竖穴遺構遺物分布図



第39図 第4号竖穴遺構出土遺物

3 土坑

土坑は、総数にして29基検出した。土坑は調査区西、東半分の中央部北、東端に集中して検出された。第1～3号土坑、第13～17号土坑、第27号土坑は各々単独で、第20号土坑は第4号竪穴遺構と重複して、第28号土坑及び第29号土坑は第5号溝跡と重複して、第4～8号土坑、第9・10号土坑、第11・12号土坑、第18・19号土坑、第21・22号土坑、第23・24号土坑、第25・26号土坑は、互いに重複して検出された。平面プランは、方形、楕円形、不整形な形と様々で、深さは、遺構確認面から概ね0.10～0.20m前後の浅いものと、0.50～0.80mと深いものに大別できる。出土遺物は第2・13・23号土坑で比較的多かったが、他の土坑は少なく、全体的に見てもさほど出土量はなかった。時期は、概ね平安時代（9世紀代）と近世に該当する。

以下各土坑ごとに詳細を記載する。

第1号土坑（第40図）

I－4グリッドから検出した。

平面プランは長方形で、規模は長軸1.70m、短軸0.82m、深さ0.84mであった。

出土遺物は、須恵器坏、陶器、磁器、焙烙破片等が出土したが図示可能な遺物ではなかった。

時期は、近世と考えられる。

第2号土坑（第40・43図、第8表）

H・I－4グリッドから検出した。

平面プランは隅丸方形で一部袋状の掘り方で、規模は長軸1.78m（袋状箇所1.69m）、短軸1.39m、深さ0.50mであった。

出土遺物は、土師質土器皿、陶器碗、磁器碗、焙烙、鉄釘、煙管等が出土した。また、土坑中央部で川原石がまとまって検出された。

時期は、近世と考えられる。

第3号土坑（第40・43図、第8表）

I－5グリッドから検出した。遺構は、北側が調査区域外にのびていた。

平面プランは方形と推定され、規模は残存東西長1.78m、残存南北長0.93m、深さ0.29mであった。土坑内にはピット状の落ち込みがあった。

出土遺物は、土師器坏、瓦破片等が出土した。

時期は、平安時代と考えられる。

第4号土坑（第40・43図、第8表）

I－5グリッドから検出した。遺構は、第5・6・7号土坑を壊していたと推測される。

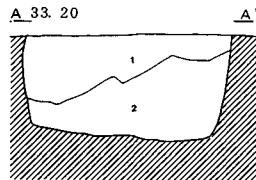
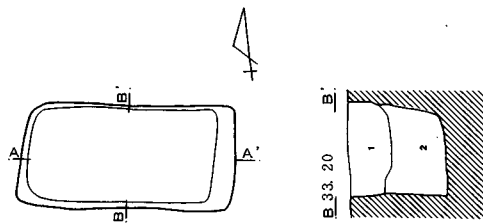
平面プランは隅丸方形と推測され、規模は残存東西長1.08m、残存南北長0.93m、深さ0.49mであった。

出土遺物は、須恵器甕破片等が出土した。

第5号土坑（第40図）

I－5グリッドから検出した。遺構は、第4号土坑に壊されていた。

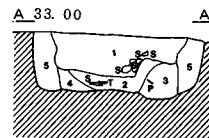
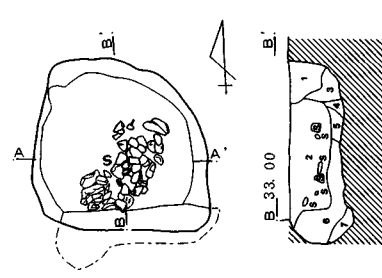
第1号土坑



第1号土坑

- 1 暗褐色土 (ロームブロック・粒子多量に含む)
- 2 暗褐色土 (ロームブロック・粒子若干含む)

第2号土坑



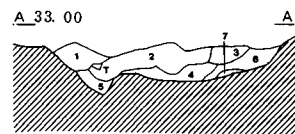
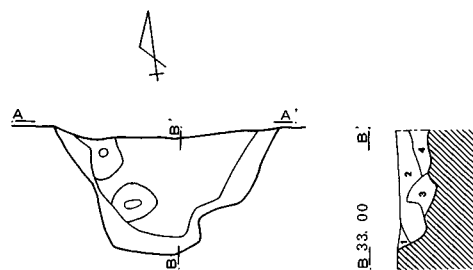
第2号土坑 (A-A')

- 1 暗褐色土 (比較的さらさらしている、ローム粒子多量に含む)
- 2 暗青灰褐色土 (ローム粒子、瓦含む)
- 3 暗褐色土 (青灰色粘土ブロック、ローム粒子、土器含む)
- 4 暗褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 5 暗青灰色粘質土 (ローム粒子、鉄分含む)

第2号土坑 (B-B')

- 1 暗黄褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 2 暗褐色土 (比較的さらさらしている、ローム粒子含む、暗青灰色砂質土混じる)
- 3 暗青灰色粘質土
- 4 暗褐色土 (ローム粒子少量含む)
- 5 暗黄褐色土 (暗褐色土と青灰色粘土ブロックとローム粒子混じる)
- 6 暗青灰色粘質土 (ロームブロック・粒子、炭化物、鉄分含む)
- 7 暗茶褐色土

第3号土坑



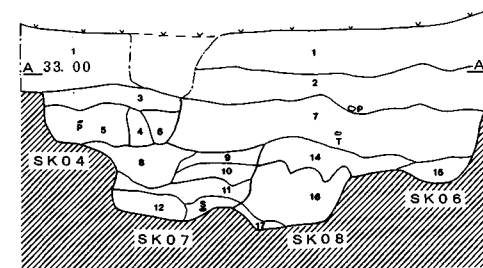
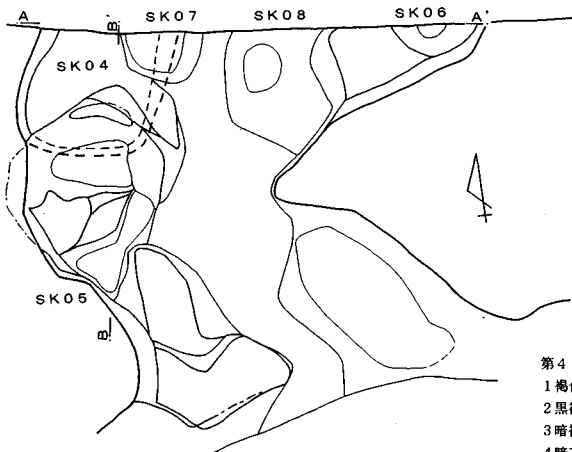
第3号土坑 (A-A')

- 1 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
- 2 暗褐色土 (しめる、ローム粒子、遺物含む)
- 3 褐色土 (ローム粒子少量含む)
- 4 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
- 5 暗黄褐色土 (ロームブロック多量に含む)
- 6 暗褐色土 (ローム粒子、焼土、炭化物含む)
- 7 暗黄褐色土

第3号土坑 (B-B')

- 1 暗茶褐色土 (ローム粒子含む)
- 2 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
- 3 暗褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 4 暗褐色土 (ローム粒子含む)

第4～8号土坑



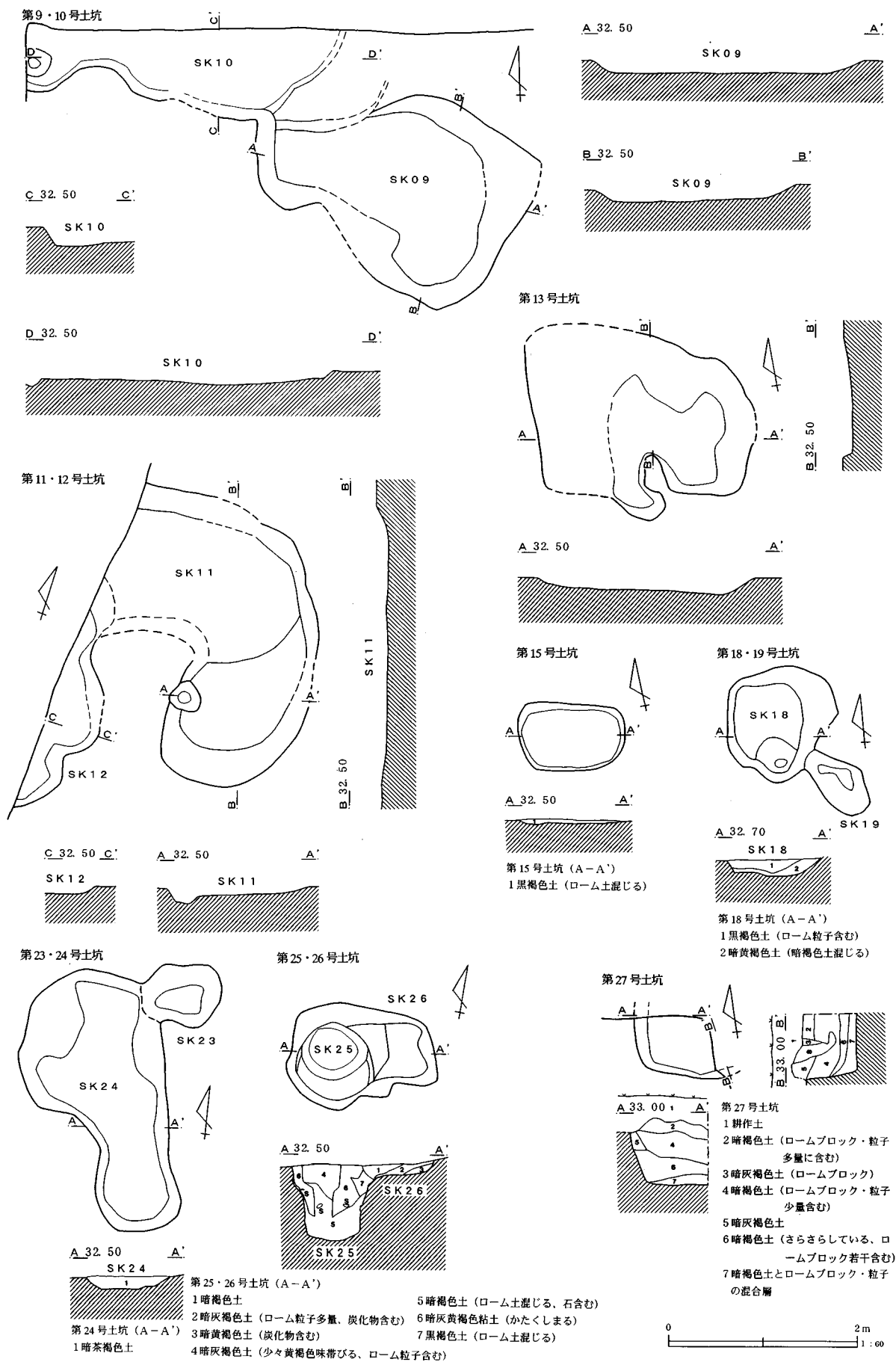
第4・6・7・8号土坑 (A-A')

- 1 褐色土 (比較的さらさらしている) <耕作土>
- 2 黒褐色土 (ローム微粒子若干、遺物含む)
- 3 暗褐色土 (ローム粒子少量、焼土含む)
- 4 暗茶褐色土
- 5 黒褐色土 (ローム粒子含む)
- 6 暗褐色土 (さらさらしている、ローム粒子若干含む)
- 7 暗茶褐色土 (遺物含む)
- 8 暗茶褐色土 (ローム粒子少量含む)
- 9 茶褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
- 10 暗褐色土 (ローム粒子含む)
- 11 暗茶褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
- 12 黒色土 (ロームブロック・粒子若干含む)
- 13 暗褐色土 (ローム粒子含む)
- 14 茶褐色土 (ローム粒子多量、焼土、炭化物含む)
- 15 黒色土 (ロームブロック含む)
- 16 暗黄褐色土 (ロームブロック・粒子多量に含む)
- 17 暗黄褐色土 (ロームブロック含む)

第4・5号土坑 (B-B')

- 1 黒褐色土 (ロームブロック少量含む)
- 2 暗茶褐色土 (ロームブロック若干、土器含む)
- 3 暗黄褐色土 (ローム粒子含む)
- 4 黒褐色土 (ローム粒子、土器含む)
- 5 暗黄褐色土 (ローム粒子含む)
- 6 暗褐色土 (ロームブロック含む)
- 7 黄褐色土
- 8 暗褐色土 (ロームブロック含む)

第40図 第1～8号土坑



第41図 第9～13・15・18・19・23～27号土坑

平面プランは不整形な楕円形で、規模は一方軸1.90mと推測され、深さは0.81mであった。
出土遺物は、土師器甕、須恵器蓋、瓦破片等が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。
時期は、古墳時代後期（7世紀後半）が主体と考えられる。

第6号土坑（第40図）

I-5・6グリッドから検出した。遺構は、第8号土坑を壊し、第4・7号土坑に壊されていた。
平面プランは不明で、規模は土層断面から深さが0.58mであった。
出土遺物は、検出できなかった。

第7号土坑（第40図）

I-5グリッドから検出した。遺構は、第6・8号土坑を壊し、第4号土坑に壊されていた。
平面プランは不明で、規模は土層断面から深さが0.60mであった。
出土遺物は、検出できなかった。

第8号土坑（第40図）

I-5グリッドから検出した。遺構は、第6・7号土坑に壊されていた。
平面プランは不明で、規模は土層断面から深さが0.50mであった。
出土遺物は、検出できなかった。

第9号土坑（第41・43図、第8表）

H-22グリッドから検出した。遺構は、第10号土坑と重複関係にあった。
平面プランは不整形な形で、規模は長軸2.98m、短軸2.03m、深さ0.15mであった。
出土遺物は、土師質土器皿、瓦、陶磁器破片が出土した。
時期は、近世と考えられる。

第10号土坑（第41・43図、第8表）

H・I-21・22グリッドから検出した。遺構は、第9号土坑と重複関係にあった。また、北側は調査区域外へとのびていた。
平面プランは不整形な隅丸形状と推測され、規模は残存東西長3.27m、残存南北長0.98m、深さ0.19mであった。土坑内の西端にピット状の落ち込みがあった。
出土遺物は、唯一完形の土師器甕が出土した。
時期は、7世紀末～8世紀初頭と考えられる。

第11号土坑（第41・43図、第8表）

H-21・22グリッドから検出した。遺構は、第12号土坑と重複関係にあった。また、西側が調査区域外へとのびていた。
平面プランは隅丸三日月状で、規模は残存長軸2.80m、残存東西長2.38m、深さ0.11mであった。土坑内にピット状に掘り込みがあった。
出土遺物は、土師器甕、焙烙、火鉢破片等が出土した。
時期については、図示した遺物は7世紀後半であったが、遺構の主体時期は近世と考えられる。

第12号土坑（第41・43図、第8表）

G・H-21グリッドから検出した。遺構は、第11号土坑と重複関係にあった。また、西側は調査区

域外へとびていた。

平面プランは不整形で、規模は残存東西長0.59m、残存南北長2.63m、深さ0.09mであった。

出土遺物は、陶器碗等が出土した。

時期は、近世と考えられる。

第13号土坑（第41・43図、第8表）

G・H-22グリッドから検出した。

平面プランは不整形な方形で、規模は長軸2.38m、短軸1.95m、深さ0.18mであった。

出土遺物は、土師器甕、瓦、播鉢等の陶器、磁器破片、古銭（寛永通寶）が出土した。

時期は、近世と考えられる。

第14号土坑（第42・43図、第8表）

F・G-21グリッドから検出した。遺構の西側は調査区域外へとびていた。

平面プランは不整形で、規模は残存東西長1.21m、残存南北長1.43mであった。

出土遺物は、播鉢・灯明皿等の陶器、碗・小皿等の磁器、瓦破片等が出土した。

時期は、近世と考えられる。

第15号土坑（第41図）

B-28グリッドから検出した。

平面プランは隅丸長方形で、規模は長軸1.14m、短軸0.72m、深さ0.06mであった。

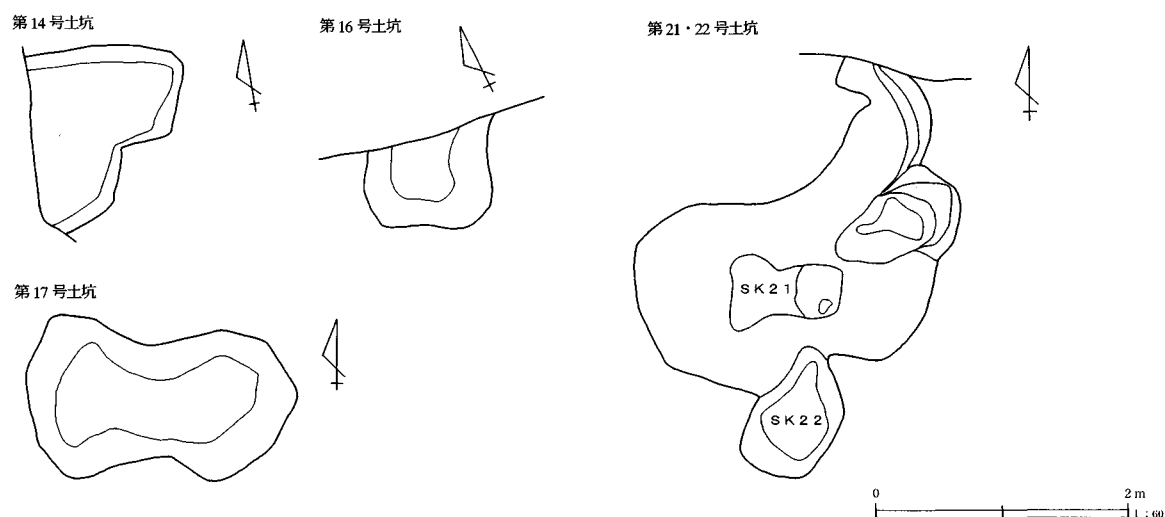
出土遺物は、検出できなかった。

第16号土坑（第42図）

C-28・29グリッドから検出した。遺構の北側は調査区域外へとびていた。

平面プランは隅丸形状と推測され、規模は残存東西長0.95m、残存南北長0.80mであった。

出土遺物は、検出できなかった。



第42図 第14・16・17・21・22号土坑

第17号土坑（第42図）

C-28・29グリッドから検出した。

平面プランは中央部がくびれる楕円形で、規模は長軸2.15m、短軸0.88mであった。

出土遺物は、須恵器坏破片等が少量出土しただけで、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、平安時代（9世紀代）と考えられる。

第18号土坑（第41図）

B-29グリッドから検出した。遺構は、第19号土坑と重複関係にあった。

平面プランは楕円形で、規模は長軸1.24m、短軸1.18m、深さ0.17mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第19号土坑（第41図）

B-29グリッドから検出した。遺構は、第18号土坑と重複関係にあった。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は長軸0.84m、短軸0.48mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第20号土坑（第37図）

C-29グリッドから検出した。遺構は、第4号竪穴遺構と重複関係にあった。

平面プランは隅丸方形と推定され、規模は残存南北長1.40m、短軸0.81mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第21号土坑（第42図）

D-29・30グリッドから検出した。遺構は、第22号土坑と重複関係にあった。北側の一部が調査区域外へと伸びていた。

平面プランは不整形な隅丸三日月状で、規模は長軸2.69m、短軸1.51mであった。

出土遺物は、土師器甕、須恵器坏破片等が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、9世紀代と考えられる。

第22号土坑（第42図）

B-30グリッドから検出した。遺構は、第21号土坑と重複関係にあった。

平面プランは隅丸台形状で、規模は長軸1.05m、短軸0.65mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第23号土坑（第41・43図、第8表）

B・C-30グリッドから検出した。遺構は、第24号土坑と重複関係にあった。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は残存長で長軸0.87m、短軸0.68mであった。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏・皿等が出土し、全土坑中一番の出土量であった。

時期は、9世紀後半代と考えられる。

第24号土坑（第41図）

B-30グリッドから検出した。遺構は、第23号土坑と重複関係にあった。

平面プランは中央部がくびれた不整形な楕円形で、規模は長軸2.88m、短軸1.53m、深さ0.12mであった。

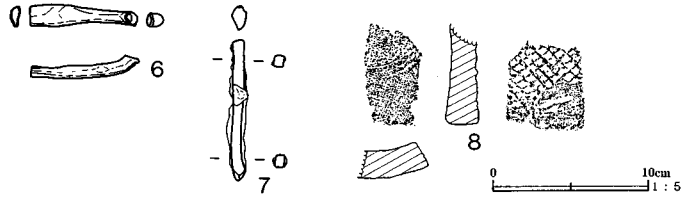
SK 02



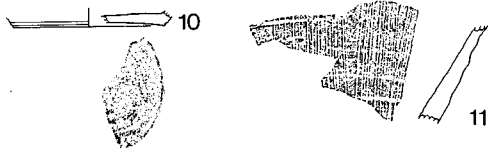
SK 04



SK 03



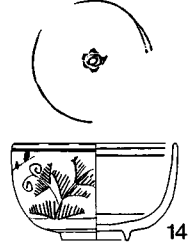
SK 09



SK 10



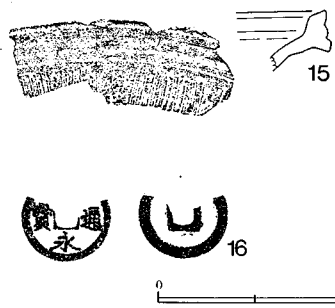
SK 12



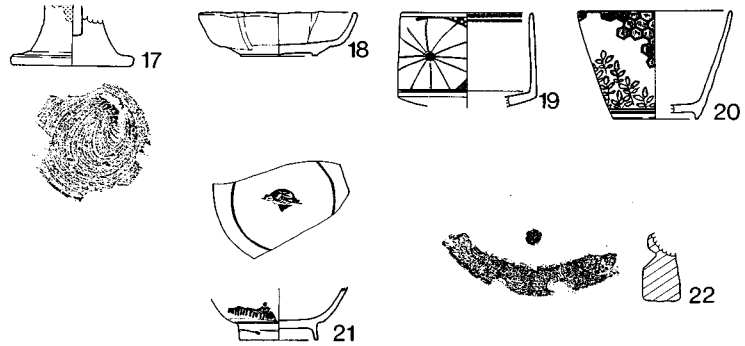
SK 11



SK 13



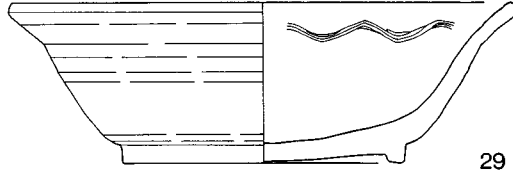
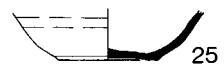
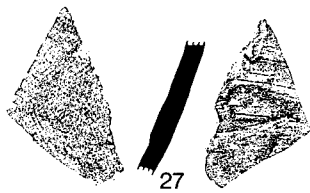
SK 14



SK 23



SK 25



緑色



第43図 土坑出土遺物

出土遺物は、検出できなかった。

第25号土坑（第41・43図、第8表）

B-30グリッドから検出した。遺構は、第26号土坑に壊されていた。

平面プランは円形で、規模は長軸1.16m、短軸0.93m、深さ0.82mであった。

出土遺物は、酸化焰焼成の須恵器坏、大皿等の陶器、磁器、焙烙、鉄釘等であった。

時期は、近世と考えられる。

第26号土坑（第41図）

B-30グリッドから検出した。遺構は、第25号土坑を壊していた。

平面プランは隅丸方形で、規模は長軸0.76m、短軸0.75m、深さ0.15mであった。

出土遺物は、土師器坏破片だけであり、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、平安時代と考えられる。

第27号土坑（第41図）

C-30グリッドから検出した。遺構の北側と東側は、調査区域外へとのびていた。

平面プランは方形状と推定され、規模は残存東西長0.80m、残存南北長0.65m、深さ0.58mであった。

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏・甕破片等が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、平安時代と考えられる。

第28号土坑（第52図）

B・C-27グリッドから検出した。遺構は、第5号溝跡を壊していた。

平面プランは方形状と推測され、規模は長軸1.90m、短軸1.12m、深さ0.25mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第29号土坑（第52図）

B-28グリッドから検出した。遺構は、第5号溝跡を壊していた。また、南側は調査区域外へとびていた。

平面プランは不整形な方形状と推定され、規模は残存東西長1.20m、残存南北長1.10m、深さ0.23mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

4 ピット

ピットは、総数にして9基検出した。ピットは調査区東に第1～3号ピットが、調査区中央東寄りに第4～8号ピットがまとまって検出された。出土遺物については、検出されたピットはなくいずれも時期は不明である。

以下各ピットごとに詳細を記載する。

第1号ピット（第44図）

I-3グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.43m、短軸0.34m、深さ0.31mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第2号ピット (第44図)

I-3グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は長軸0.31m、短軸0.29m、深さ0.41mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第3号ピット (第44図)

I-3グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.47m、短軸0.34mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第4号ピット (第44図)

H-21グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.35m、短軸0.30m、深さ0.31mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第5号ピット (第44図)

H-22グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は長軸0.33m、短軸0.28m、深さ0.16mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第6号ピット (第44図)

H-21グリッドから検出した。

平面プランは不整形な台形で、規模は長軸0.29m、短軸0.27m、深さ0.30mであった。

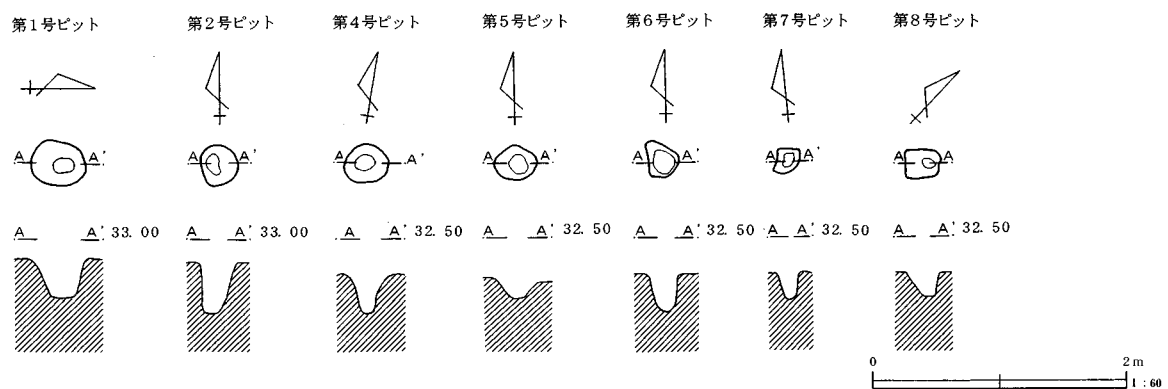
出土遺物は、検出できなかった。

第7号ピット (第44図)

G-21グリッドから検出した。

平面プランは方形で、規模は長軸0.19m、短軸0.17m、深さ0.21mであった。

出土遺物は、検出できなかった。



第44図 第1・2・4～8号ピット

第8号ピット (第44図)

G-21グリッドから検出した。

平面プランは方形で、規模は長軸0.27m、短軸0.23m、深さ0.20mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第9号ピット (第4図)

C-29グリッドから検出した。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は長軸0.60m、短軸0.53mであった。

出土遺物は、検出できなかった。

5 溝跡

溝跡は、調査区西端で1条、西部で2条、東部中央寄りで1条、東端で1条と合計5条検出した。規模は、第1号溝跡が最も大きく、第3号溝跡が最も小さいものであった。寺院関連のものという観点から見ると、第1号溝跡が該当すると考えられる。

以下各溝跡ごとに記載する。

第1号溝跡 (第45・46図、第9表)

I・J-1・2から検出した。溝の北、南及び西側は調査区域外へと伸びていた。

検出できた部分が小さいためやや不明確ではあるが、溝はやや東に傾きほぼ真っ直ぐに南北へ走っていた。

規模は、検出長6.14m、検出幅4.20～4.80m、深さは最深で遺構確認面から1.00mであった。溝幅は、北側が広く、南側で狭いもので、平面的には北側が東へ突出した形状である。断面形状は、溝幅の広い箇所が2段に掘り込まれ、1段目にやや幅の広い平坦な面があり、中央部がV字状に掘り込まれていた。幅の狭い箇所は、上面両方に幅の狭い平坦部が若干あるがほぼV字状の形状であった。

覆土はかたくしまった褐色系の土で、地山にはローム土の下に砂や礫が存在し、溝の最深部はこの砂礫層まで達していた。

出土遺物は、瓦破片に混じって土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器皿、瓦塔初軸部破片等が出土した。瓦は、丸瓦・平瓦に混じって三重弧文・均正唐草文軒平瓦が出土した。瓦塔初軸部破片は、基壇の部分で隅柱と基壇の部位に赤彩が施されていた。また、片口鉢、土鍋、焙烙破片が出土したが、これらは流れ込みと思われる。

時期は、8世紀前半から9世紀前半代と幅があると考えられる。

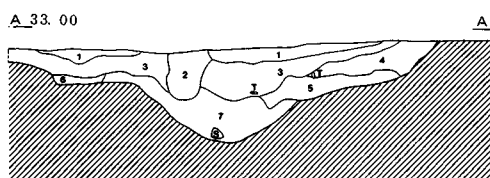
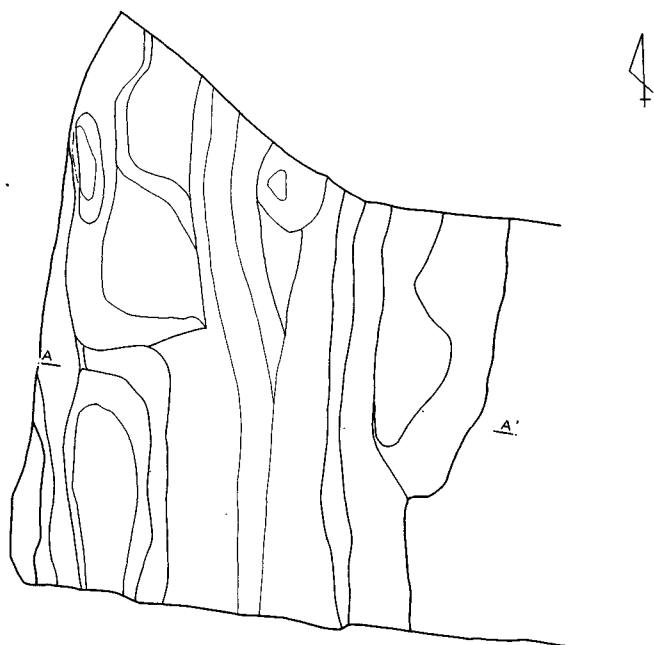
第2号溝跡 (第47～49図、第10表)

H・I-5グリッドからH・I-10にかけて検出した。西は調査区域外へと伸び、東は攪乱されて途絶えていた。途中、土坑群、第1号竪穴遺構及び第2号竪穴遺構と重複関係にあり、第2号竪穴遺構を壊していた。また、第3号溝跡とも重複関係にあったが、新旧関係を明らかにすることはできなかった。溝は、西端からやや北東方向にH・I-6グリッドまで東走し、そこからほぼ東西に走っていた。規模は、検出全長25.40m、幅1.05～1.50m (推定最大幅は2.40m)、深さは最深で0.70mであった。断面形状は、逆台形状ないしはゆるやかなV字状であった。

溝跡の覆土は、暗褐色土・暗茶褐色土が主体で、ローム土のブロック・粒子がまじっていた。地山であるローム土層中で止まっていた。

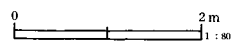
出土遺物は多く、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕・壺、多量の瓦（丸瓦・平瓦）、瓦塔屋蓋部・初軸部破片、磨石等が出土した。また、瓦の中に瓦当部分は全くないが形態的に均正唐草文軒平瓦の破片と考えられるものも含まれていた。さらに、須恵器・土師器に墨書（「水？」等）も見られた。

時期は、7世紀後半の遺物が混じるが、9世紀後半から末がこの遺構の時期として与えられると考える。

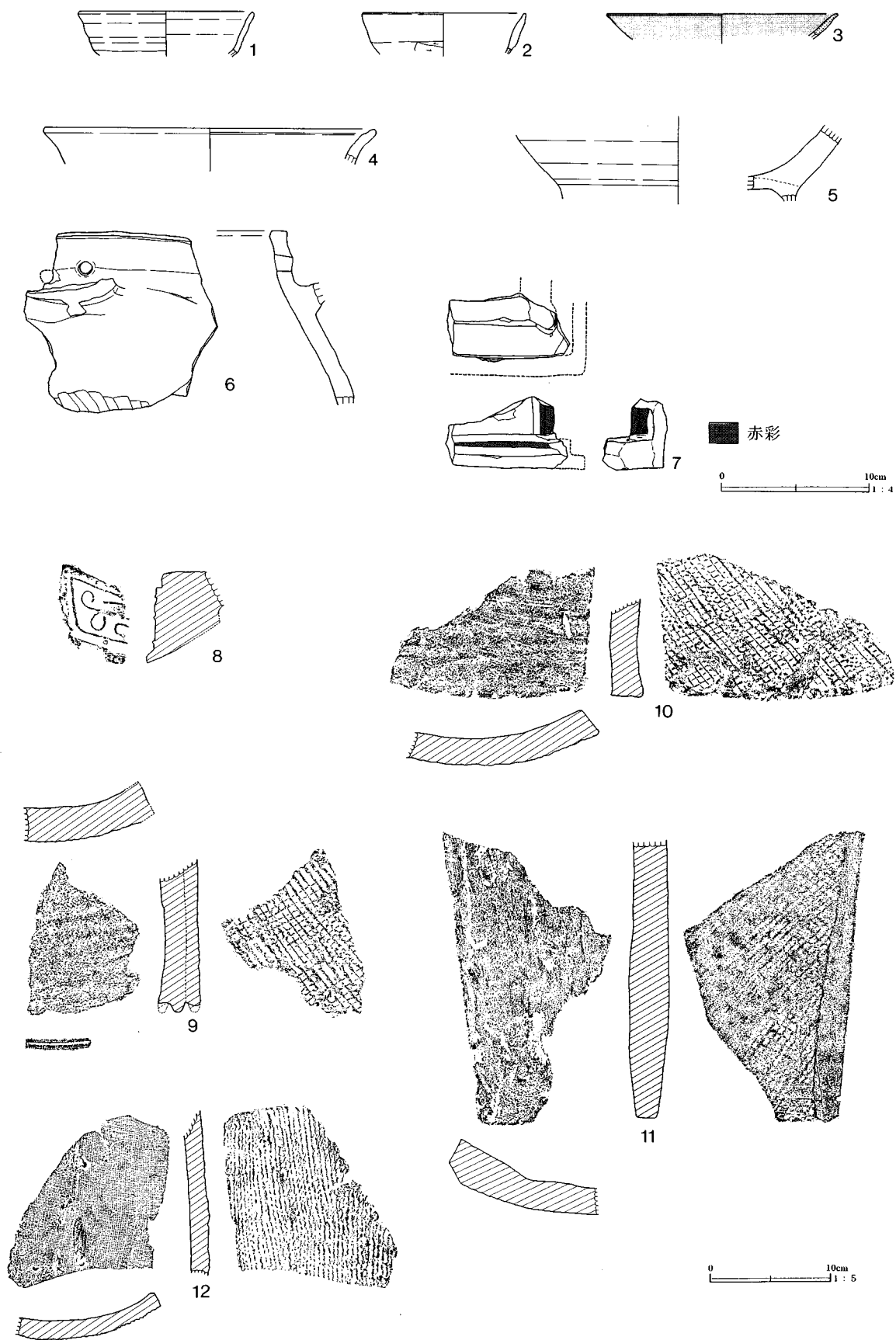


第1号溝跡（A-A'）

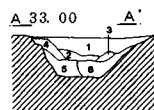
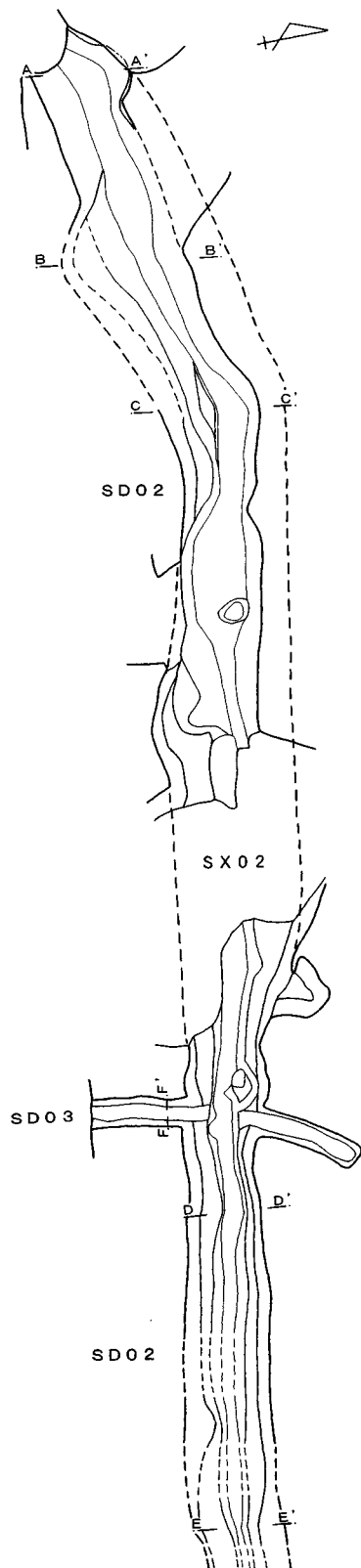
- 1 褐色土（ロームブロック・粒子・微粒子、火山灰含む）
- 2 暗褐色土（もろい）
- 3 暗赤褐色土（かたくしまる、ロームブロック・粒子多量、遺物含む）
- 4 暗褐色土（ローム粒子多量に含む）
- 5 褐色土（ローム粒子少量含む）
- 6 褐色土（かたくしまる、ハードロームブロック含む）
- 7 暗褐色土（かたくしまる、下層付近にロームブロック・粒子多量に含む）



第45図 第1号溝跡

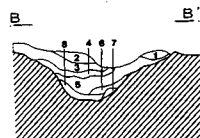


第46図 第1号溝跡出土遺物



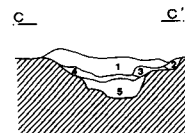
第2号溝跡 (A-A')

- 1 黒褐色土 (ローム粒子若干、土器含む)
- 2 暗褐色土 (ローム粒子若干含む)
- 3 暗茶褐色土 (ロームブロック、黒褐色土ブロック・粒子含む)
- 4 暗茶褐色土 (ローム粒子と黒褐色土粒子混じる)
- 5 暗褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 6 黒褐色土 (ローム粒子少量含む)



第2号溝跡 (B-B')

- 1 暗褐色土 (ローム粒子若干含む)
- 2 暗茶褐色土 (土器含む)
- 3 暗褐色土 (焼土、炭化物、土器含む)
- 4 暗茶褐色土
- 5 暗茶褐色土
- 6 暗黄褐色土
- 7 黄褐色土
- 8 暗茶褐色土 (下層付近にローム粒子多量に含む)



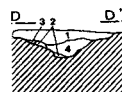
第2号溝跡 (C-C')

- 1 暗褐色土 (ローム微粒子、炭化物、土器含む)
- 2 暗黄褐色土 (ローム粒子と暗褐色土粒子混じる)
- 3 暗茶褐色土 (ローム粒子少量含む)
- 4 暗褐色土 (ローム微粒子少量、焼土、炭化物含む)
- 5 黒褐色土 (ローム粒子・微粒子、焼土含む)



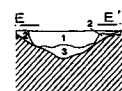
第3号溝跡 (F-F')

- 1 暗褐色土 (ローム粒子少量含む)



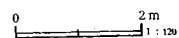
第2号溝跡 (D-D')

- 1 暗褐色土 (ローム粒子、焼土、炭化物含む)
- 2 暗茶褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 3 暗褐色土 (ローム粒子少量含む)
- 4 暗褐色土 (ロームブロック・粒子多量に含む)

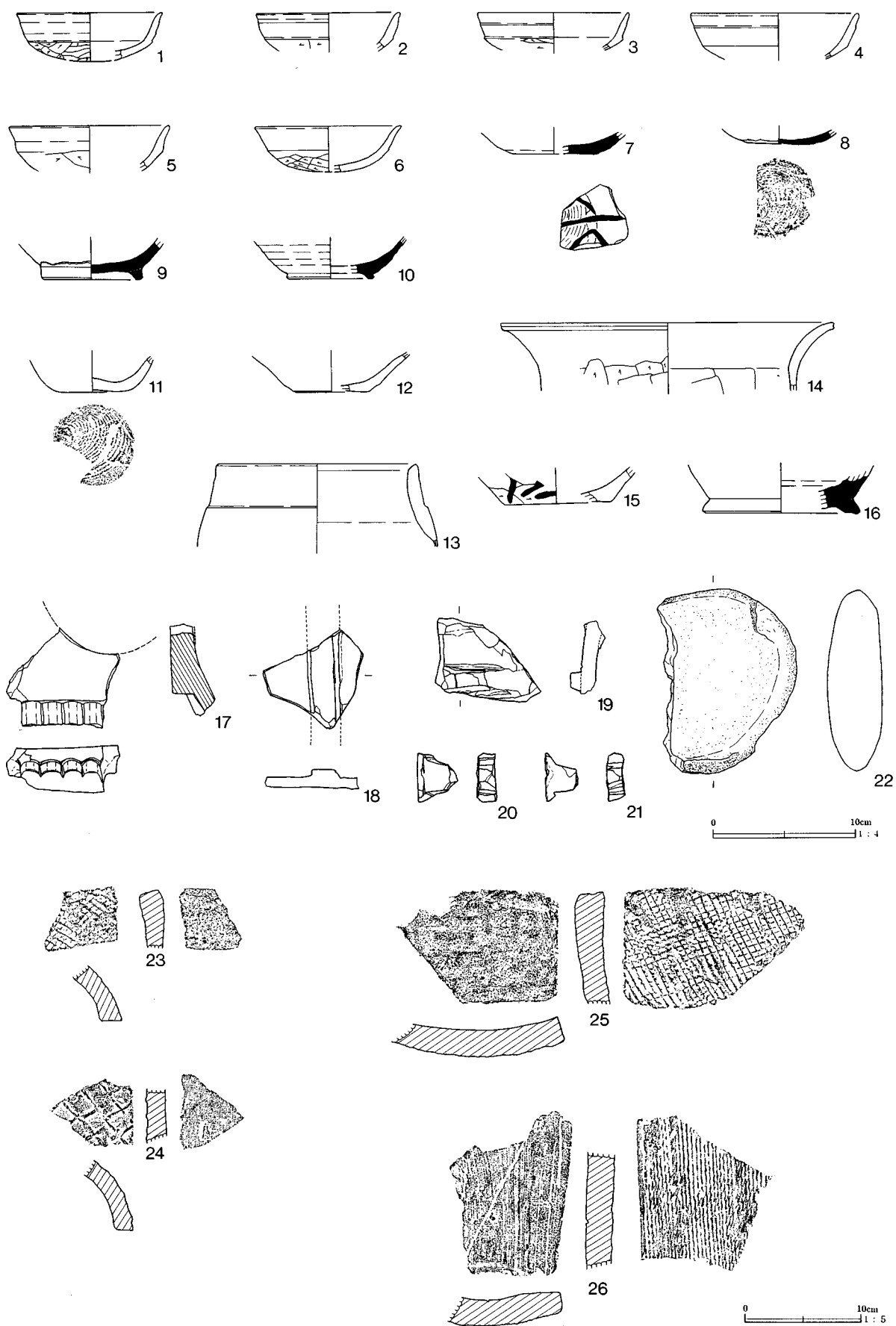


第2号溝跡 (E-E')

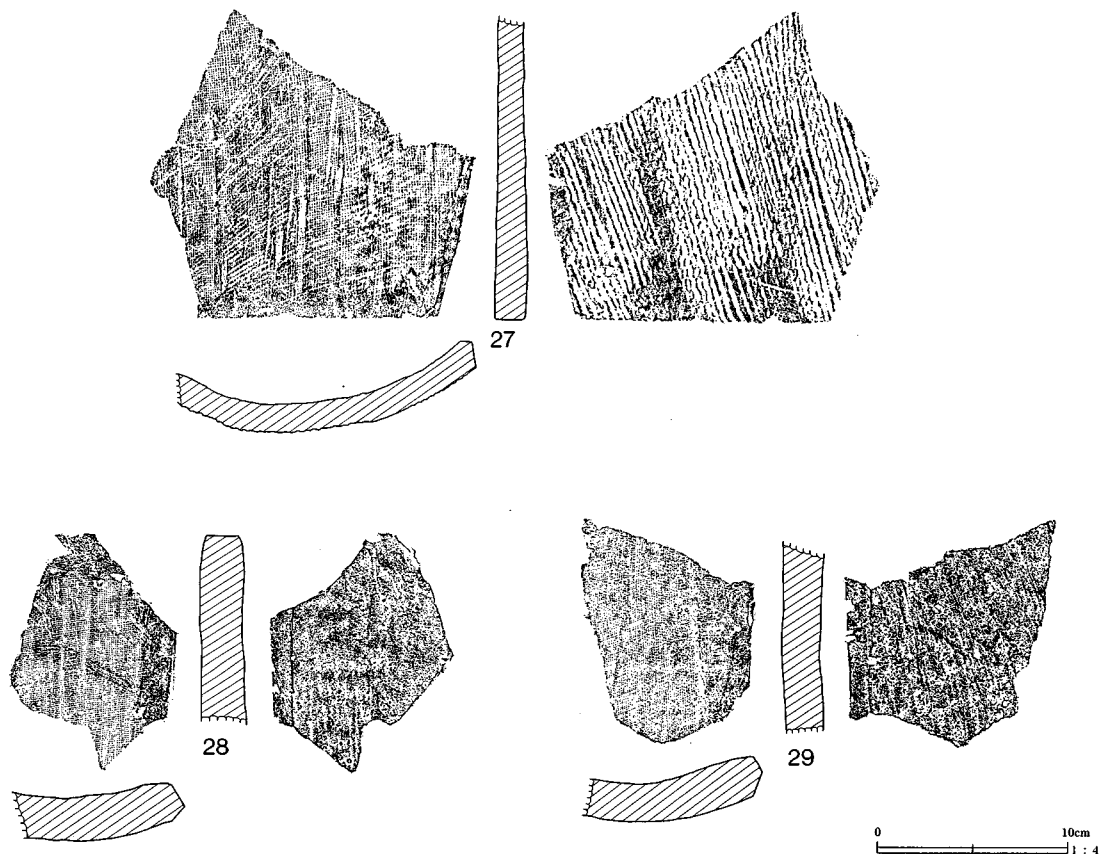
- 1 暗褐色土 (ロームブロック・粒子含む)
- 2 暗茶褐色土 (ロームブロック多量に含む)
- 3 暗褐色土 (比較的もろい、ロームブロック若干、ローム粒子・微粒子多量、焼土若干含む)



第47図 第2・3号遺跡



第48図 第2号溝跡出土遺物(1)



第49図 第2号溝跡出土遺物(2)

第3号溝跡 (第47図)

H-8・9、I-9グリッドから検出した。第2号溝跡と重複関係にあったが、新旧関係を明らかにすることはできなかった。また、南は調査区域外へと伸びていた。

溝は、ほぼ南北に走っていた。

規模は、検出全長4.40m、幅0.43～0.49m、深さは0.12mであった。断面形状は、逆台形状であった。

出土遺物はほとんどなく、瓦破片がわずかに出土しただけであった。

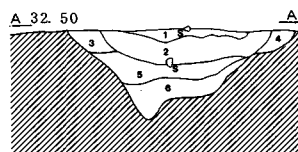
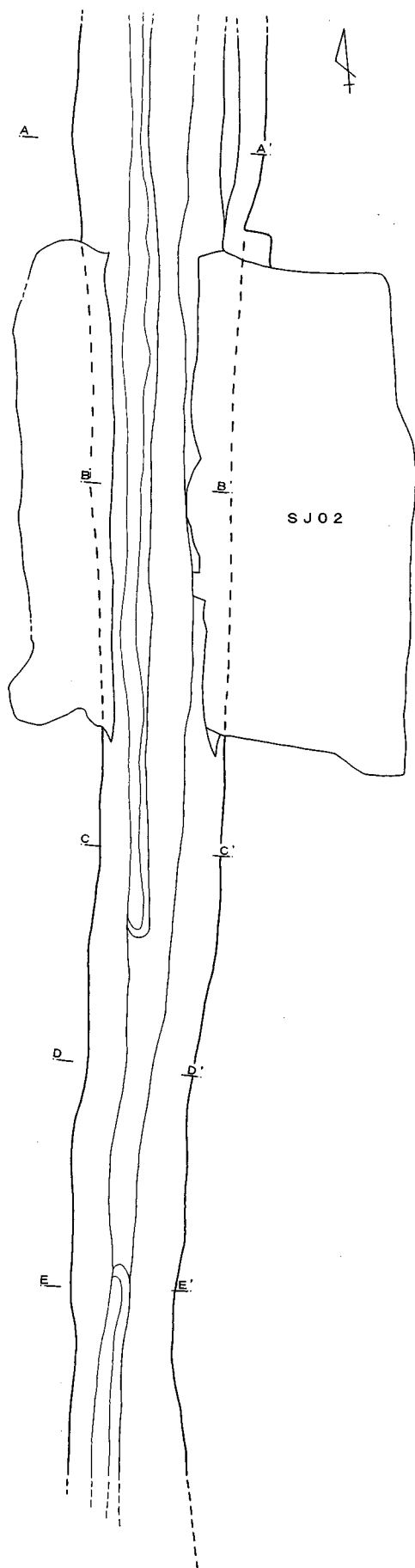
第4号溝跡 (第50・51図、第11表)

D-23・24グリッドからG-23・24にかけて検出した。南は調査区域外へと伸び、北は攪乱されて途絶えていた。途中、第2号住居跡と重複関係にあり、第2号住居跡を壊していた。

溝は、ほぼ南北に走っていた。

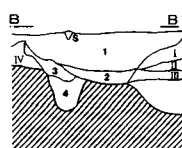
規模は、検出全長18.00m、幅1.18～2.38m、深さは0.62～0.94mであった。遺構確認面からではあるが、溝幅は北で広く、南で狭いものであった。断面形状は、V字状であった。また、床面の西寄りをさらに1段深く溝状に掘り窪めた形状で、それは南寄りのD・E-23・24グリッド箇所です約4mの長さでブリッジ状に掘り残してあった。

溝跡の覆土は、褐色土・暗褐色土が主体で、ローム土のブロック・粒子がまじっていた。また、南下半の覆土には砂利を最下層に含み、地山に砂利が含まれる層まで掘り込まれていた。



第4号溝跡 (A-A')

- 1 茶褐色土 (ローム粒子多量に含む)
- 2 褐色土 (ローム微粒子、焼土、火山灰含む)
- 3 暗茶褐色土 (ローム粒子含む)
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 (全体的に若干黄色味を帯びる、ローム粒子多量に含む)
- 6 黒褐色土 (ローム土多量に混じる、ローム粒子多量に含む)

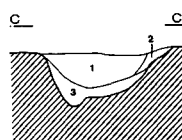


第4号溝跡 (B-B')

- 1 褐色土 (焼土、火山灰含む)
- 2 褐色土 (ローム微粒子少量含む)
- 3 暗灰褐色土 (ローム微粒子含む)
- 4 暗灰褐色土 (淡黄褐色土ブロック、炭化物、砂利含む)

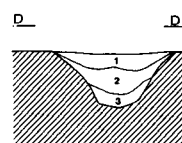
第2号住居跡

- I 暗褐色土 (ローム粒子・微粒子少量含む)
- II 暗褐色土 (下層に砂利多く含む)
- III 暗茶褐色土 (ローム粒子少量含む)
- IV 暗灰褐色土 (ローム微粒子含む)



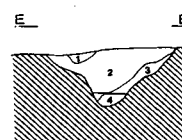
第4号溝跡 (C-C')

- 1 暗褐色土 (もろい、φ 2~3 cm程の砂利多く含む)
- 2 暗褐色土 (もろい、ローム粒子多量に含む)
- 3 暗褐色土 (ローム微粒子、砂利含む)



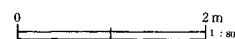
第4号溝跡 (D-D')

- 1 暗褐色土 (ローム大ブロック、焼土若干、砂利含む)
- 2 暗褐色土 (ローム粒子少量、炭化物、砂利多量に含む)
- 3 暗褐色土 (砂利含む)



第4号溝跡 (E-E')

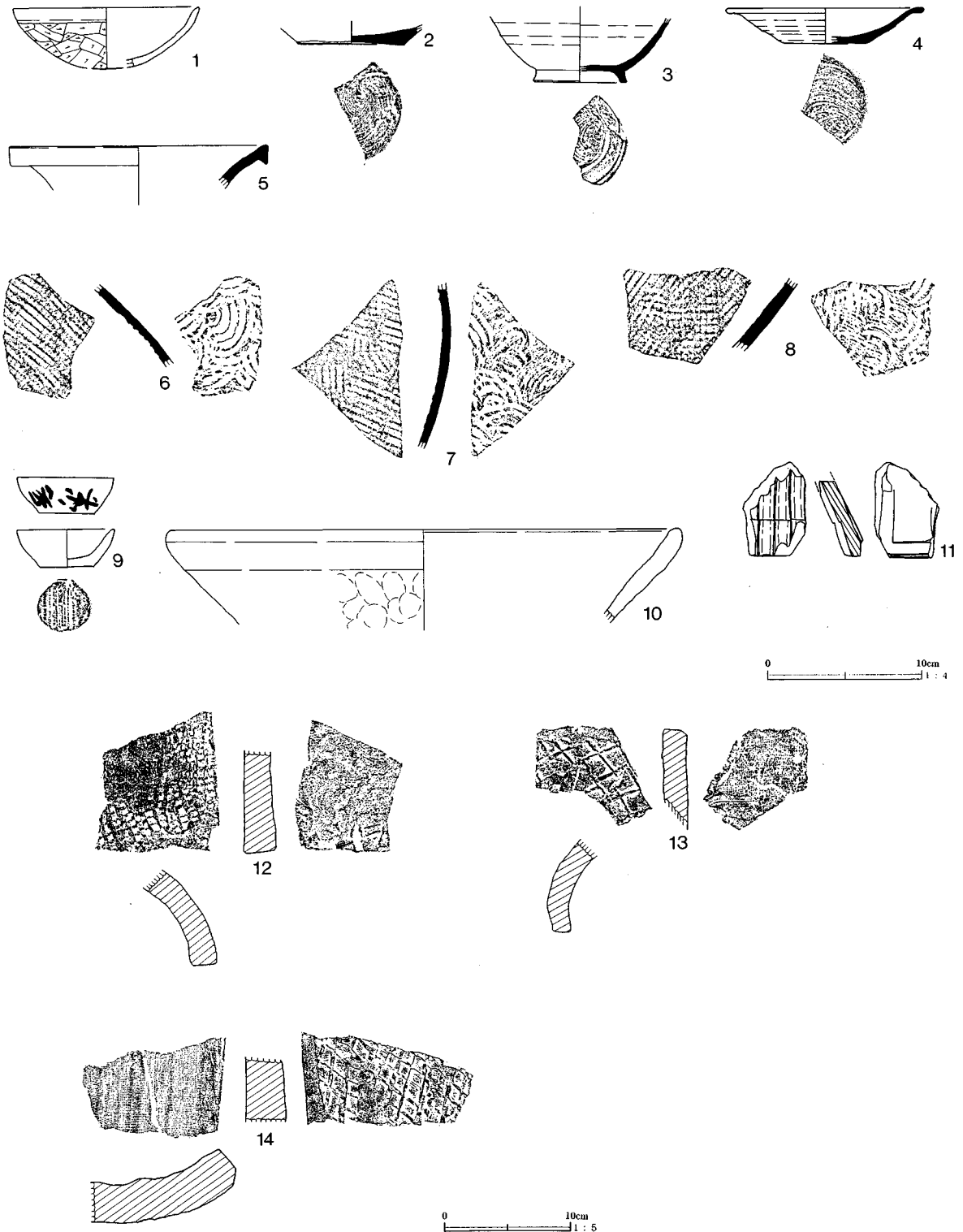
- 1 擾乱
- 2 暗褐色土 (ロームブロック・粒子、砂利含む)
- 3 暗褐色土とロームブロック粒子混合層
- 4 黒褐色土 (ローム粒子若干、下層付近に砂利含む)



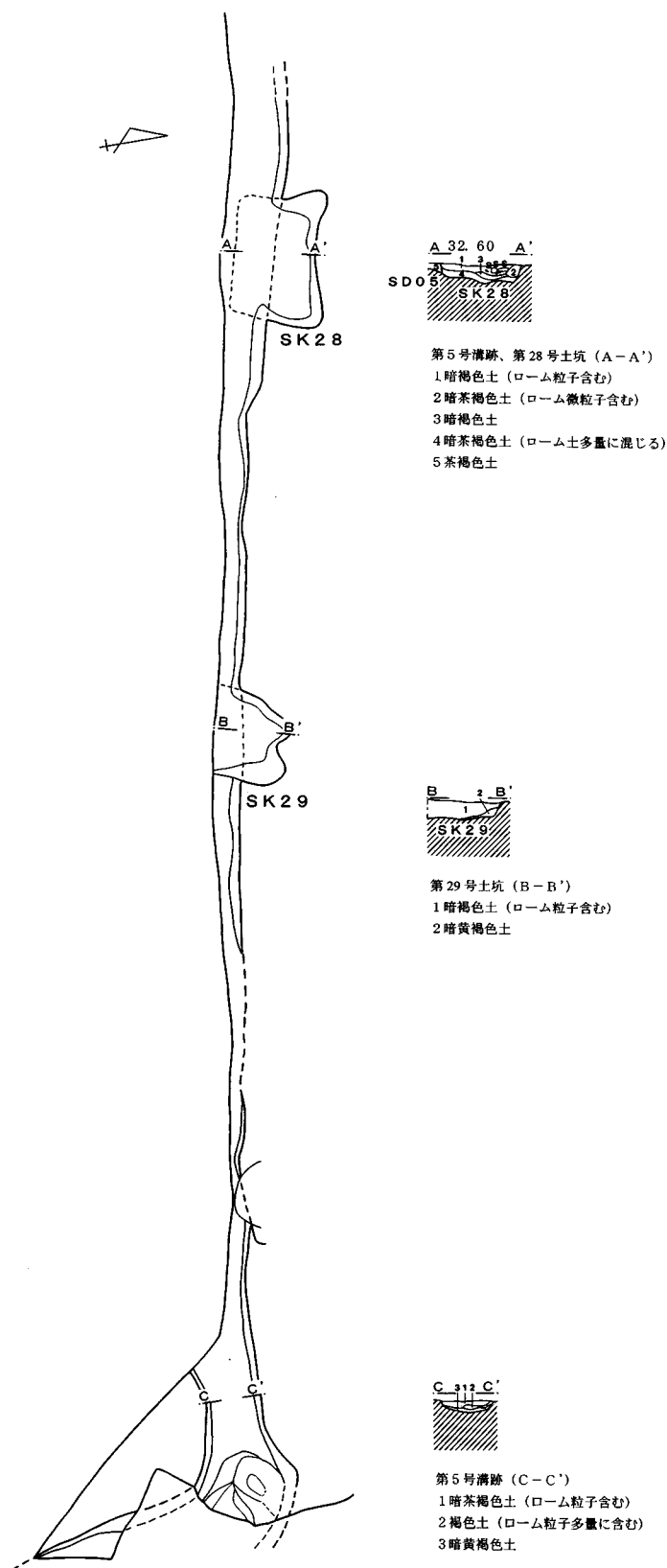
第50図 第4号遺跡

出土遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台坏・皿・甕・瓶、瓦（丸瓦・平瓦）、瓦塔屋蓋部破片等の他、土師質土器坏、鉢も出土した。これらの土師質土器・鉢は流れ込みと考えられる。土師質土器には解読不明であるが墨書が見られた。

時期は、9世紀後半代が与えられると考える。



第51図 第4号遺跡出土遺物



第52図 第5号溝跡、第28・29号土坑

第5号溝跡 (第52図)

C・D-27グリッドからA・B-31にかけて検出した。東と南半分は調査区域外へとのび、西は攪乱されて途絶えていた。途中、第4号竪穴遺構、第25・28・29号土坑と重複関係にあった。溝は第4号竪穴遺構を壊し、第28・29号土坑に壊されていたが、第25号土坑との新旧関係を明らかにすることはできなかった。

溝は、ほぼ東西に走り、東端のB-30グリッドでおよそ90° 南に折れ南下していた。

規模は、検出全長22.90m、幅0.76～1.30m、深さは0.15mであった。平面的には、溝が屈曲する箇所の床面にピット状の落ち込みが検出された。断面形状は、やや丸みの帯びた逆台形状であった。

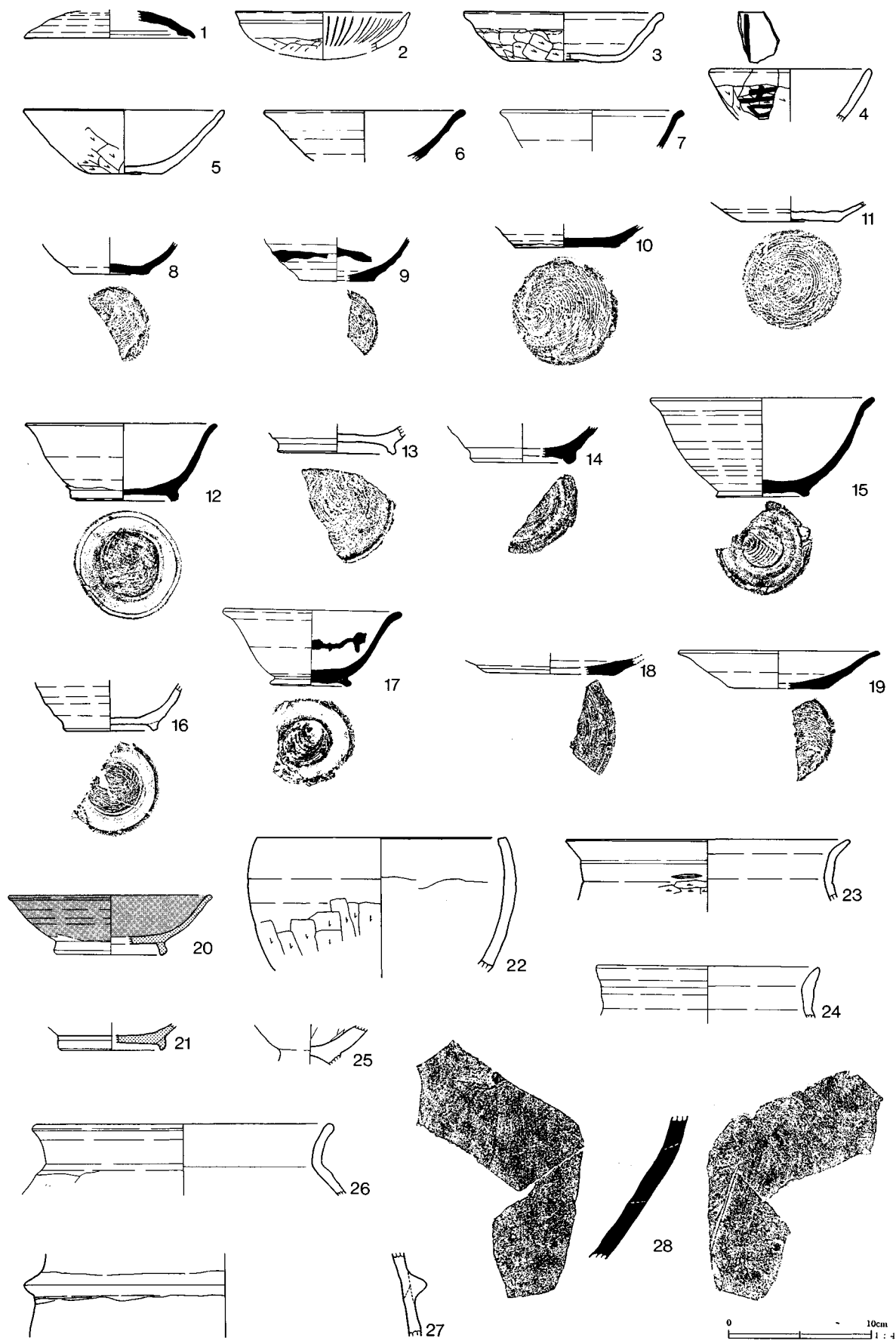
出土遺物は、須恵器・土師器細片、陶磁器、焙烙、瓦、板石塔婆、鉄釘等の破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、近世と考えられる。

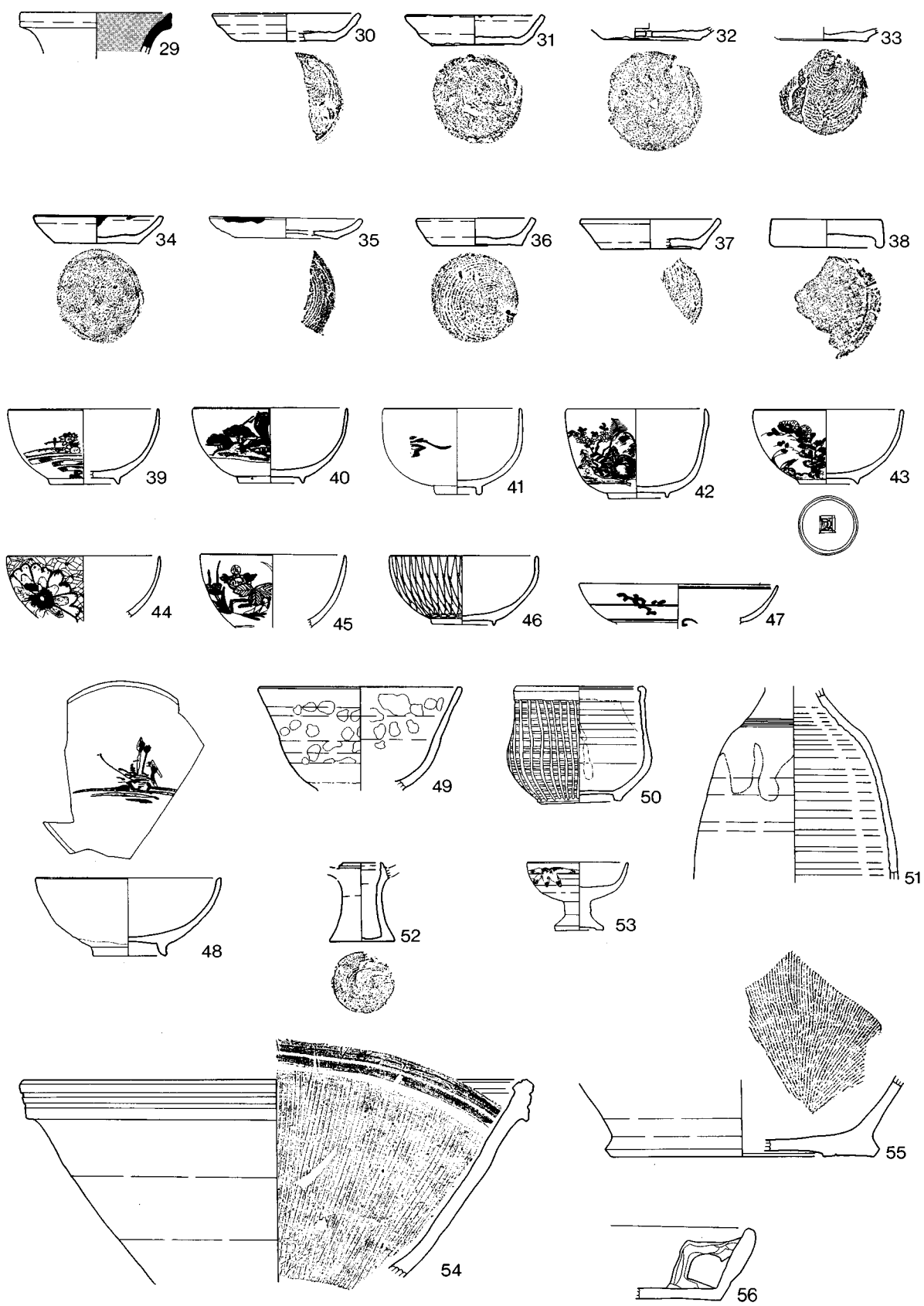
5 グリッド・表採遺物

重機による表土除去前に表採した遺物および遺構外の表土除去の際の遺物やグリッド遺物を掲載する (第53～63図、第12表)。

7世紀後半から江戸時代にかけての幅広い時期の遺物を一括する。また、寺院関連の遺物として、瓦、瓦塔、瓦堂を一括してまとめた。

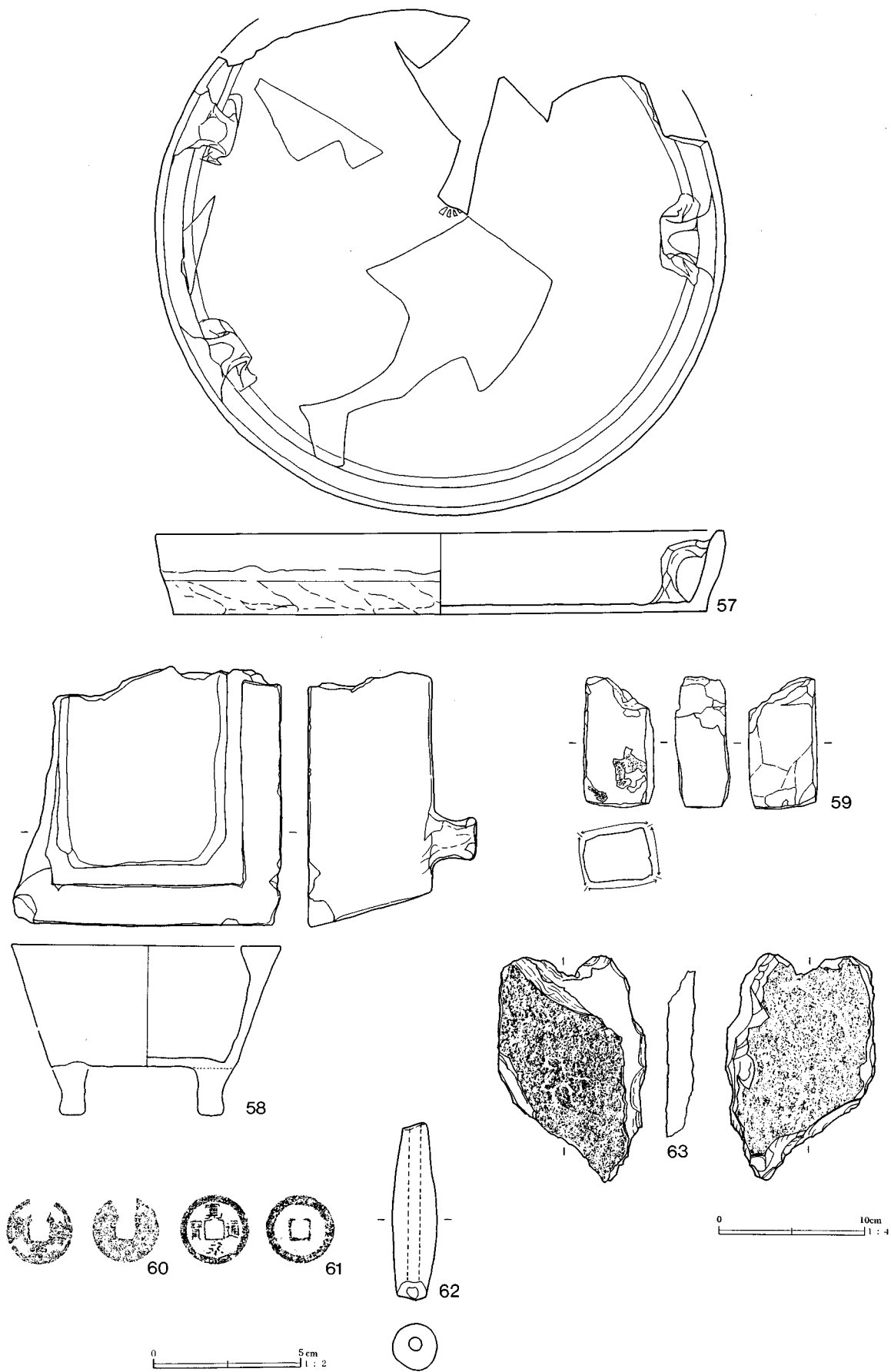


第53図 グリッド・表探遺物(1)

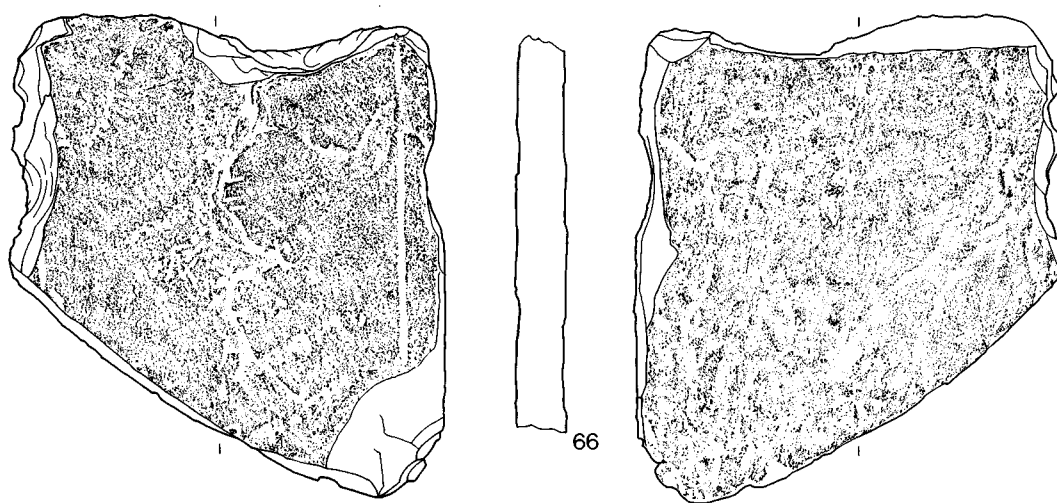
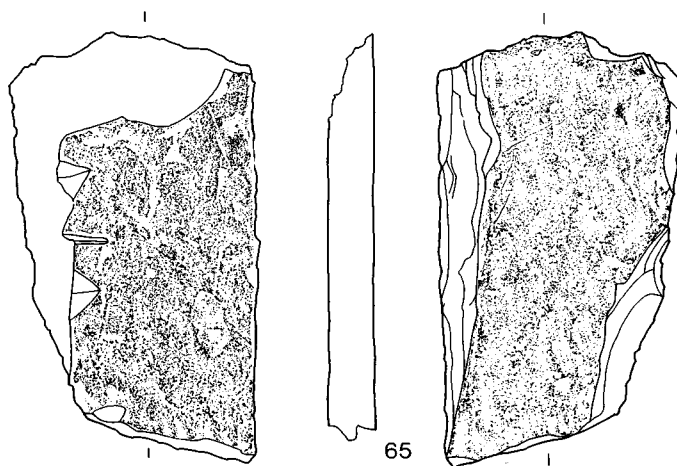
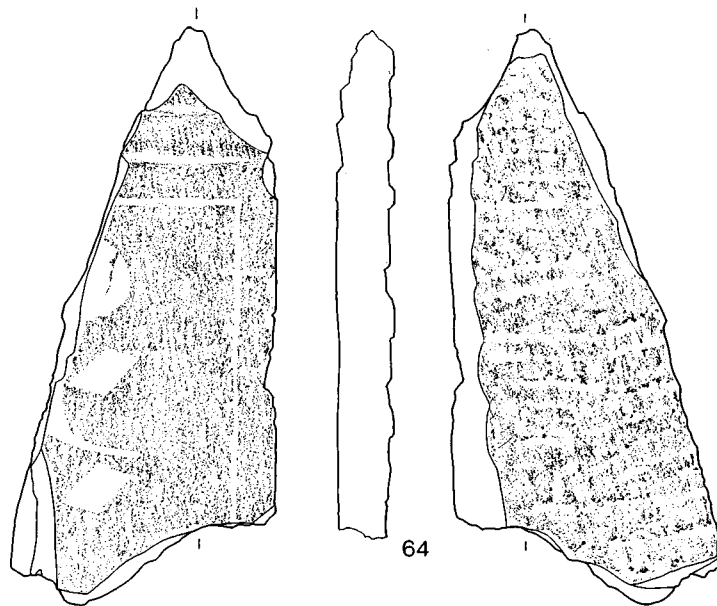


0 10cm
1 : 4

第54図 グリッド・表採遺物(2)

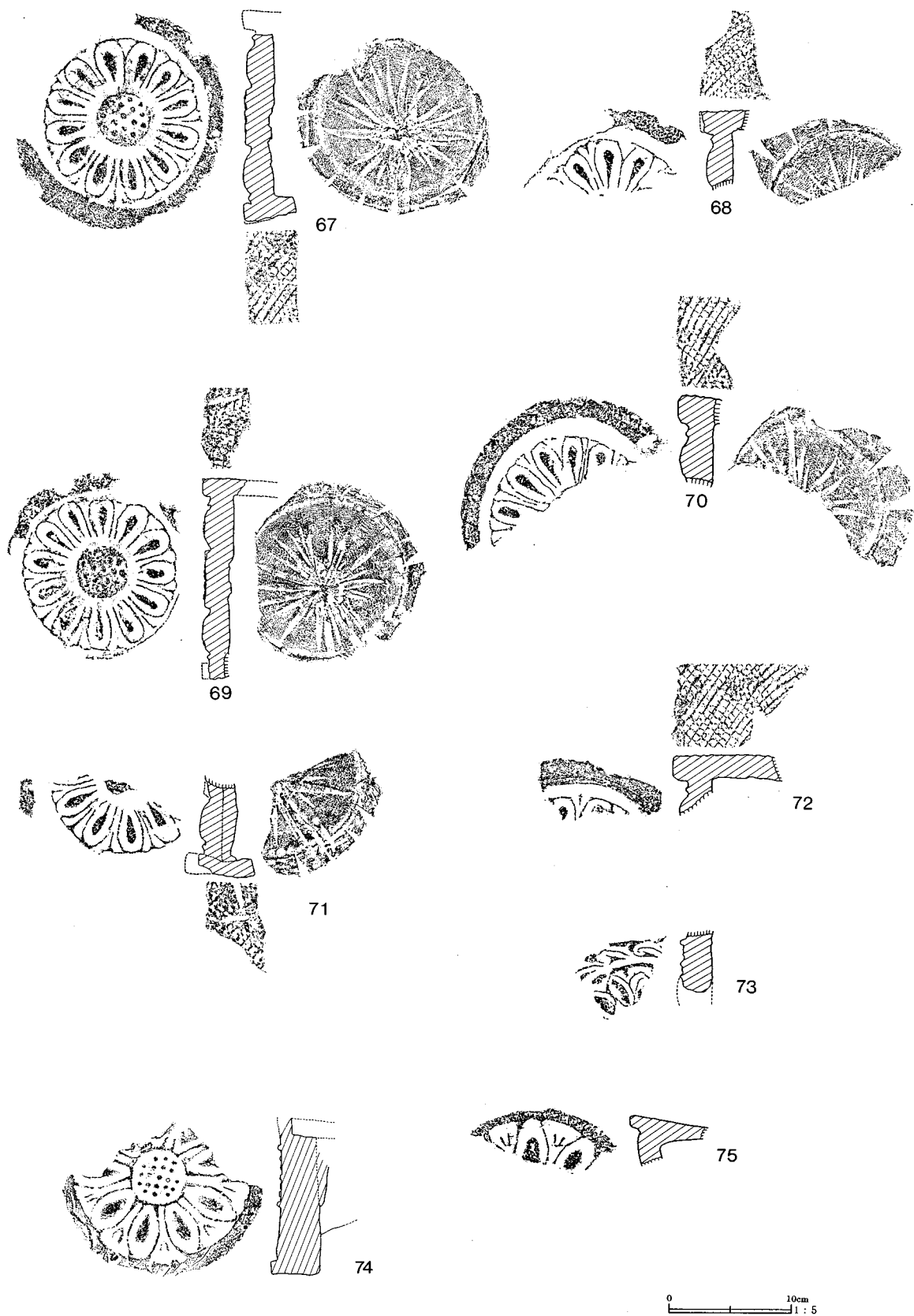


第55図 グリッド・表採遺物(3)

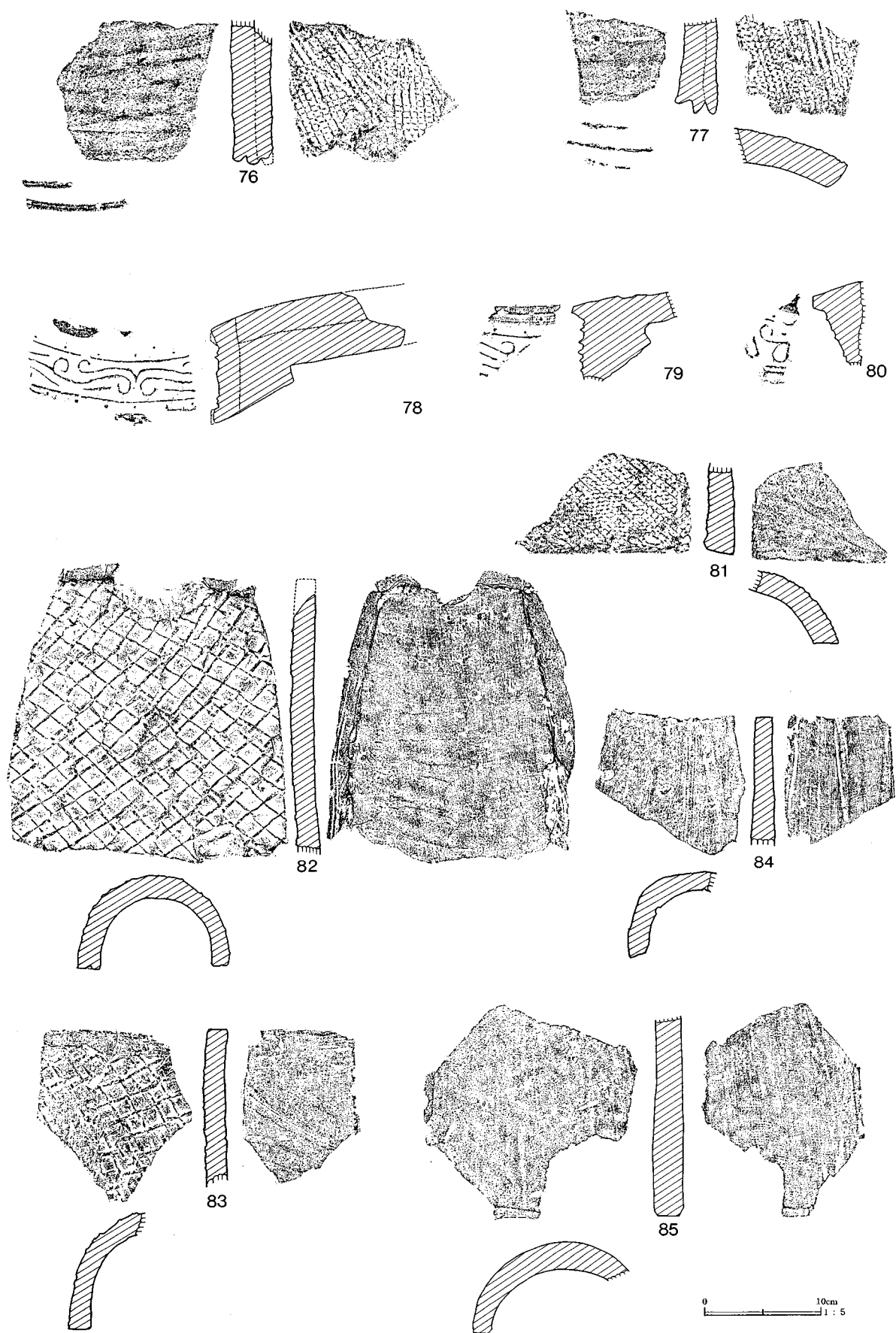


0 10cm
1 : 4

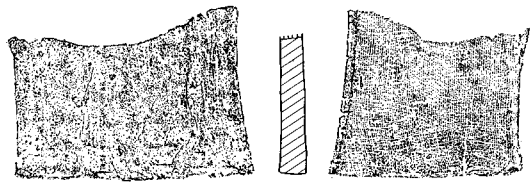
第56図 グリッド・表採遺物(4)



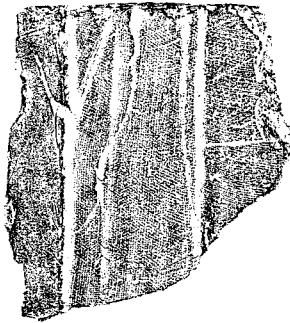
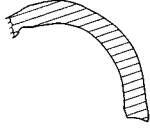
第57図 グリッド・表採遺物(5)



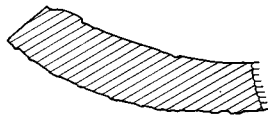
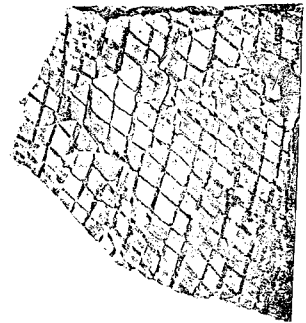
第58図 グリッド・表採遺物(6)



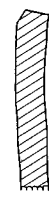
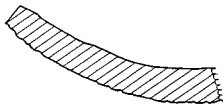
86



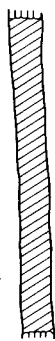
87



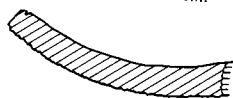
88



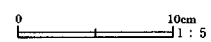
89



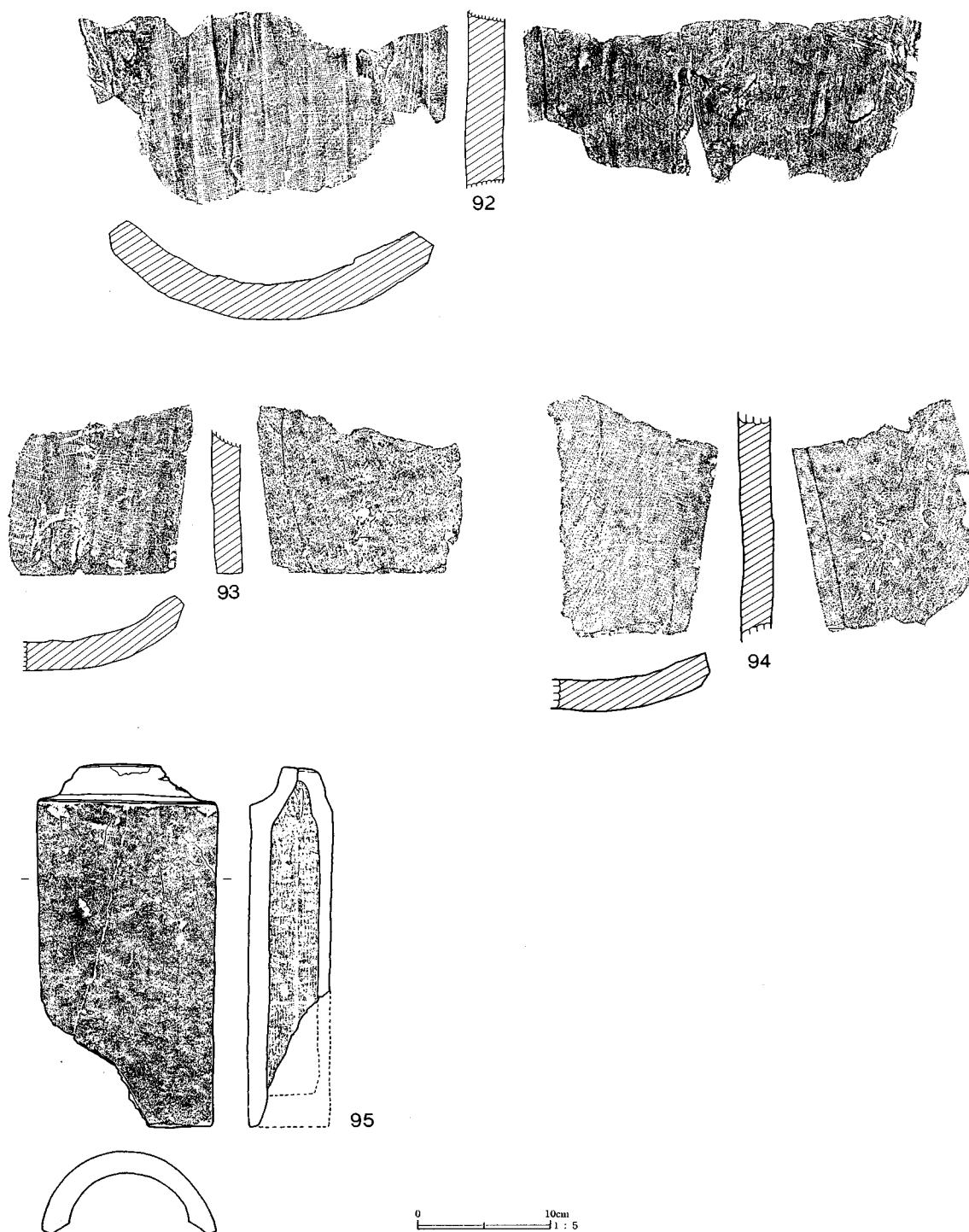
90



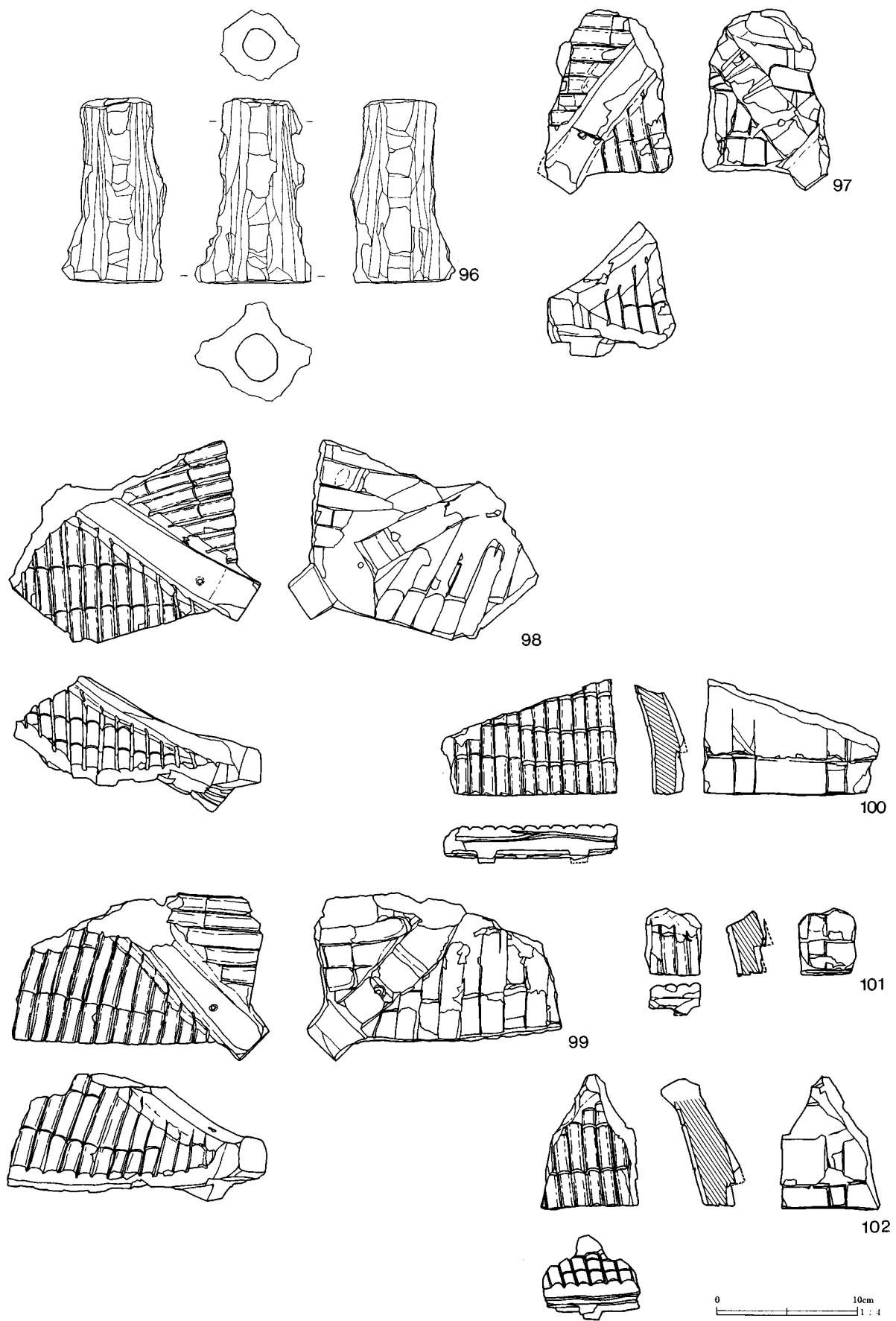
91



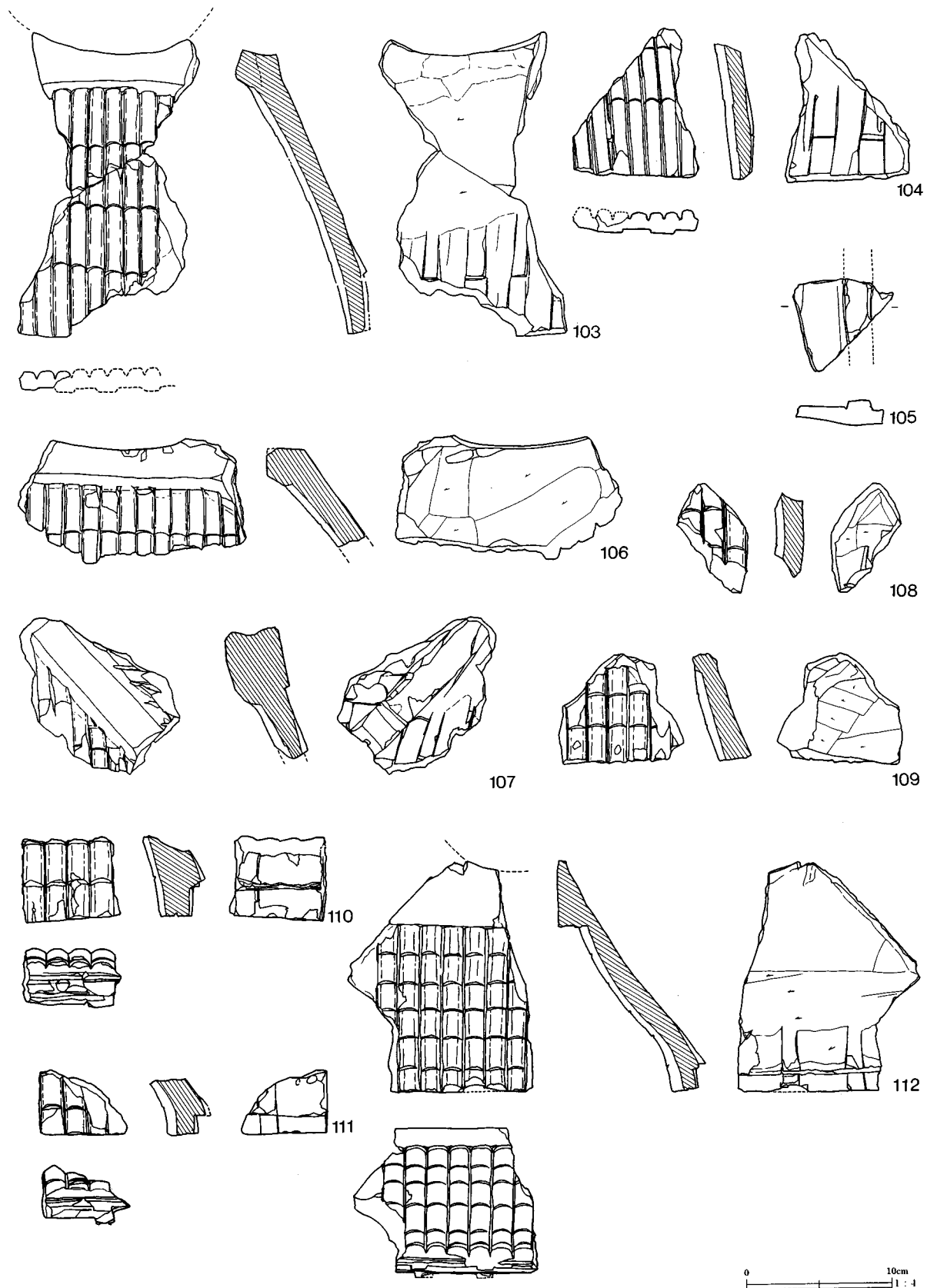
第59図 グリッド・表採遺物 (7)



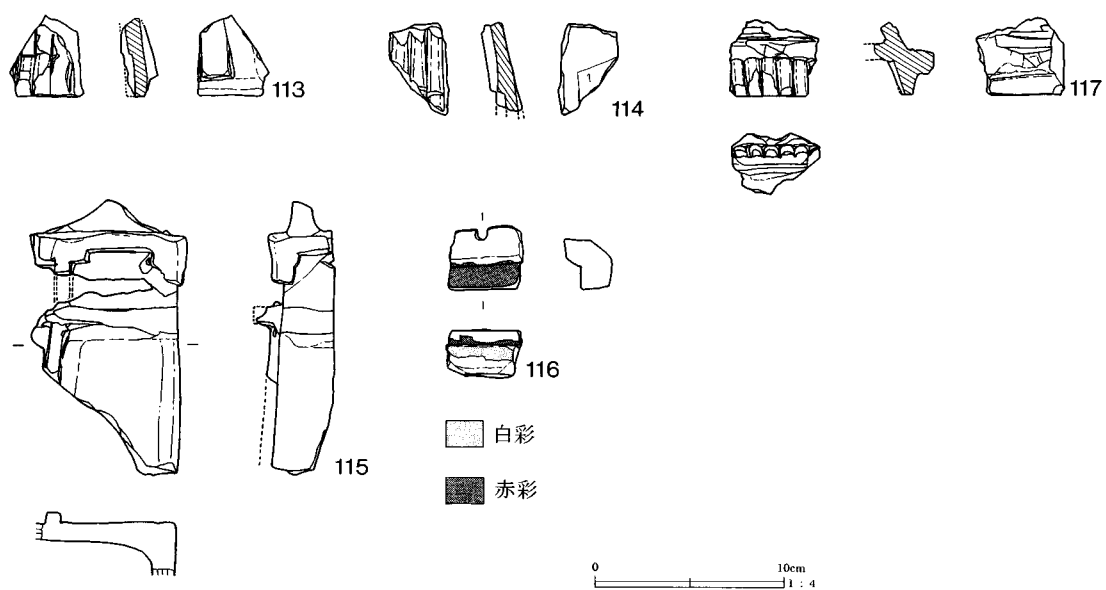
第60図 グリッド・表採遺物(8)



第61図 グリッド・表採遺物 (9)



第62図 グリッド・表採遺物 (10)



第63図 グリッド・表採遺物(11)

V 調査のまとめ

(1) 遺跡について

西別府廃寺推定箇所は鬱そうと茂った林が所在し、以前から瓦や瓦塔が拾われていたところであった。瓦の出土する点から寺院跡の他に窯跡であるという見解もあった。この採集された瓦や瓦塔は、熊谷市指定文化財の考古資料として昭和30年に指定を受け、ここから約550m東に所在する安楽寺に保管されている。その後の現地踏査の際には、瓦は発見されていなく、寺院の規模や年代等の詳細は不明であった。しかし、周辺に前方後円墳を含む古墳群が存在することから、それらを形成した有力氏族によって建立された寺院と想定されていた。今回、その西別府廃寺に初めて発掘調査というメスが入れた訳である。遺跡は、残念ながら不幸にしてかなりの面積で攪乱を受けており、遺構の遺存状態は良好なものとは言えなかったが、限られた調査の中で出来得るだけの成果が得られたものと確信している。

今回の調査において、寺院に直接関連する遺構・遺物は、寺域の西区画溝と考えられる溝跡や同時期に所在したと考えられる住居跡等の遺構と、大量に出土した瓦（単弁12葉・単弁9葉・単弁16葉蓮華文軒丸瓦、三重弧文・均正唐草文軒平瓦を含む）、瓦塔・瓦堂、須恵器鉄鉢形土器等の仏具等の遺物であった。瓦に関しては、前述した安楽寺所蔵の瓦や以前に採集された瓦に加えて新しく単弁16葉蓮華文軒丸瓦が出土した（複弁8葉蓮華文軒軒丸瓦は、今回は検出されなかった）。瓦塔に関しては、これまでに確認されている須恵質焼成の屋蓋部破片に加えて、新しく初軸部破片や相輪破片など他の部位の発見や土師質焼成の屋蓋部・初軸部破片が検出された。一方、瓦堂に関しては、今回が初めての発見となった。

それではここで、今回の調査の成果の中で特に記述すべき事項に絞って述べていきたいと思う。

(2) 遺構について

i 住居跡

調査によって検出された住居跡は合計で3軒であった。時期は各々まちまちで、第2号住居跡が最も古くて8世紀の中頃から後半代、次に第1号住居跡で9世紀の後半代の末頃、第3号住居跡はこれらの住居跡の中で最も新しく11世紀代と考えられる。この3軒の住居跡の中で、第1・2号住居跡において製鉄関連の遺物が出土した。

第2号住居跡は、住居跡の規模も大きく工房の可能性が考えられる。住居床面に鍛冶炉と思われる舟形の掘り込みや土坑・ピットが検出され、その覆土中に大量の鉄滓が炭化物や灰混じりの土から出土した。その鉄滓の総重量は約21kgにまで及ぶ出土量であった。これらに加え、羽口の大量出土、鉄器の出土があった。羽口はかなりの使用痕跡が、遺存状態や発泡・ガラス化した先端に確認できる。鉄器は釘・刀子が検出され、欠損品と思われるものが多かった。また、住居出土の瓦の中に、やはり発泡化・還元焰化しているものが見られ、この住居における工房操業状態が伺い知れるものである。これらの瓦は、何らかの形で鍛冶等の作業に供されて比熱したことが容易に推測できた。

ところで、附編として後に掲載するこの住居跡から出土した鉄滓の化学分析調査結果によると、この住居跡で加工された鉄は砂鉄が原料であったことと、製品を作る鍛錬鍛冶よりも鉄塊から不純物を取り

出す精錬鍛冶かまたは鋳物を作る鋳造の工房の跡ではないかということである。しかし、後者の見解は分析資料が少なかったため断定はできないことも付け加えておかねばならない。

これらの発掘調査結果と化学分析調査結果からこの住居跡の性格を考えると、出土遺物特に鉄器の出土から考えれば、寺院に供給すべき鉄器の生産すなわち鍛錬鍛冶の作業が行われていたと考えるのが妥当であるが、断定はできないとしながらも化学分析では精錬鍛冶ないしは鋳造の作業が行われていたと考えられる結果から判断すれば、鉄器の出土は寺院遺跡という場所柄すなわち釘は寺院の建築材料、刀子は土器生産や識字の傍証と考えるべきで、この住居の主な作業は、もしかしたら寺院に供給する鉄器を生産するために必要な原料としての鉄生産、ないしは鉄鉢などの鋳物生産であったと考えるべきなのかもしれない。しかし、その裏付けとなる遺物は今回の調査では検出されていないので、その判断は今後の調査に委ねざるを得ない。

一方、時期は異なるが、第1号住居跡でも第2号住居跡とは格段の差ではあるが、少量の鉄滓及び羽口が出土している。しかし、調査可能な部分が少なかったため炉跡のようなものは検出できなかった。出土遺物からだけだが、この住居跡も製鉄関連の遺構と考えてもよいと思う。

ところで、第3号住居跡については、この住居は西別府廃寺の推定存続時期からは大分遅れた時期のものであるが、酸化焰焼成の須恵器坏が大量かつほぼ完存状態で検出され、それらのほとんどが灯明皿用途と考えられるという特殊性をもっていた。住居跡全体の出土土器量に占める割合において、坏・高台坏が飛び抜けて多いことも付け加えられる。これらの灯明皿は何に使用されていたのか。灯りをたくさん必要とする理由は何か。仏前に灯すためのものであろうか。仏教伝来に伴い寺院では燃燈供養という法儀が行われ、この際に献燈されるという事実がある。出土した大量の油煙の付着した灯明皿は、この住居において仏教にかかわる宗教活動が盛んに行われていた証なのであろうか。本寺院の存続期間は、出土した国分寺系の瓦から9世紀第3四半期までは確実に考えられているが、この住居出土の灯明皿から、寺院自体は廃絶したが、この集落内での宗教活動は11世紀代までは確実に行われていたことが推測できる。また、仏教が寺院という専門の宗教施設から村落内へと浸透した結果を示すものとも考えることもできるのではないであろうか。

ii 溝跡

調査によって検出された溝跡は合計5条であった。そのうち南北に走る溝跡は3条、東西に走る溝跡は2条であった。ここでは寺院関連の溝と推測できる第1号溝跡について述べる。

第1号溝跡は、調査区の西端に検出された溝で、検出幅約5m、深さ約1mの比較的大きな溝跡であるが、この溝は恐らく寺域を区画する溝と考えられる。この溝跡が確認された場所は、現況道路のすぐ東側で溝の掘り方の西立ち上がりはこの道路下にあると考えられる。この現況道路は南北に走り西別府廃寺推定地をぐるりとほぼ方形に巡る道路である。推測ではあるが、この現況道路ないしはそれに沿って寺域区画溝が巡るのではないかとと思われる。溝跡からは、大量の瓦が出土しており、均正唐草文軒平瓦も含まれ、瓦塔片も検出された。また、中世の所産と考えられる土鍋、常滑の片口鉢等も出土し、中世段階まで溝が残っていたと思われる。

(3) 遺物について

iii 瓦

瓦は、主に住居跡、溝跡の遺構及び遺構外から大量に出土した。軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦であるが、その中でも軒丸瓦と軒平瓦について述べる。

軒丸瓦は、単弁12葉蓮華文（図57-67～72）、単弁9葉蓮華文（図57-74・75）及び単弁16葉蓮華文と推定されるもの（図57-73）が出土した。全て破片資料で、単弁12葉蓮華文軒丸瓦は瓦当面が完存する資料はないが最も多く7点出土した（内1点は図示しなかった）。一方、単弁9葉蓮華文軒丸瓦は2点、単弁16葉蓮華文軒丸瓦と推定されるものは1点とわずかであった。このうち単弁16葉蓮華文軒丸瓦は新出資料である。この軒丸瓦は、残存部分から推測して単弁16葉ではないかと思われるが、単弁12葉蓮華文軒丸瓦との類似性を持ち、さらには児玉郡上里町五明廃寺の単弁16葉蓮華文軒丸瓦と最も類似している。この五明廃寺例とは、界線があることや蓮弁の先端が尖る点が類似している。相違点としては、西別府廃寺例は外区内に扁行の唐草文が配されている点、五明廃寺例の間弁はやや大きめの扁平三角形の楔状であるのに対して、西別府廃寺例は界線に接続する小さめの細長い三角形である点である。また、五明廃寺例は瓦当裏面は布紋り痕が残っているが、西別府廃寺例は裏面が不明瞭で布紋り痕が残っているか不明である。

そして、五明廃寺の単弁16葉蓮華文軒丸瓦は、群馬県伊勢崎市の上植木廃寺と同県太田市の寺井廃寺と同範関係にあると見られており、西別府廃寺と群馬県（上野国）の寺との関係を考える上で貴重な発見になると考える。

一方、軒平瓦は、三重弧文（図14-38、図22-62、図46-9、図58-76・77）、均正唐草文（図46-8、図58-78～80）が出土した。やはり全て破片資料で、三重弧文軒平瓦は5点、均正唐草文軒平瓦は4点出土した。三重弧文軒平瓦は全て瓦当面が型挽き成形で、断面が丸みのあるものと尖ったものとの2種類が存在した。後者は1点のみで図58-77が該当する。全て凹面の調整は横方向のナデ、凸面の調整は小さい格子叩きであった。

一方、均正唐草文軒平瓦は破片資料で明確には言えないが、図58-78のようなやや大型の酸化焰焼成のものと図46-8、図58-79・80のような還元焰焼成のものがあるようである。特徴としては、前者は平瓦部が厚く、粘土板を2枚貼り合わせて成形する。また、後者は瓦当面の周縁が前者に比べて大きく張り出しているということである。

iv 瓦塔

瓦塔は、主に溝跡、遺構外から出土し、位置的には攪乱箇所も含むが調査区西部のH・I-5～10グリッドという幅30m以内に集中してほとんどが出土している。出土瓦塔は須恵質と土師質のものがあるが、須恵質のものが圧倒的に多く、胎土から判断すると南比企産と思われるものが比較的多く見られる。部位的には、屋蓋部が最も多く、次いで軸部【初軸部】（図22-60、図46-7、図48-18～21、図62-105、図63-115）、唯一相輪部【水煙部】（図61-96）も見られた。

屋蓋部の丸瓦表現の特徴から分類すると、須恵質のものが3種類で、①南比企産の約1.0cm 幅のもの（図61-97～102）、②南比企産の約1.5cm 幅で瓦の継ぎ目が爪線状のもの（図48-17、図62-108～110）、③幅約1.2cm のもの（図62-103・104・106・107）、土師質のものが2種類で、④幅0.8cm のも

の(図63-114)、⑤幅1.0cmのもの(図51-11、図63-113)である。また、須恵質のものは軒裏表現の飛檐垂木と地垂木が明瞭に表現してあるのに対して、土師質のものは地垂木は明瞭だが、飛檐垂木は簡単な表現に止まっている。

各部位の対応関係は、胎土・焼成の点から判断すると、須恵質のものは①②の屋蓋部と軸部(図48-18・20・21)さらに相輪部(図61-96)が、③の屋蓋部と軸部(図48-19、図62-105)が対応関係にあると考えられる。一方、土師質のものは資料が少ないため判断が難しい。

V 瓦堂

瓦堂は、全て遺構外の遺物である。須恵質2点(図62-111・112)、土師質1点(図63-117)である。いずれも屋蓋部資料だが、須恵器質の2点は同一個体と考えられ、いずれも南比企産のものと考えられる。図62-112は軒の全ての様相が分かる資料で、屋蓋部が曲線を描いて軒先へと移行することから瓦堂と判断し、2層以上の屋蓋部をもつ瓦堂の下層のものと判断できる。図62-111は、入母屋の庇屋根部分の表現のものと推測できる。

土師質の図63-117は、入母屋の庇屋根部分の表現と考えられる。

ところで、図62-109は瓦塔に分類したが、屋根を描く線が微妙にカーブ描くことから、瓦堂の可能性も捨てがたい。

以上、調査から得られたデータの中、遺構・遺物に関して特筆すべき事項についての所見を簡単にまとめてみた。何分筆者の勉強不足で十分に検討が加えられなかったことは心残りではあるが、これらの成果が西別府廃寺の実態を考える上で、さらには関東の初期古代寺院の実態を考える上での一助となれば幸いである。

引用・参考文献

- 『熊谷市史』前編 熊谷市 1963
『新編 埼玉県史』資料編1 1980
『新編 埼玉県史』資料編2 1982
『新編 埼玉県史』資料編3 1984
小久保徹他『三尻天王・三尻林(1)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第23集(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983
高山清司「三ヶ尻上古遺跡」『埼玉県土器集成』4 埼玉考古学会 1976
金子正之「横間栗遺跡(2次)」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和62年度 埼玉県教育委員会 1990
金子正之「熊谷市横間栗遺跡の調査(第2次)」『第29回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉考古学会他 1988
中島 宏他『池守・池上』 埼玉県教育委員会 1984
吉田 稔他『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991
磯崎 一『新田裏・明戸東・原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第85集(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
寺社下博他『中条条里遺跡調査報告書I』 熊谷市教育委員会 1979
寺社下博他『天神遺跡』 熊谷市教育委員会 1988
寺社下博『中条遺跡群Ⅲ 権現山古墳・常光院東遺跡』 熊谷市教育委員会 1982
滝瀬芳之『東川端遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1990
増田逸朗他『横塚山古墳』 埼玉県遺跡調査会 1971

寺社下博『天神下・土用ヶ谷戸遺跡』 熊谷市教育委員会 1984
 寺社下博「三尻中学校遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和55年度 埼玉県教育委員会 1982
 金子正之『三尻遺跡群 黒沢館・樋ノ上遺跡』 熊谷市教育委員会 1985
 小川良祐他『樋の上遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986
 金子正之『三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡』 熊谷市教育委員会 1982
 金子正之『三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡』 熊谷市教育委員会 1984
 中村倉司『下辻遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第69集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1987
 川口 潤『本郷前東遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第78集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
 利根川章彦他『新ヶ谷戸』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第9集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982
 寺社下博「熊谷市籠原裏遺跡の調査」『第20回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉考古学会他 1987
 『埼玉県古代寺院調査報告書』 埼玉県県史編さん室 1982
 昼間孝志他「北武蔵における古瓦の基礎的研究Ⅰ」『研究紀要』 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986
 大場磐雄・小沢國平「新発見の祭祀遺跡」『史跡と美術』第338号 1963
 浅野晴樹『北島遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
 中村倉司『北島遺跡』Ⅱ 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
 大谷 徹『北島遺跡』Ⅲ 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991
 『埼玉の館城跡』 埼玉県教育委員会 1968
 『埼玉の中世城館跡』 埼玉県教育委員会 1988
 金子正之『三尻遺跡群 若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡』 熊谷市教育委員会 1986
 金子正之『三尻遺跡群 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』 熊谷市教育委員会 1986
 吉野 健『西方遺跡』 熊谷市教育委員会 1989
 篠崎 潔『臼樹原・檜下遺跡Ⅲ 奈良・平安時代編2』 臼樹原・檜下遺跡調査会報告書第3集 臼樹原・檜下遺跡調査会 1991
 外尾常人他『五明廃寺発掘調査報告書』 上里町教育委員会 1987

出土遺物観察表

第1表 第1号住居跡出土遺物観察表 (第7・8図)

番号	器種	法量 (cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(12.0) 残存高3.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭 圧痕、内面ヨコナデ。底部外面ヘラケ ズリ。		白色粒子含む。	にぶい褐色	良好	口縁の 25%	内面に油煙 付着。 灯明皿用途。
2	坏	口径(13.0) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半 指頭圧痕、下半ヘラケズリ。内面ヨコ ナデ。		白色粒子、黒色 粒子含む。	外面:明黄褐色、 橙色 内面:にぶい黄 褐色	良好	口縁の 30%	
3	坏	口径(12.4) 器高5.3 底径6.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。		長石、片岩、礫含 む。	暗青灰色	良好	35%	末野産。
4	高台坏	口径(12.6) 器高3.9 底径5.5	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子含む。	灰白色	良好 (堅緻)	40%	内面に朱付 着。
5	坏	口径(14.5) 残存高3.5	内外面回転ナデ。		白色粒子含む。	外面:灰白色 内面:灰黄色、 一部灰色	良好 (堅緻)	口縁の 25%	内面に墨書。
6	坏	口径(16.8) 残存高5.5	内外面回転ナデ。		白色粒子、長石、 片岩含む。	暗灰色	良好 (堅緻)	口縁の 25%	末野産。
7	高台坏	口径(13.8) 器高5.7 底径7.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。さらにナデで糸切り 痕消す。		白色粒子、赤色 粒子、長石含む。	黄褐色	良好	60%	内面に酸化 鉄付着。
8	高台坏	口径(15.4) 器高6.1 底径7.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。糸切り痕はナデられ て消されている。		白色粒子、赤褐 色粒子、片岩、 礫含む。	淡黄灰褐色	やや 良好	25% (口縁の 20%)	
9	高台坏	口径(14.0) 残存高5.3	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒色 粒子、赤褐色子 含む。	外面:明赤褐色 内面:にぶい褐 色、にぶい赤褐 色	良好	口縁の 25%	
10	坏	口径(13.3) 残存高4.3	内外面回転ナデ。		白色粒子、長石、 礫含む。	外面:にぶい黄 褐色 内面:にぶい褐 色	良好	口縁の 25%	
11	高台坏	残存高2.9 底径6.3	内外面回転ナデ。底部高台ナデツケ、 高台内もナデ。		褐色粒子、砂粒、 細礫含む。	にぶい褐色	良好	底部 100%	
12	皿	口径(13.3) 器高2.6 底径(5.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、黒色 粒子、片岩含む。	灰色、灰オリ ーブ色	良好 (堅緻)	口縁の 25%	
13	鉄鉢形 土器	口径(20.8) 残存高11.2	内外面回転ナデ。		白色粒子、片岩、 礫含む。	灰オリーブ色	良好	口縁の 35%	内外面黒色 処理。
14	台付甕	口径(18.6) 残存高5.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面 ヘラケズリ、内面ナデ。		赤褐色粒子、黒 雲母含む。	外面:灰褐色、に ぶい赤褐色 内面:にぶい赤 褐色	良好	口縁の 15%	
15	台付甕	口径(14.2) 残存高5.6	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部外面 ヘラケズリ、内面ナデ。		石英含む。	明赤褐色	良好	口縁の 15%	内外面煤け る。
16	甕	残存高7.5 底径12.6	単孔甕。胴部外面ヘラケズリ、内面ナ デ。		白色粒子、褐色 粒子、砂粒、石英 含む。	橙色	良好	底部破 片(胴 下半部 破片)	
17	羽口	残存長8.0 外径(8.0)	表面ナデ。ヘラ状工具のキズあり。 口部付近は発泡化する。						口部、 基部欠 損
18	丸瓦	厚さ1.5~ 2.0	凸面:斜格子大叩き。 凹面:布目痕、粘土紐痕。	6×6	白色粒子、細礫 (最大1.5×0.5cm 大含む。)	暗灰色	良好		

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
19	平瓦	厚さ1.0～ 1.7	凹面:布目痕、一部ナデ。 凸面:縦方向のナデ、端部横方向のナデ。	7×7	白色粒子、白色 針状物質、細礫 (0.7～1.0cm大) 含む。	灰黄色	良好		南比企産。
20	丸瓦	厚さ0.9～ 1.1	凸面:ナデ。 凹面:布目痕。	7×7	白色粒子、黒色 粒子、長石含む。	灰白色	やや 良好		
21	丸瓦	厚さ1.2～ 1.5	凸面:正格子小叩き後ナデ。 凹面:布目痕。	5×5	白色粒子、赤褐 色粒子含む。	外面:灰白色 内面:灰色	良好		
22	平瓦	厚さ1.4～ 2.1	凹面:布目痕。 凸面:縄叩き。	8×7	細礫、白色針状 物質、長石含む。	灰色、暗青灰 色	良好	狭端部 側	南比企産。
23	平瓦	厚さ1.0～	凹面:布目痕、横方向のナデ。 凸面:ナデ。	7×7	白色粒子含む。	灰白色	良好		

第2表 第2号住居跡出土遺物観察表(第12～17図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径12.4 器高2.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面未調整。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子、黒雲 母含む。	明赤褐色	良好	100%	内面黒色処理。
2	坏	口径12.2 器高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面未調整。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。		白色粒子、砂粒、 黒雲母多量に 含む。	明赤橙色、橙色	良好	100%	口縁部に油 煙付着。 灯明皿用途。
3	坏	口径12.5 器高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面未調整。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。		砂粒、長石含む。	明赤褐色	良好	60%	
4	坏	口径(11.2) 器高2.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面未調整。底部外面ヘラケズリ。内面ナデ。		白色粒子、黒色 粒子含む。	明赤褐色	良好	40%	内外面に煤 付着。
5	坏	口径(14.9) 器高4.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部・底部とも外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子含む。	橙色	良好	35%	内外面に酸 化鉄付着。
6	坏	口径13.2 器高2.6	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半未調整。下半ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。内面に放射状暗文施す。		白色粒子、黒雲 母含む。	赤褐色	良好	99%	
7	坏	口径(13.1) 器高2.7	口縁部・体部ともヘラケズリ後ヘラミガキ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ、放射状暗文施す。		白色粒子、砂粒 含む。	外面:橙色、明黄 褐色 内面:橙色	良好	45%	
8	坏	口径(14.2) 残存高2.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面未調整。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子、黒雲 母含む。	にぶい橙色、に ぶい赤褐色	良好	20%	
9	坏	口径(13.3) 器高2.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面未調整。底部外面ヘラケズリ？		白色粒子含む。	外面:橙色 内面:明赤褐色	良好	口縁の 25%	内外面黒色 処理。
10	蓋	口径(20.0) 残存高3.6	甲部外面回転ヘラケズリ。その他内外面回転ナデ。 つまみ欠損。		白色粒子、白色 針状物質、長石、 細礫含む。	灰色	良好	50%	内外面に酸 化鉄付着。 口縁部付近 に自然釉。 南比企産。
11	坏	口径(13.0) 器高3.6	内外面回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。		白色粒子、白色 針状物質、細礫 (白色粒)含む。	外面:灰色 内面:灰白色	良好	50%	南比企産。
12	高台坏	口径14.8 器高5.6 底径7.5	内外面回転ナデ。底部外面回転系切り後高台ナデツケ。		白色粒子、長石、 細礫(白色粒)含 む。	灰色	良好	80%	底部内面に 墨書「平」。 末野産。
13	高台坏	残存高3.8 底径(7.7)	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。		白色粒子、細礫 含む。	灰色	やや 良好	底部の 25%	末野産。
14	皿 (土師質 土器)	口径7.2 器高2.2 底径2.8	口縁部・体部とも回転ナデ。底部外面回転系切り。		白色粒子、砂粒 含む。	にぶい橙色	良好	55%	口縁部に油 煙付着。 灯明皿用途。 遺構外遺物。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
15	台付甕	—	脚台部外面ヨコナデ。内面ヘラ状工具によるナデ。		白色粒子含む。	橙色	良好	底部及び脚台部上半破片	
16	小壺	残存高1.4 底径(4.1)	内外面回転ナデ。 緑色、黄色、褐色の釉薬がかかる。		密。	灰白色	良好	底部破片	三彩。
17	壺	厚さ0.4～ 0.8	胴部内外面回転ナデ。		白色粒子、細礫 含む。	青灰色	良好	胴部破片	遺構外遺物。
18	甕	厚さ1.4～ 2.1	外面格子叩き。内面青海波文。		白色粒子、黒色 粒子、長石含む。	外面：暗青灰色 内面：青灰色	良好	胴部破片	
19	甕	厚さ1.6～ 1.8	外面格子叩き。内面青海波文。		白色粒子、黒色 粒子含む。	外面：緑灰色 内面：灰色	良好	胴部破片	
20	刀子	残存長6.5 刃部最大幅 1.2 茎部幅1.8	切先及び茎部の大部分が欠損する。 切先に向かって細くなる形状。						
21	釘	残存長5.2 最大厚0.4	断面正方形の角釘。頭部は端を折り曲げて鍛き出す。全体がくの字に曲がる。					100%	遺構外遺物。
22	釘	残存長5.8 最大厚0.7	断面正方形の角釘。頭部は端を折り曲げて平らに鍛き出す。先端は欠損する。						
23	釘	残存長8.4 最大厚0.6	断面正方形の角釘。頭部は欠損する。						
24	釘	残存長7.9 最大厚0.9	断面長方形の角釘。頭部及び先端が欠損する。						
25	釘	残存長5.2 最大厚0.9	断面長方形の角釘。頭部が大きく折り曲がる。先端は欠損する。						
26	羽口	残存長8.0 外径6.1 孔径2.2	表面ナデ。口部発泡化する。					基部欠損	
27	羽口	残存長8.2 外径6.8	表面指頭圧痕。口部発泡化・ガラス化する。					基部欠損	
28	羽口	長さ10.8 外径7.0	表面ヘラ状工具によるナデ。口部発泡化する。					口部～基部残存	
29	羽口	長さ12.2 外径6.8 孔径2.3	表面ヘラ状工具によるナデ。口部発泡化・ガラス化する。					口部～基部残存	
30	羽口	残存長11.3 外径6.9 孔径2.4	表面ヘラ状工具によるナデ。口部発泡化・ガラス化する。					基部欠損	
31	羽口	残存長10.3 外径7.2 孔径2.2	表面指頭圧痕ナデ。口部発泡化・ガラス化する。					基部欠損	
32	羽口	残存長7.6 外径7.3 孔径1.9	表面ヘラ状工具によるナデ。口部ガラス化する。					基部欠損	
33	羽口	残存長7.9 外径7.0 孔径2.4	表面指頭圧痕。					口部欠損	
34	羽口	長さ11.2 外径7.8 孔径2.4	表面ナデ。口部発泡化・ガラス化する。孔径は基部で最大。					口部～基部残存	

番号	器種	法量 (cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
35	羽口	残存長9.4 外径7.3	表面ナデ。					口部欠損	
36	羽口	残存長10.3 外径7.6	表面ヘラ状工具によるナデ。口部発泡化・ガラス化する。					基部欠損	
37	羽口	残存長8.7 外径9.0 孔径2.4	表面ナデ。口部発泡化・ガラス化する。					基部欠損	大型羽口。
38	三重弧 文軒平瓦	瓦当厚4.0 顎幅6.2	瓦当面：型挽き。顎：段顎、粘土板貼り付け成形。 凹面：横方向のナデ。 凸面：正格子小叩き。 粘土紐造り。	—	白色粒子、長石、片岩、礫、砂粒多量に含む。	にぶい黄褐色、 橙色	良好	瓦当面～顎部分残存	被熱で還元焙化、発泡化した箇所あり。
39	丸瓦	厚さ1.8～ 2.3	凸面：正格子小叩き。 凹面：横方向のナデ。 粘土紐丸木造り。	—	白色粒子、黒色粒子、長石含む。	灰白色	良好		凸面に酸化鉄付着。
40	丸瓦	厚さ0.8～ 2.5	凸面：斜格子叩き。 凹面：横方向のナデ。 粘土紐丸木造り。	—	白色粒子、細礫含む。	灰色	良好		凸面に酸化鉄付着。
41	丸瓦	厚さ1.1～ 1.3	凸面：縄叩き後ナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。	7×7	白色粒子、長石含む。	黒色、青灰色	やや良好		
42	丸瓦	厚さ1.4～ 2.3	凸面：縦方向のナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。	9×9	白色粒子、礫(0.8cm大)含む。	灰白色、灰色	やや良好	狭端部側	No.43と同一個体か？
43	丸瓦	厚さ1.9～ 2.2	凸面：縦方向のナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。	8×9	白色粒子、礫(0.3cm大)含む。	灰色、にぶい橙色	やや良好		No.42と同一個体か？
44	丸瓦	厚さ1.0～ 2.5	凸面：縦方向のナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。	8×8	白色粒子、赤褐色粒子、礫(0.3cm大)、砂粒含む。	にぶい橙色、にぶい赤褐色	良好	狭端部側	
45	丸瓦	厚さ1.2～ 3.2	凸面：横方向のナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。	8×7	白色粒子、礫(0.4cm大)含む。	青灰色	良好	狭端部側	玉縁付。
46	平瓦	厚さ1.4～ 1.7	凹面：横方向のナデ。 凸面：斜格子小叩き、端部はヨコナデ。 粘土紐造り。	—	褐色粒子、片岩、礫(0.5cm大)、砂粒多量に含む。	にぶい黄褐色	良好		軒平瓦の平瓦部か？ No.38と同一個体か？
47	平瓦	厚さ1.4～ 1.8	凹面：横方向のナデ。 凸面：斜格子小叩き(磨り消される)。 粘土紐造り。	—	白色粒子、長石、礫(0.5cm大)含む。	灰色	良好		軒平瓦の平瓦部か？ 酸化鉄付着。
48	平瓦	厚さ1.7～ 2.8	凹面：横方向のナデ。 凸面：正格子小叩き。 粘土紐造り。	—	白色粒子多量、礫(0.3cm大)含む。	灰色	良好	広端部側	
49	平瓦	厚さ1.2～ 2.4	凹面：横方向のナデ。 凸面：斜格子小叩き、端部はヨコナデ。	—	白色粒子、長石、片岩、礫含む。	灰色、青灰色	良好	広端部側	軒平瓦の平瓦部か？
50	平瓦	厚さ2.0～ 2.7	凹面：布目痕、糸切り痕、布とじ目痕。 凸面：斜格子小叩き。 粘土板一枚造り。	6×6	白色粒子多量、長石、礫含む。	灰色	良好		
51	平瓦	厚さ1.7～ 2.6	凹面：横方向のナデ。 凸面：斜格子小叩き。 粘土紐造り。	—	白色粒子多量、片岩、礫、砂粒多量に含む。	灰色	良好	広端部側	
52	平瓦	厚さ2.1～ 3.4	凹面：布目痕、模骨痕。 凸面：斜格子小叩き。 粘土紐桶巻造り。	6×7	褐色粒子、礫(最大1.0cm大)、砂粒含む。	橙色、浅黄褐色	やや良好		
53	平瓦	厚さ1.1～ 2.6	凹面：布目痕、糸切り痕、模骨痕。 凸面：縄叩き。 粘土板桶巻造り。	6×7	白色粒子、褐色粒子、長石、片岩、礫(0.4cm大)含む。	灰白色、青灰色 黄灰色	良好	広端部側	

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
54	平瓦	狭端部幅 23.3 広端部幅 (28.0) 厚さ1.4～ 3.0	凹面：布目痕、模骨痕、糸切り痕。 凸面：縦方向のナデ。 粘土板桶巻造り。	8×8	白色粒子、長石、 礫(0.5cm 大)含 む。	灰色、にぶい黄 橙色	良好	80%	
55	平瓦	厚さ1.8～ 3.2	凹面：布目痕、布とじ目痕、糸切り痕、 模骨痕。 凸面：ナデ。 粘土板桶巻造り。	8×8	白色粒子、黒褐 色粒子、礫(0.2 ～0.8cm 大)含 む。	灰白色	良好		
56	平瓦	厚さ1.3～ 2.9	凹面：布目痕、糸切り痕、模骨痕。 凸面：ナデ。 粘土板桶巻造り。	8×10	白色粒子、黒色 粒子、長石含む。	灰色	良好	狭端部 側	
57	平瓦	厚さ1.6～ 2.1	凹面：布目痕、糸切り痕、模骨痕。 凸面：ナデ。 粘土板桶巻造り。	7×8	白色粒子、黒色 粒子、礫(0.4cm 大)含む。	灰色	良好		

第3表 第3号住居跡出土遺物観察表 (第20～23図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(12.3) 残存高3.3 底径(9.8)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭 圧痕。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコ ナデ。		白色粒子含む。	明赤褐色	良好	口縁の 30%	口縁部内面 に油煙付着。 灯明皿用途。
2	坏	口径(12.1) 残存高3.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭 圧痕。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコ ナデ。		白色粒子、赤褐 色粒子含む。	にぶい褐色、灰 褐色	良好	口縁の 10%以 下	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
3	坏	口径(11.9) 器高3.7 底径(6.6)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半 指頭圧痕、下半ヘラケズリ。底部外面 離れ砂。内面ナデ。		褐色粒子、黒色 粒子、砂粒多量 含む。	浅黄色、灰色	良好	口縁の 25%	
4	坏	口径12.4 器高4.0 底径5.1	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半 指頭圧痕、下半ヘラケズリ。底部外面 離れ砂。内面ヨコナデ。		白色粒子、砂粒、 長石含む。	外面：にぶい黄 橙色 内面：明黄褐色、 橙色	良好	100%	内外面に油 煙付着。灯 明皿用途。
5	坏	口径12.0 器高4.1 底径6.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半 指頭圧痕及びヘラケズリ、下半ヘラケ ズリ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコ ナデ。		赤褐色粒子、黒 雲母含む。	にぶい黄橙色	良好	70%	
6	坏	口径12.7 器高4.4 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、石英、 黒雲母、礫(0.3 cm 大)わずかに 含む。	外面：灰色 内面：浅黄色	良好	95%	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
7	坏	口径12.4 器高4.5 底径5.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、黒色 粒子、赤褐色粒 子、石英、黒雲 母含む。	淡黄褐色、橙色	良好	99%	内面に煤付 着。灯明皿 用途。
8	坏	口径(12.2) 器高3.7 底径(6.5)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、砂粒、 長石含む。	明黄褐色、橙色、 灰オリーブ色	不良	40%	内面が発泡 ・ガラス化 する。
9	坏	口径12.0 器高4.2 底径5.5	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、黒雲 母含む。	淡黄色、オリ ブ黒色	良好	85%	内外面に墨 書「明」。
10	坏	口径12.3 器高4.3 底径5.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、黒雲 母、砂粒多量に 含む。	外面：明黄褐色、 にぶい橙色 内面：明黄褐色、 黄灰色	良好	100%	口縁内面に 油煙付着。 灯明皿用途。 内面に酸化 鉄付着。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
11	坏	口径12.1 器高3.8 底径4.9	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒色 粒子含む。	にぶい黄橙色、 橙色	良好	60%	
12	坏	口径(12.9) 器高4.2 底径(6.3)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒雲 母含む。	にぶい黄褐色、 橙色	良好	口縁の 25%	
13	坏	口径12.3 器高4.3 底径5.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		赤褐色粒子、黒 雲母含む。	淡黄色、明黄褐 色	良好	70%	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
14	坏	口径12.8 器高4.4 底径6.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母 石英含む。	橙色、浅黄色、に ぶい褐色	良好	99%	口縁部内面 に油煙付着。 灯明皿用途。
15	坏	口径(12.9) 器高4.1 底径(5.6)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		褐色粒子、黒雲 母含む。	外面: 橙色、浅黄 色 内面: 灰白色	良好	25%	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
16	坏	口径12.8 器高4.1 底径5.9	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、褐色 粒子、雲母含む。	にぶい黄橙色、 黒色	やや 良好	80%	
17	坏	口径12.3 器高3.9 底径6.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒雲 母、砂粒含む。	灰オリーブ色、 にぶい橙色	良好	97%	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
18	坏	口径12.2 器高3.8 底径5.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、雲母、 砂粒含む。	外面: 淡黄色 内面: 灰黄褐色	良好	100%	内外面に油 煙付着。灯 明皿用途。
19	坏	口径12.4 器高3.9 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、赤褐 色粒子、石英、 黒雲母含む。	外面: にぶい橙 色、浅黄色 内面: 明黄褐色、 にぶい橙色	良好	100%	口縁部及び 内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
20	坏	口径12.4 器高4.0 底径5.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、雲母 含む。	浅黄色、にぶい 橙色、橙色	良好	100%	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
21	坏	口径12.3 器高4.1 底径6.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒色 粒子含む。	灰白色	良好	100%	口縁部内面 に油煙付着。 灯明皿用途。 歪あり。
22	坏	口径(12.4) 器高3.8 底径5.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒色 粒子、黒雲母含 む。	灰白色、淡黄橙 色	良好	50%	内面に油煙 付着。灯明 皿用途。
23	坏	口径11.6 器高4.3 底径5.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母 含む。	灰白色、浅黄色	良好	85%	内外面に油 煙付着。灯 明皿用途。
24	坏	口径12.6 器高4.3 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒雲 母含む。	にぶい黄色、に ぶい橙色、黒色	良好	100%	内外面に油 煙付着。灯 明皿用途。 外面に墨書 「七」。
25	坏	口径12.1 器高4.5 底径5.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、石英、 黒雲母、褐色粒 子含む。	外面: にぶい黄 橙色、橙色 内面: にぶい黄 橙色	良好	100%	口縁部外面 及び内面に 油煙付着。 灯明皿用途。
26	坏	口径12.5 器高4.0 底径6.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、赤褐 色粒子、石英含 む。	外面: にぶい橙 色、にぶい黄橙 色 内面: にぶい橙 色	良好	60%	内外面に油 煙付着。灯 明皿用途。
27	坏	口径13.0 器高3.5 底径6.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒雲 母、長石含む。	灰白色、一部黒 色	やや 良好	55%	内外面に油 煙付着。灯 明皿用途。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
28	坏	口径(13.4) 器高4.1 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		褐色粒子、黒雲母含む。	淡黄色、一部黒色	良好	55%	
29	坏	口径(12.0) 残存高3.8	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒色粒子含む。	明黄褐色、にぶい黄橙色	良好	30%	底部外面は剥離して欠損。
30	坏	口径(14.8) 器高5.3	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒雲母、砂粒含む。	橙色、明赤褐色	普通	口縁の15%	
31	坏	口径(14.4) 器高5.0 底径5.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		褐色粒子、雲母含む。	褐色粒子、雲母	良好	40%	
32	坏	口径(12.2) 器高3.8 底径(4.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	外面：にぶい橙色 内面：にぶい褐色	良好	40%	内外面に油煙付着。灯明皿用途。剥離箇所あり。
33	坏	口径13.4 器高4.1 底径6.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、長石、片岩含む。	外面：赤色、にぶい褐色、黒褐色 内面：明赤褐色、黒褐色	良好	100%	内面に油煙付着。灯明皿用途。
34	坏	口径13.5 器高4.9 底径5.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒雲母含む。	淡黄色、浅黄色	良好	85%	口縁部内面に油煙付着。灯明皿用途。
35	坏	残存高2.5 底径5.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。体部外面下半に糸切り損じ痕あり。		黒色粒子、砂粒含む。	にぶい黄橙色、にぶい橙色	普通	底部・体部下半破片	
36	坏	口径12.0 器高4.0 底径5.3	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。体部外面の底部付近に糸切り損じ痕あり。		白色粒子、雲母含む。	にぶい黄橙色	やや良好	70%	口縁部内外面に油煙付着。灯明皿用途。剥離箇所あり。
37	高台碗	口径(14.7) 器高5.2 底径(7.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。		白色粒子、赤褐色粒子、片岩、長石含む。	にぶい黄褐色、褐灰色	やや不良	40%	
38	高台碗	口径(12.5) 器高5.6 底径7.1	内外面回転ナデ。高台ナデツケ、高台内回転ナデ。		白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子含む。	灰白色、にぶい黄橙色	良好	60%	
39	高台坏	口径(13.0) 器高5.6 底径6.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。		白色粒子、黒雲母含む。	外面：浅黄色、灰色 内面：にぶい黄橙色	良好	55%	内外面に墨書。外面「有」内面？
40	高台坏	口径13.2 器高5.1 底径6.5	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。		白色粒子含む。	外面：にぶい黄橙色、にぶい黄色 内面：にぶい黄橙色	やや良好	100%	内外面に油煙付着。灯明皿用途。剥離箇所あり。
41	高台坏	口径13.2 器高5.3 底径6.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。		白色粒子、赤褐色粒子、黒色粒子含む。	外面：灰白色、灰黄色 内面：灰黄色	やや良好	95%	口縁部内外面に油煙付着。灯明皿用途。
42	高台碗	残存高5.3 底径6.8	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。高台内回転ナデ。		白色粒子、褐色粒子、黒雲母含む。	浅黄褐色、灰白色	普通	45%	
43	高台坏	残存高3.3 底径7.6	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。		黒色粒子含む。	灰白色、灰色	普通	底部100%、体部下半破片	内外面に多量の油煙付着。灯明皿用途。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
44	皿	口径14.9 器高2.9 底径5.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、長石、 細 礫(0.7cm 大) 含む。	外面:灰色 内面:灰白色	良好	70%	外面に墨書 「院」? 底部内面に 朱跡。
45	高台碗	口径(16.0) 残存高6.0	内外面回転ナデ。 内外面とも体部上半に灰釉。		白色粒子、黒色 粒子、石英含む。	灰白色	良好	口縁の 15%	
46	皿	残存高1.8 底径(7.4)	内外面回転ナデ。 内外面とも体部に灰釉。		白色粒子、黒色 粒子含む。密。	灰白色	良好	底部破 片	
47	皿	口径(14.0) 残存高1.9	内外面回転ナデ。 内外面とも体部に灰釉。		白色粒子含む。 密。	褐灰色	良好	口縁の 10%以下	
48	皿	残存高2.2 底径(7.8)	内外面回転ナデ。 内面に灰釉。		白色粒子、黒色 粒子含む。 密。	灰白色	良好	底部破 片	
49	鉢	口径12.4 残存高8.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラ ケズリ、内面ヨコナデ。		白色粒子、黒雲 母含む。	にぶい黄橙色、 にぶい橙色	良好	70%	
50	甕	口径(15.7) 残存高5.4	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ。回転糸切り後高台ナデツケ。		褐色粒子、黒色 粒子、黒雲母含 む。	浅黄色	良好	口縁の 40%	
51	甕	口径(20.6) 器高5.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ナデ。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母 石英含む。	にぶい橙色	良好	口縁部 破片	
52	甕	口径(18.3) 器高4.5	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ。		赤褐色粒子、白 色粒子、黒雲母 含む。	外面:にぶい黄 橙色、にぶい黄 色 内面:橙色	良好	口縁の 30%	
53	甕	口径(21.2) 器高13.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ。		白色粒子、黒色 粒 子、砂 粒 含 む。	外面:明黄褐色 内面:橙色	良好	口縁の 15%	
54	甕	口径(25.4) 器高6.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母 含む。	にぶい橙色、橙 色	良好	口縁の 70%	
55	甕	残存高6.4 底径(4.7)	胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。底部 外面離れ砂。		白色粒子、黒雲 母含む。	外面:にぶい黄 橙色、黒色 内面:にぶい 橙 色	良好	底部付 近、胴 下部破 片	外面に煤付 着。
56	甕	口径(24.3) 器高10.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ナデ。		白色粒子、黒色 粒子、黒雲母含 む。	にぶい橙色	良好	口縁の 10%以下及び 胴部破 片	内面に煤付 着。
57	台付甕	口径(11.4) 器高4.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ。		白色粒子、黒雲 母含む。	褐色	良好	口縁部 破片	
58	台付甕	口径(11.9) 器高4.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ、内面ヘラナデ。		白色粒子含む。	外面:灰褐色 内面:橙色	良好	口縁部 破片	
59	台付甕	残存高3.5 脚台部底径 (9.1)	脚台部内外面ヨコナデ。胴部内面にヘ ラ圧痕あり。		赤褐色粒子、黒 色粒子、黒雲母 含む。	にぶい黄橙色、 黒褐色、浅黄色	普通	脚台部 破片	
60	瓦塔	—	突帯部はヘラによる切り取り後ナデ。 裏面は未調整。		赤褐色粒子、砂 粒含む。	赤褐色	良好	初軸部 破片	
61	砥石	最大長5.5 最大幅4.5 最大厚3.0	6面ある内1面は使用されていない。 砂岩製。						
62	三重弧 文軒平 瓦	瓦当厚さ 2.7~3.1	瓦当面:型挽き。頸:不明、粘土板貼り 付け成形。 凹面:横方向のナデ。 凸面:正格子小叩き。 粘土紐桶巻造り。		白色粒子、赤褐 色粒子、長石、片 岩含む。	オリーブ黒色	良好	瓦当部 破片	瓦当欠損。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
63	丸瓦	厚さ 1.2~1.7	凸面:正格子小叩き後斜格子大叩き。 凹面:布目痕。 粘土紐丸木造り。	7×7	白色粒子、赤褐色粒子含む。	灰色	良好		
64	丸瓦	厚さ 1.6~2.1	凸面:長格子小叩き。 凹面:布目痕。 粘土紐丸木造り。	8×7	白色粒子、黒色粒子、片岩(最大2cm大)、長石含む。	灰白色	やや良好		
65	平瓦	厚さ 1.4~1.7	凹面:横方向のナデ。 凸面:斜格子小叩き。 狭端部側木口に縄目痕。 粘土紐桶巻造り。		白色粒子、長石含む。	暗青灰色	良好	狭端部側	
66	平瓦	厚さ 1.5~1.9	凹面:横方向のナデ。 凸面:正格子小叩き。 粘土紐桶巻造り。		白色粒子、長石、砂粒含む。	灰色	良好	狭端部側	

第4表 第1号竪穴遺構出土遺物観察表 (第25図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(10.0) 残存高2.7	口縁部内外面回転ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、黒色粒子含む。	橙色	良好	口縁の10%	
2	坏	口径(10.8) 残存高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子含む。	赤褐色	良好	口縁の10%	
3	坏	口径(11.7) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、黒色粒子含む。	橙褐色	良好	口縁の10%	
4	坏	口径(12.2) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ、放射状の暗文施す。	白色粒子、黒色粒子含む。	赤橙色	良好	口縁の10%	
5	甕	口径(22.6) 残存高2.1	口縁部内外面ヨコナデ。	白色粒子含む。	暗橙色	良好	口縁の10%以下	
6	甕	口径(14.4) 残存高4.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。	白色粒子含む。	淡褐色	良好	口縁の10%以下	
7	土錘	最大長6.0 最大幅2.0 重さ14g		白色粒子含む。	黒色	やや良好	45%	

第5表 第2号竪穴遺構出土遺物観察表 (第28図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(13.1) 残存高3.6	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、黒色粒子含む。	にぶい黄橙色	良好	口縁の10%以下	
2	坏	口径(12.0) 残存高3.7	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	赤褐色粒子、黒色粒子含む。	外面:明赤褐色、 にぶい黄橙色 内面:橙色	良好	口縁の40%	
3	坏	口径(13.7) 残存高2.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ、放射状暗文施す。	白色粒子、黒雲母含む。	にぶい赤褐色	良好	口縁の15%	
4	坏	口径(14.3) 残存高4.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、赤褐色粒子、長石含む。	橙色	良好	口縁の15%	
5	坏	口径(12.9) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ、放射状暗文施す。	白色粒子、長石含む。	橙色	良好	口縁の10%以下	
6	坏	口径(14.9) 残存高4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ、放射状暗文施す。	白色粒子、長石含む。	外面:明赤褐色、 橙色 内面:明赤褐色	良好	口縁の15%	

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
7	坏	口径(12.8) 残存高3.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	黒色粒子、石英含む。	にぶい赤褐色	良好	口縁の10%	
8	坏	口径(13.0) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、黒色粒子含む。	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい橙色	良好	口縁の10%	
9	坏	口径(12.7) 器高3.5	口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、黒雲母、砂粒含む。	外面：橙色、にぶい褐色 内面：橙色	良好	30% (口縁の40%)	
10	器台形土器	口径(10.9) 残存高5.6	口縁部内外面ヨコナデ。器受部内外面ナデ。	白色粒子、黒色粒子含む。	橙色	良好	器受部30%破片	
11	甕	口径(20.2) 残存高3.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。	黒雲母多量、石英、赤褐色粒子、片岩含む。	にぶい黄褐色、橙色	良好	口縁の20%	
12	台付甕	口径(10.9) 残存高6.2	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ。内面はヨコナデ。	白色粒子、黒雲母、石英含む。	橙色	普通	口縁の25%	
13	甕	口径(20.5) 残存高7.2	内外面回転ナデ。	白色粒子含む。	灰色	良好	口縁の15%	
14	刀子	全長13.3 刃部最大幅1.4 厚さ0.4 茎部最大幅0.9 厚さ0.3	切先から茎部まで完存する。刃部は使用による摩耗のため刃先が減っている。				100%	

第6表 第3号竪穴遺構出土遺物観察表（第31～36図）

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	残存高2.5 底径5.3	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、黒雲母含む。	灰色	良好	底部100%破片	内面に油煙付着。
2	皿 (土師質土器)	口径(9.4) 器高2.2 底径(4.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、赤褐色粒子含む。	橙色	良好	口縁の20%	
3	皿 (土師質土器)	口径(9.8) 器高2.0 底径5.3	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、黒色粒子含む。	にぶい橙色	良好	50%	穿孔1つあり。
4	皿 (土師質土器)	口径10.3 器高2.2 底径5.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、黒色粒子含む。	橙色	良好	90%	穿孔3つあり。
5	皿 (土師質土器)	口径(10.8) 器高2.1 底径(7.9)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、黒色粒子、黒雲母含む。	にぶい橙色	良好	40%	
6	皿 (土師質土器)	口径(9.1) 器高1.5 底径6.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、黒色粒子含む。	にぶい橙色	良好	70%	底部に穿孔一つあり。
7	皿 (土師質土器)	口径(10.8) 器高1.9 底径(7.3)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	橙色、にぶい褐色	良好	40%	内面に油煙付着。 灯明皿用途。
8	皿 (土師質土器)	口径(9.0) 器高2.3 底径(6.6)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、黒色粒子含む。	にぶい橙色	良好	35%	
9	皿 (土師質土器)	口径(9.8) 器高2.6 底径(7.0)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、赤褐色粒子、黒色粒子含む。	にぶい橙色	良好	30%	

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
10	皿 (土師質 土器)	口径(10.5) 器高2.3 底径(6.9)	内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。	赤褐色粒子、黒 雲母含む。	にぶい橙色	良好	25%	
11	皿 (土師質 土器)	口径(11.0) 器高1.8 底径(7.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。	黒色粒子、赤褐 色粒子含む。	浅黄橙色、灰白 色	良好	30%	

番号	器種	法量(cm)	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
12	灯明皿	口径(7.8) 器高1.2 底径(4.1)	にぶい橙色	錆釉	瀬戸・美濃	25%	口縁部に油煙付着。
13	灯明皿	口径(9.1) 器高1.7 底径(4.9)	にぶい赤褐色	錆釉	瀬戸・美濃	口縁の 10%	口縁部に油煙付着。
14	灯明皿	口径(10.5) 残存高1.5	灰白色	錆釉	瀬戸・美濃	口縁の 20%	口縁部に油煙付着。
15	灯明皿	口径(11.2) 器高1.5 底径(5.5)	黄灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	25%	
16	灯明皿	口径(10.7) 器高2.2 底径4.7	灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	70%	
17	灯明皿	口径(10.1) 器高2.1 底径(5.3)	褐灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	45%	
18	灯明皿	口径(11.0) 残存高1.7	灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	口縁の 25%	
19	灯明皿	口径(8.2) 器高2.5 底径(4.0)	灰白色	錆釉	瀬戸・美濃	55%	
20	染付碗	口径8.0 器高4.3 底径3.3			肥前系	85%	
21	染付碗	口径(8.8) 器高4.2 底径3.9			肥前系	55%	
22	染付碗	口径8.8 器高4.7 底径4.0			肥前系	50%	
23	染付碗	口径8.3 器高4.6 底径3.3			肥前系	70%	
24	染付碗	口径(9.2) 器高5.1 底径(4.3)			肥前系	25%	
25	染付碗	口径(8.8) 器高4.1 底径(3.9)			肥前系	25%	
26	染付碗	口径(9.6) 器高5.7 底径(4.1)			肥前系	45%	
27	染付碗	口径(9.5) 器高5.4 底径4.1			肥前系	40%	
28	染付碗	口径(9.8) 器高5.0 底径4.2			肥前系	50%	

番号	器種	法量(cm)	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
29	碗	口径(8.2) 器高5.1 底径(3.9)			肥前系	60%	
30	染付碗	口径(10.0) 器高5.7 底径(4.0)			肥前系	40%	
31	染付碗	口径(10.5) 器高4.6 底径(4.5)			肥前系	25%	
32	碗	口径(9.4) 器高5.5 底径3.4	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃	40%	
33	染付半 筒碗	口径(11.6) 器高8.0 底径(7.9)			肥前系	20%	
34	染付皿	口径13.1 器高3.7 底径4.7			肥前系	90%	
35	染付皿	口径14.4 器高3.7 底径(8.6)			肥前系	50%	
36	染付鉢	残存高8.2 底径(10.2)			肥前系	30%	
37	染付徳 利	口径(5.3) 残存高5.3				口縁部 破片	
38	碗	口径10.4 器高4.1 底径3.9	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃	50%	
39	碗	残存高4.6 底径4.8	灰白色	外面：灰 釉 内面：緑 釉	瀬戸・美濃	底部100 %～体部 下半破片	
40	碗	残存高3.8 底径5.8	灰黄色	灰釉 内面：緑 灰色釉	瀬戸	底部100 %～体部 下半破片	よろい茶碗
41	碗	口径(8.9) 器高6.2 底径4.0	灰黄色	灰釉、一部 鉄釉	瀬戸・美濃	40%	
42	碗	口径(11.0) 残存高5.7 底径(5.0)	灰白色	灰釉、鉄 釉	瀬戸・美濃	25%	腰錆茶碗
43	碗	口径(10.0) 残存高5.1	にぶい黄橙色	灰釉、鉄 釉	瀬戸・美濃	口縁の 10%	腰錆茶碗
44	碗	口径(9.6) 残存高4.6	灰白色	灰釉、鉄 釉	瀬戸・美濃	口縁の 20%	腰錆茶碗
45	碗	口径(9.3) 残存高5.7	浅黄色	鉄釉	瀬戸・美濃	30%	
46	碗	口径(11.4) 器高7.7 底径(7.1)	にぶい橙色	鉄釉	肥前系	30%	
47	碗	口径(8.3) 残存高3.1	灰白色	灰釉		口縁の 50%	
48	碗	残存高2.9 底径4.1	灰白色	灰釉	肥前系	底部100 %～体部 下半破片	

番号	器種	法量(cm)	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
49	天目茶碗	口径(10.5) 残存高5.3	にぶい黄橙色	鉄釉	瀬戸・美濃	口縁の 10%	
50	徳利	残存高2.6 底径7.8	灰白色	鉄釉	瀬戸・美濃	底部70 %破片	
51	皿	口径(12.9) 器高3.1 底径(7.2)	灰色	灰釉		口縁の 10%	
52	皿	口径(12.8) 残存高2.3	灰白色	灰釉		口縁の 25%	
53	大皿	残存高3.6 底径20.5	灰白色	灰釉、鉄 釉	瀬戸	底部破片	
54	小壺	口径(6.5) 器高9.2 底径(7.2)	灰白色	鉄釉	瀬戸・美濃	40%	
55	瓶	残存高2.8 底径(12.3)	灰色	鉄釉		底部25% 破片	
56	片口鉢	口径(20.1) 器高12.2 底径(11.8)	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃	35%	注口欠損
57	片口鉢	口径(16.5) 器高8.8 底径9.1	浅黄色	灰釉	瀬戸・美濃	35%	
58	片口鉢	口径(16.1) 器高8.3 底径6.1	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃	50%	
59	鉢	残存高7.5 底径(5.3)	明赤褐色	刷毛目	唐津	底部破片	
60	鉢	残存高4.5 底径10.2	褐灰色	刷毛目	唐津	底部破片	
61	蓋	口径14.6 器高2.9	灰白色	灰釉		100%	
62	蓋	口径7.9 器高1.1 つまみ径 1.5	灰白色	灰釉		80%	内側に花蕾状のつまみ。
63	土瓶	口径5.4 器高7.9 底径6.0 胴部最大径 14.7	灰色	灰釉		50%	
64	半胴	残存高9.3 底径(20.7)	灰黄色	鉄釉	瀬戸・美濃	底部～胴 部下半破 片	
65	擂鉢	口径(35.2) 残存高10.7	赤褐色	鉄釉	備前	口縁の 20%	
66	擂鉢	残存高4.7	赤褐色	無釉	備前	口縁部破 片	
67	擂鉢	残存高10.4	赤褐色	錆釉	備前	口縁部破 片	
68	擂鉢	残存高6.3	赤褐色	無釉	備前	口縁部破 片	
69	擂鉢	残存高5.9	褐灰色	錆釉	備前	口縁部破 片	
70	擂鉢	残存高5.2	淡黄色	鉄釉	瀬戸・美濃	口縁部破 片	
71	擂鉢	残存高4.9	淡黄色	錆釉	瀬戸・美濃	口縁部破 片	

番号	器種	法量(cm)	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
72	播鉢	残存高6.5 底部(19.0)	明赤褐色	無釉	備前	底部25%破片	
73	塩焼壺・蓋	口径8.1 器高2.1	橙色		播磨	95%	内側に布目痕あり。
74	水滴	最大長4.2 最大高5.5 厚さ0.2~1.0	灰白色	灰釉		頭部欠損	うさぎ形。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
75	蓋	最大長7.6 最大幅8.0 最大厚1.0	表面は平滑にナデられている。裏面は未調整。	赤褐色粒子、白色粒子、石英含む。	にぶい赤褐色	良好	ほぼ100%	
76	焙烙	口径(37.9) 残存高7.3	口縁部ヨコナデ。体部指頭圧痕。	白色粒子、石英、黒雲母含む。	黒色	良好	口縁部破片	
77	焙烙	口径(38.6) 器高5.3 底径(17.8)	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部下半指頭圧痕。	白色粒子、褐色粒子、黒雲母含む。	黒褐色	良好	40%	
78	焙烙	口径(40.0) 器高5.6 底径(37.5)	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	白色粒子、黒色粒子含む。	灰色	良好	口縁の一部	
79	焙烙	器高5.3	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部下半ヘラナデ。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	灰白色	良好	口縁の一部	
80	焙烙	器高6.0	口縁部から体部ヨコナデ。体部の底部付近ヘラケズリ。	白色粒子、黒色粒子含む。	灰褐色	良好	口縁の一部	
81	焙烙	器高5.6	口縁部から体部ヨコナデ。体部の底部付近ヘラケズリ。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	黒褐色	良好	口縁の一部	
82	焙烙	器高5.6	口縁部から体部ヨコナデ。体部の底部付近ヘラケズリ。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	黒褐色	良好	口縁の一部	
83	焙烙	口径(39.3) 器高5.4 底径(36.1)	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部中央指頭圧痕。体部下半ヘラケズリ。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	黒褐色	良好	口縁の30%	
84	焙烙	口径(39.0) 器高5.3 底径(35.6)	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部の底部付近ヘラケズリ。	白色粒子、黒色粒子含む。	黒褐色	良好	20%	底部に補修孔あり。
85	焙烙	口径(38.6) 器高5.7 底径(34.5)	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ。	白色粒子、褐色粒子含む。	黒色	良好	口縁の20%	
86	焙烙	口径(39.8) 器高4.9 底径(35.7)	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ。	白色粒子、褐色粒子、黒雲母含む。	にぶい褐色	良好	口縁の25%	底部に補修孔あり。
87	焙烙	口径(45.0) 残存高4.4 底径(43.4)	口縁部から体部ヨコナデ。	赤褐色粒子、黒色粒子含む。	橙色、黒褐色	良好	口縁の15%	

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
88	大甕	口径(55.2) 残存高16.1	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面指頭圧痕。	褐灰色	鉄釉	常滑	口縁の一部	
89	大甕	口径(51.4) 器高9.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部内面指頭圧痕。	褐灰色	錆釉	常滑	口縁部破片	

番号	器種	法量(cm)	形 態 の 特 徴 等	残存率	備考
90	砥石	残存長7.5 最大幅5.1 最大厚3.8 重さ240 g	1面使用。砂岩製。	欠損	
91	砥石	残存長8.2 最大幅5.8 最大厚3.9 重さ290 g	欠口除いて5面使用。砂岩製。	欠損	
92	砥石	残存長10.6 最大幅5.5 最大厚3.4 重さ353 g	欠口除いて5面使用。砂岩製。	欠損	
93	砥石	残存長11.5 最大幅3.3 最大厚3.1 重さ160 g	2面使用。砂岩製。	98%	
94	砥石	残存長6.3 最大幅5.5 最大厚2.1 重さ64 g	6面使用。砂岩製。	100%	
95	磨石	残存長7.1 最大幅6.1 最大厚3.3 重さ85 g	1面使用。(角閃石)安山岩製。	100%	
96	板石塔婆	残存長8.0 残存幅5.5 厚1.2	「六月〇〇」の銘文。緑泥片岩製。	欠損	
97	板石塔婆	残存長8.7 残存幅12.2 厚2.4	種子「キリーク」、蓮座残存。裏面に鑿痕。緑泥片岩製。	欠損	
98	板石塔婆	残存長12.8 残存幅14.4 厚2.3	種子不明。緑泥片岩製。	欠損	
99	石臼 (茶臼)	残存長27.5 残存幅12.6 最大厚13.5	上臼。条緑は不明瞭ながら若干残存。安山岩製。	50%	
100	角釘	残存長6.2 幅0.6 厚さ0.4	頭部は先端部を折り曲げて長方形の形状に平らに鍛き出す。断面形は長方形。	100%	
101	角釘	残存長3.6 幅0.5 厚さ0.5	茎部先端欠損。頭部は先端部を折り曲げて長方形の形状に平らに鍛き出す。断面形は長方形ないし正方形形状。		
102	角釘	残存長4.3 幅1.0 厚さ0.7	茎部先端欠損。頭部は端部を折り曲げて長方形の形状に平らに鍛き出す。断面形は長方形ないし正方形形状。		
103	角釘	長さ2.9 幅0.5 厚さ0.3	短い釘。頭部は端部を折り曲げて平らに鍛き出す。茎部は先端は大きく「く」の字に曲がる。断面形は長方形。	100%	
104	角釘	残存長4.2 幅0.4 厚さ0.5	茎部先端欠損。断面形は正方形。茎部は頭部付近で「く」の字に曲がる。頭部は端部を折り曲げて平らに鍛き出す。		
105	角釘	残存長5.2 幅0.4 厚さ0.6	茎部は頭部にかけて「く」の字に曲がる。断面形は長方形。	頭部欠損	
106	角釘	残存長5.8 幅0.6 厚さ0.3	頭部は端部を若干折り曲げて鍛き出す。茎部先端は若干欠損している。断面形は長方形。		
107	角釘	残存長3.6 幅0.7 厚さ0.6	頭部・茎部上端とも欠損。断面形は長方形。		

番号	器種	法量(cm)	形態の特徴等	残存率	備考
108	古銭	直径2.2	寛永通宝。初鑄年代1672年。	100%	
109	古銭	直径2.2	寛永通宝。初鑄年代1672年。	100%	
110	古銭	直径2.4	寛永通宝。初鑄年代1672年。	100%	
111	古銭	直径2.4	寛永通宝。初鑄年代1672年。	100%	

番号	器種	法量(cm)	形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
112	軒棧瓦	瓦当厚 7.0	軒丸部が巴文。	黒色粒子、白色粒子含む。密。	灰白色	やや不良	瓦当破片	
113	軒棧瓦 (軒平瓦)	瓦当残存厚 3.3	唐草文。	黒色粒子、白色粒子含む。密。	暗灰色	良好	瓦当破片	
114	軒丸瓦	瓦当残存厚 9.3	巴文とその周囲に連珠がめぐる。	黒色粒子、白色粒子、黒雲母含む。やや粗い。	灰白色	普通	瓦当破片	
115	軒丸瓦	瓦当残存厚 8.0	巴文とその周囲に連珠がめぐる。	黒色粒子、白色粒子含む。密。	灰色	良好	瓦当破片	
116	軒丸瓦	瓦当残存厚 4.7	巴文とその周囲に連珠がめぐる。	黒色粒子、白色粒子含む。やや密。	暗灰色	良好	瓦当破片	
117	軒丸瓦	瓦当残存厚 8.3	笹の葉文。	黒色粒子、白色粒子含む。密。	灰色	普通	瓦当破片	
118	軒棧瓦	瓦当最大厚 7.2	唐草文と珠文。	白色粒子、石英含む。密。	灰色	良好	瓦当破片	
119	丸瓦	厚さ 1.2~2.2	玉縁付。	黒色粒子、石英含む。密。	暗灰色	良好		
120	丸瓦	厚さ 1.6~2.6	玉縁付。	黒色粒子、長石含む。密。	暗灰色	良好	玉縁側	
121	丸瓦	厚さ 0.8~2.0	玉縁付。	黒色粒子、白色粒子含む。	灰色	良好	玉縁側	
122	丸瓦	厚さ 0.9~3.1	玉縁付。	黒色粒子、白色粒子、礫、長石含む。やや密。	灰白色	良好	玉縁側	
123	板塀瓦	最大長21.5 幅5.8 厚さ4.5	—	黒色粒子、石英含む。密。	暗灰色	良好	欠損	
124	板塀瓦	最大長22.8 幅18.6 厚さ4.3	—	白色粒子、黒雲母、石英含む。密。	灰色	良好	欠損	穿孔有り。
125	板塀瓦	最大長19.2 幅14.5 厚さ4.2	—	黒色粒子含む。密。	灰色	良好	欠損	

第7表 第4号竪穴遺構出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	法量(cm)	手法の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径12.1 器高4.0 底径6.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、赤褐色粒子、黒雲母含む。	外面: 橙色、にぶい橙色 内面: 橙色	良好	100%	
2	坏	口径(12.9) 残存高4.5	内外面回転ナデ。	赤褐色粒子、長石、片岩含む。	灰黄色、にぶい黄橙色	やや不良	口縁の15%	末野産
3	碗	残存高1.8 底径(3.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子多量、片岩、細礫含む。	にぶい黄橙色、灰色	不良	底部付近破片	末野産

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
4	高台杯	残存高2.0 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、片岩、砂粒、細礫含む。	灰色	良好	底部100%破片	末野産
5	高台碗	残存高2.1 底径6.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。	白色粒子、長石含む。	灰色	良好	底部破片	底部内面に墨書「平」。底部外面高台内に墨。転用硯用途か？
6	高台碗	口径(16.2) 器高7.5 底径7.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。	黒色粒子(φ0.1~0.2cm大)多量、片岩(0.1~0.2cm大)、砂粒含む。	外面:灰白色、灰色 内面:灰色	普通	40%	末野産
7	高台碗	口径16.8 器高7.5 底径8.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。	白色粒子、片岩礫(1cm大)、長石含む。やや粗い。	外面:暗青灰色、灰色 内面:灰色	良好	95%	末野産
8	高台碗	口径16.8 器高8.0 底径8.6	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後高台ナデツケ。	褐色粒子、石英(0.4×0.2cm大)含む。やや粗い。	外面:灰褐色 内面:にぶい褐色	普通	90%	末野産
9	皿	口径12.5 器高2.2 底径6.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	黒色粒子(φ0.2cm大)、白色粒子含む。	灰色	やや不良	90%	末野産
10	皿	口径14.0 器高2.7 底径6.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	褐色粒子、片岩、長石、細礫含む。	外面:にぶい赤褐色、黒色 内面:にぶい橙色、褐灰色	不良	90%	末野産
11	甕	残存高10.2	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	黒色粒子、褐色粒子、石英、長石含む。	外面:にぶい橙色、にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	良好	胴部破片	
12	甕	残存高8.4	胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	白色粒子、赤褐色粒子含む。	外面:明赤褐色、黒褐色 内面:明赤褐色	良好	胴部破片	
13	土錘	最大長6.1 最大幅1.7 重さ15g	—	白色粒子、長石含む。	明赤褐色、橙色	良好	100%	
14	土錘	最大長6.2 最大幅1.5 重さ14g	—	白色粒子、長石含む。	明赤褐色、橙色、黒褐色	良好	100%	

第8表 土坑出土遺物観察表(第43図)

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法の特徴等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	SK2	皿 (土師質土器)	口径(10.8) 器高2.6 底径(6.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、赤褐色粒子、黒色粒子含む。	にぶい黄褐色	良好	25%	
2	SK2	皿 (土師質土器)	口径(10.0) 器高2.3 底径5.6	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒色粒子含む。	灰黄褐色	良好	60%	
3	SK2	染付碗	口径(7.4) 器高3.8 底径(2.9)	備前系。					40%	
4	SK2	碗	口径7.2 器高4.0 底径3.5	灰釉。		灰白色			70%	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
5	SK 2	碗	口径(7.2) 残存高1.8	灰釉。		灰白色			口縁部 破片	
6	SK 2	煙管	最大長5.7 最大幅1.1 最大厚0.7	銅製。木質残存。						
7	SK 2	角釘	最大長7.3 最大幅0.6 最大厚0.5	先端わずかに欠損。頭部は 端部を鍛き出す。					先端欠 損	
8	SK 3	平瓦	厚さ 1.5~2.2	凹面:布目痕、ナデ。 凸面:正格子小叩き。	8×8	白色粒子、砂粒 含む。	暗灰色	良好		
9	SK 4	甕	厚さ 1.0~1.1	内外面ナデ。		白色粒子、黒雲 母含む。	暗灰色	良好	胴部破 片	
10	SK 9	皿 (土師質 土器)	残存高0.8 底径(8.1)	内外面回転ナデ。底部外面 回転糸切り。		白色粒子、片岩 含む。	にぶい黄橙色	良好	底部 25%破 片	
11	SK 9	播鉢	厚さ 0.45~1.05	無釉。 備前。					胴部破 片	
12	SK 10	坏	口径10.4 器高3.0	口縁部内外面ヨコナデ。底 部外面ヘラケズリ。内面ヨ コナデ。		白色粒子、長石、 石英、黒雲母含 む。	外面:明赤褐色 内面:橙色	良好	100%	
13	SK 11	坏	口径(12.8) 残存高2.9	口縁部内外面ヨコナデ。底 部外面ヘラケズリ。内面ヨ コナデ。		白色粒子、石英、 黒雲母含む。	橙褐色	良好	口縁の 10%以 下	
14	SK 12	染付碗	口径8.8 器高5.1 底径3.6	瀬戸・美濃。					50%	
15	SK 13	播鉢	厚さ 0.5~0.9	備前。					口縁の 一部	
16	SK 13	古銭	直径2.2	寛永通宝。初铸年代1672 年。					上半欠 損	
17	SK 14	灯明台	残存高3.1 底径6.2	鉄釉。 瀬戸・美濃。		灰白色			脚台部 破片	
18	SK 14	皿	口径8.4 器高2.2 底径4.1	灰釉。 瀬戸・美濃。		灰黄色			50%	
19	SK 14	染付半 筒碗	口径(7.1) 残存高4.9	—					20%	
20	SK 14	染付碗	口径(8.1) 器高5.7 底径(4.5)	肥前系。					20%	
21	SK 14	染付碗	残存高2.8 底径4.1	肥前系。					底部 100% 破片	
22	SK 14	軒丸瓦	最大長4.5 最大幅2.4	巴文のまわりの蓮珠めぐ る。		黒色粒子、砂粒 多量含む。	黒灰色	良好	瓦当破 片	
23	SK 23	坏	口径(11.8) 残存高1.4	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒色 粒子含む。	暗灰色	良好	口縁の 10%以 下	末野産
24	SK 23	坏	口径(13.0) 残存高1.4	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒色 粒子、片岩含む。	灰色	良好	50%	末野産
25	SK 23	坏	残存高2.7 底径(5.2)	内外面回転ナデ。底部外面 回転糸切り。		白色粒子、黒色 粒子、長石含む。	灰色	良好	底部~ 体部破 片	
26	SK 23	皿	口径(19.9) 残存高3.0	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒色 粒子、長石、片岩 含む。	暗灰色	良好	口縁の 20%	末野産

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
27	S K25	甕	厚さ 1.0~1.1	外面平行叩き。内面ナデ。		白色粒子、黒色 粒子、片岩、石英 含む。	暗青灰色	良好	胴部破 片	
28	S K25	碗	口径(9.1) 器高5.6	—					口縁の 25%	
29	S K25	大皿	口径(27.0) 器高8.5 底径(15.0)	灰釉、一部緑色釉。 瀬戸。		黄灰色			25%	

第9表 第1号溝跡出土遺物観察表 (第46図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(12.0) 残存高3.1	口縁部内外面ヨコナデ。底部ヘラケズ リ?		黒色粒子含む。	にぶい黄橙色	良好	口縁の 10%以 下	
2	坏	口径(11.2) 残存高2.8	口縁部内外面ヨコナデ。体部ヘラケズ リ。		白色粒子、赤褐 色粒子含む。	橙色	良好	口縁の 10%	
3	皿	口径(15.9) 残存高1.8	内外面回転ナデ。内外面に灰釉。		白色粒子含む。 密。	灰白色	良好	口縁の 10%以 下	
4	甕	口径(22.8) 残存高3.5	口縁部内外面ヨコナデ。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母、 石英含む。	橙色	普通	口縁部 破片	
5	片口鉢	残存高4.4	内外面回転ナデ。		白色粒子、黒色 粒子含む。	灰色	良好	底部破 片	常滑
6	土鍋	残存高11.8	口縁部外面ヨコナデ。胴部上半ナデ、 下半ヘラナデ。内面ヨコナデ。把手ナ デツケ。2つ穿孔。		白色粒子、赤褐 色粒子含む。	黒色	良好	口縁部 把手付 近破片	
7	瓦塔	—	隅柱及び基壇内面に赤彩。		白色粒子含む。	明黄褐色、橙色	良好	初軸部 基壇破 片	
8	均正唐 草文軒 平瓦	瓦当厚さ 7.7	瓦当面:隆線及び界線は断面三角形。 上下脇区に珠文。頸:段頸斜め。ナデ。 上面・側面:ナデ。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒色粒 子含む。やや粗 い。	灰色	良好	瓦当部 破片	
9	三重弧 文軒平 瓦	瓦当厚さ 2.7~3.0	瓦当面:型挽き。頸:不明。粘土板貼り 付け成形。 凹面:横方向のナデ。 凸面:斜格子叩き。 粘土紐桶巻造り。		白色粒子、長石 含む。	灰色	良好	瓦当部 破片	瓦当欠損
10	平瓦	厚さ 2.2~2.6	凹面:横方向のナデ。 凸面:斜格子小叩き。 粘土紐桶巻造り。		褐色粒子、黒色 粒子、長石、砂粒 含む。	黒褐色、にぶい 黄褐色	普通	狭端部 側	
11	平瓦	厚さ 2.2~3.2	凹面:縦方向のナデ。 凸面:正格子小叩き。一部布目痕残る。 粘土紐桶巻造り。		礫、長石、雲母、 砂粒多量含む。	にぶい橙色、灰 黄褐色	不良	狭端部 側	
12	平瓦	厚さ 1.3~1.6	凹面:布目痕。 凸面:縄叩き。 粘土板一枚造り。	8×8	白色粒子、白色 針状物質含む。 密。	明青灰色、青灰 色	良好	広端部 側	南比企産

第10表 第2号溝跡出土遺物観察表 (第48・49図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(10.4) 残存高3.4	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子、石英、黒雲母含む。	外面:黒褐色 内面:灰黄褐色	普通	40%	
2	坏	口径(10.3) 残存高2.8	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。		黒色粒子含む。	外面:橙色、黒色 内面:明赤褐色	良好	口縁の10%以下	
3	坏	口径(10.8) 残存高2.7	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子、雲母含む。	明赤褐色	良好	口縁の10%以下	
4	坏	口径(12.1) 残存高3.3	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		黒色粒子含む。	黒褐色	普通	口縁の10%	
5	坏	口径(11.4) 残存高3.2	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		黒色粒子含む。	外面:にぶい黄褐色 内面:黒褐色	普通	口縁の10%	
6	坏	口径(10.4) 残存高5.2	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子、石英含む。	明赤褐色	良好	25%	底部内面に煤付着。
7	坏	残存高1.7 底径(5.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、砂粒、片岩含む。	灰黄色	良好	底径の25%	底部外面に墨書「水」? 末野産。
8	坏	残存高1.3 底径5.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒色粒子、片岩含む。	灰色	良好	底部70%破片	末野産
9	高台坏	残存高3.0 底径(7.2)	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。		白色粒子、黒色粒子含む。	灰黄色	普通	底径の30%	
10	高台坏	残存高3.0 底径(6.2)	内外面回転ナデ。高台ナデツケ。高台内回転ナデ。		白色粒子含む。	暗青灰色	良好	底径の20%	
11	坏	残存高2.6 底径5.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。		白色粒子、黒雲母含む。	灰白黒色	普通	底部80%破片	
12	坏	残存高2.9 底径(5.1)	体部外面ナデ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		赤褐色粒子、片岩、黒雲母、砂粒含む。	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい橙色	普通	口縁の25%	
13	碗	口径(14.4) 残存高5.9	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。		白色粒子、黒雲母含む。	にぶい橙色	良好	口縁の10%	
14	甕	口径(23.7) 残存高4.8	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。		白色粒子含む。	褐色	良好	口縁の20%	
15	甕	残存高2.6 底径(7.6)	胴部外面ヘラケズリ。底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		黒色粒子、赤褐色粒子、石英含む。	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい橙色	良好	底径の20%	体部外面に墨書「院」の一部?
16	瓶	残存高3.4 底径(11.2)	内外面回転ナデ。		白色粒子、長石含む。	外面:オリーブ黒色 内面:灰色	良好	底径の10%以下	底部内面に自然釉。
17	瓦塔	—	幅1.5cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。裏面ナデ。中央の穿孔部の一部残存しヘラケズリ調整。		白色粒子、白色針状物質含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
18	瓦塔	—	長押と思われる突帯はナデで貼りつけられている。また、その脱落痕がある。 長押の上には台輪をナデつけたと思われるナデツケ痕が残る。裏はやはり接合部と思われるナデツケ痕が残る、縦方向にナデられている。		白色粒子、黒色粒子、白色針状物質、砂粒含む。	灰色	良好	初軸部の長押から台輪下までの破片	南比企産
19	瓦塔	—	突帯部及び壁面表現箇所は、ヘラによる切り取り後、丁寧にナデで表面を平滑にしている。裏面はヘラによる削り調整。		白色粒子、黒色粒子含む。	灰白色	良好	初軸部破片	

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
20	瓦塔	—	ヘラによる成形。 初軸部との貼りつけ痕が残る。		白色粒子、黒色 粒子、白色針状 物質ごくわずかに 含む。	灰色	良好	初軸部 斗拱破 片	南比企産
21	瓦塔	—	ヘラによる成形。 初軸部との貼りつけ痕が残る。		白色粒子、黒色 粒子、白色針状 物質ごくわずかに 含む。	灰色	良好	初軸部 斗拱破 片	南比企産
22	磨石	長さ13.2 横幅8.7 厚さ3.8 重さ760g	両面が比較的なめらかになっている。 花崗岩製。						
23	丸瓦	厚さ 1.2~2.0	凸面:斜格子小叩き。 凹面:横方向のナデ。 粘土紐丸木造り。		白色粒子、片岩、 長石含む。	暗青灰色	良好	狭端部 側破片	
24	丸瓦	厚さ 1.4~1.7	凸面:斜格子大叩き。 凹面:布目痕。 粘土紐丸木造り。	9×11	白色粒子含む。	暗灰色、灰色	良好		
25	平瓦	厚さ 1.9~2.5	凹面:横方向のナデ。 凸面:斜格子小叩き。 粘土紐造り。		細礫、白色粒子、 長石含む。	灰白色、灰色	良好	広端部 側破片	
26	平瓦	厚さ 1.5~2.4	凹面:布目痕、粘土板糸切り痕。 凸面:縄叩き。 粘土板一枚造り。	8×8	細礫、赤褐色粒 子、砂粒、長石含 む。	橙色、にぶい橙 色	良好		
27	平瓦	厚さ 1.7~2.0	凹面:布目痕、粘土板糸切り痕。模骨痕。 凸面:縄叩き。 粘土板桶巻造り。	7×6	細礫、褐色粒子、 長石含む。	黒色、灰白色	良好	狭端部 側破片	
28	平瓦	厚さ 2.5~2.8	凹面:布目痕、模骨痕。 凸面:ナデ。 粘土板桶巻造り。	9×9	細礫、赤褐色粒 子、白色粒子、長 石含む。	暗青灰色、灰 黄色	やや 良好	広端部 側破片	
29	平瓦	厚さ 2.4~2.9	凹面:布目痕、布とじ目痕、粘土板糸切 り痕、模骨痕。 凸面:縦方向のナデ。 粘土板桶巻造り。	8×8	白色粒子、黒色 粒子、細礫(最大 0.5cm 大)含む。	灰色、青灰色	良好		

第11表 第4号溝跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	坏	口径(12.1) 残存高4.0	口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部 外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。		白色粒子、赤褐 色粒子、石英、黒 雲母含む。	橙色、灰黄褐色	良好	25%	
2	坏	残存高1.3 底径(6.1)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、褐色 粒子、石英含む。	灰黄色	やや 不良	底部の 30%	
3	高台碗	残存高4.3 底径(6.1)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。		白色粒子、礫含む。	灰色	良好	35%	
4	皿	口径(13.0) 器高2.4 底径(5.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切 り。		白色粒子、黒色 粒子、長石含む。 やや粗い。	灰色	良好	30%	
5	瓶	口径(17.0) 残存高2.8	内外面回転ナデ。内外面に灰釉。		白色粒子、褐色 粒子含む。密。	灰白色	良好	口縁の 20%	
6	甕	厚み 0.3~0.5	外面長格子叩き目。内面青海波文。		白色粒子、黒色 粒子含む。 密。	外面:灰色 内面:灰白色	良好	胴部破 片	No.7・8と同 一物体。
7	甕	厚み 0.4~0.5	外面長格子叩き目。内面青海波文。		白色粒子、黒色 粒子含む。	外面:灰色 内面:灰白色	良好	胴部破 片	No.6・8と同 一物体。
8	甕	厚み0.7	外面長格子叩き目。内面青海波文。		白色粒子、黒色 粒子含む。	外面:灰色 内面:灰白色	良好	胴部破 片	No.6・7と同 一物体。

番号	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
9	坏	口径6.4 器高2.4 底径1.7	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り、 柁目圧痕。		赤褐色粒子、黒色 粒子、黒雲母 含む。	にぶい黄褐色	普通		外面に墨書 あり。
10	こね鉢	口径(23.8) 残存高6.2	口縁部外面回転ナデ。体部外面指頭圧 痕。内面器面が荒れていて不明。		白色粒子、長石 (0.3 cm ～0.6 cm 大)含む。	灰色	普通	口縁の 10%	
11	瓦塔		幅約1.0cmの半截竹管状工具による丸 瓦表現。瓦の継ぎ目は工具押引きによ る結節を施す。継ぎ目長は軒先からで 2.2cm。軒裏は地垂木のみの表現でヘ ラによって削り出す。地垂木長3.8cm、 幅2.6cm。		白色粒子、赤褐 色粒子、黒色粒 子、砂粒含む。	外面:にぶい橙 色 内面:にぶい黄 褐色	普通	屋蓋部 破片	
12	丸瓦	厚さ 2.0～2.6	凸面:正格子叩き後一部ナデ。 凹面:ナデ。 粘土紐丸木造り。		白色粒子、砂粒 含む。	暗青灰色	良好	広端部 側	広端部端発 泡化する。
13	丸瓦	厚さ 1.5～2.0	凸面:斜格子大叩き。 凹面:布目痕。横方向のナデ。 粘土紐丸木造り。	7×8	白色粒子、片岩、 砂粒含む。	灰白色、灰黄 色	普通		
14	平瓦	厚さ 3.0～3.4	凹面:布目痕、布と同じ目痕、模骨痕。 凸面:斜格子大叩き。 粘土紐桶巻造り。	7×9	白色粒子、赤褐 色粒子、細礫多 量含む。	灰色	良好		

第12表 グリッド・表採遺物観察表（第53～63図）

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	I-4	蓋	口径(12.0) 残存高1.8	内外面回転ナデ。外面に自然釉。	白色粒子含む。	灰色	良好	口縁の 10%	
2	I-3	坏	口径(12.4) 残存高2.7	口縁部内外面ヨコナデ。体部から底部 外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。放射 状暗文を施す。	黒色粒子、白色 粒子含む。	外面:にぶい黄 褐色 内面:橙色	良好	口縁の 25%	
3	I-6	坏	口径(14.1) 器高3.5 底径(7.9)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半 指頭痕、下半から底部ヘラケズリ。内 面ヨコナデ。	赤褐色粒子、黒 雲母含む。	外面:にぶい黄 褐色 内面:浅黄色、に ぶい黄褐色	普通	30%	
4	I-7	坏	口径(11.6) 残存高3.6	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ヘラ ケズリ。内面ヨコナデ。	赤褐色粒子、石 英、黒雲母含む。	橙色	良好	口縁の 25%	内外面 に墨書 外面: 「吉」 内面: 「1」
5	I-6	坏	口径(14.3) 器高4.5 底径(5.1)	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラ ケズリ。底部外面ヘラケズリ。体部内 面ヨコナデ。底部内面ヘラナデ。	赤褐色粒子、黒 雲母含む。	にぶい橙色	普通	25%	
6	I-6	坏	口径(14.2) 残存高3.6	内外面回転ナデ。	白色粒子、黒色 粒子含む。	にぶい黄褐色、 灰色	やや 不良	口縁の 20%	
7	I-5	坏	口径(13.0) 残存高2.7	内外面回転ナデ。	細礫含む。	灰色	良好	口縁の 15%	
8	B-29	坏	残存高2.2 底径(5.5)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、黒色 粒子含む。	灰色	良好	底部の 50%	
9	I-5	坏	残存高3.1 底径(5.3)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、黒色 粒子、片岩含む。	灰色	やや 良好	35%	内外面 に油煙 付着。 未野産
10	B-29	坏	残存高1.6 底径7.4	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、石 英、黒色粒子、片 岩含む。	灰黄色	やや 不良	底部 100%	未野産
11	B-29	坏	残存高1.4 底径7.0	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、黒色 粒子、褐色粒子、 細礫含む。	外面:にぶい黄 色 内面:灰黄色	やや 不良	底部 100%	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
12	I-7	高台坏	口径13.5 器高5.4 底径7.1	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	片岩(0.5~1cm)、 白色粒子、含む。	青灰色、暗青灰 色	良好	65%	未野産
13	B-29	高台碗	残存高2.0 底径(8.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	白色粒子、赤褐色 粒子、石英含 む。	灰褐色	やや 不良	底部 60%	
14	I-5	高台坏	残存高2.5 底径(7.4)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	白色粒子、長石 含む。	外面:灰黄色 内面:灰色	やや 良好	底部の 20%	
15	I-3	高台碗	口径(15.9) 器高7.0 底径6.6	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	白色粒子多量、 細礫、長石、片岩 含む。	灰白色	やや 良好	25%	未野産
16	G-25	高台坏	残存高3.2 底径(6.6)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	白色粒子、赤褐色 粒子、黒雲母 含む。	浅黄色、橙色	普通	底部か ら体部 下半の 50%破 片	
17	I-5	高台坏	口径(12.6) 器高5.3 底径(11.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	石英、細礫、長石 含む。	灰色	やや 良好	30%	内面に 油煙付 着。 未野産
18	I-5	皿	残存高1.4 底径(9.0)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り 後高台ナデツケ。	白色粒子、細礫、 片岩、長石含む。	外面:暗青灰色 内面:灰色	良好	底部の 25%	未野産
19	I-5	皿	口径(14.2) 器高2.6 底径(6.2)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	細礫、片岩含む。	灰黄色	やや 良好	60%	未野産
20	I-5	皿	口径(14.3) 器高4.1 底径(8.0)	内外面回転ナデ。体部内外面に灰釉。	黒色粒子、白色 粒子含む。	黄灰色	良好	60%	
21	I-3	高台碗	残存高1.8 底径(7.4)	内外面回転ナデ。内面に灰釉。	白色粒子、黒色 粒子含む。	灰白色	良好	底部の 25%	
22	C-24	鉢	口径(17.6) 残存高9.4	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラ ケズリ。	黒色粒子含む。	外面:浅黄色 内面:灰黄色	やや 良好	口縁の 50%	
23	C-30	甕	口径(20.0) 残存高4.3	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ。	白色粒子、長石、 黒雲母含む。	灰褐色、にぶい 黄橙色	良好	口縁の 15%	
24	I-5	台付甕	口径(15.8) 残存高3.6	口縁部内外面ヨコナデ。	白色粒子、黒色 粒子、赤褐色粒 子含む。	橙色	良好	口縁の 25%	
25	I-5	台付甕	残存高2.8	底部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。脚 台部内面ヨコナデ。	白色粒子、石英、 赤褐色粒子含む。	黒褐色	やや 良好	底部及 び脚台 部上部 のみ残 存	
26	I-5	甕	口径(21.2) 残存高5.0	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ヘラ ケズリ。内面ヨコナデ。	白色粒子、石英 含む。	赤褐色	やや 良好	口縁の 15%	外面煤 ける。
27	B-29	羽釜	残存高5.6	内外面ヨコナデ。	白色粒子、赤褐色 粒子、雲母、小 石若干含む。	外面:橙色 内面:暗灰黄色	良好	つばの 部分破 片	
28	B-29・30	甕	厚さ0.9~1.1	内外面ナデ。	白色粒子、長石、 細礫含む。	暗青灰色	良好	胴部破 片	
29	I-5	瓶	口径(10.4) 残存高2.8	内外面回転ナデ。内面に灰釉。	白色粒子、胎土 含む。	灰白色	良好	口縁の 15%	
30	F-23	皿 (土師質 土器)	口径(10.2) 器高1.9 底径(6.7)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、白 色粒子、黒雲母 含む。	橙色	良好	30% (口縁 の25%)	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
31	B-30	皿 (土師質 土器)	口径9.7 器高2.1 底径6.3	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、赤褐色 粒子、黒色粒 子含む。	浅黄橙色	良好	99%	口縁部 に油煙 付着。 灯明皿 用途。
32	F-23	皿 (土師質 土器)	残存高0.9 底径6.8	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、白 色粒子、砂粒、黒 雲母含む。	外面:にぶい橙 色 内面:灰黄褐色	やや 良好	底部の 100%	底部中 央に穿 孔。
33	I-4	皿 (土師質 土器)	残存高0.9 底径5.8	底部外面回転糸切り。	白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母 含む。	にぶい橙色	良好	底部破 片	
34	F-23	皿 (土師質 土器)	口径8.9 器高1.9 底径5.7	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、赤褐 色粒子、黒雲母 含む。	橙色	良好	85%	口縁部、 底部外 面に油 煙付着。 灯明皿 用途。
35	I-4	皿 (土師質 土器)	口径(10.6) 器高1.4 底径(7.0)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、片 岩、黒雲母含む。	にぶい橙色	やや 良好	口縁の 25%	口縁部 に油煙 付着。 灯明皿 用途。
36	B-30	皿 (土師質 土器)	口径8.2 器高1.9 底径6.2	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	白色粒子、褐色 粒子、黒雲母含 む。	灰白色	良好	100%	外面の 一部及 び内面 煤ける。
37	F-19~ 21	皿 (土師質 土器)	口径(9.7) 器高2.1 底径(7.0)	内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。	赤褐色粒子、黒 雲母、石英含む。	にぶい橙色	良好	25%	
38	C-30	塩焼壺 蓋	口径7.8 器高1.9	内外に布目痕。	白色粒子含む。 やや粗い。	橙色	良好	60%	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
39	B-30	碗	口径(10.4) 器高5.1 底径(4.8)				肥前系(伊万里)	25%	
40	B-30	碗	口径(10.2) 器高5.1 底径4.5				肥前系(伊万里)	40%	
41	B-29	碗	口径(9.1) 器高5.8 底径3.2		にぶい黄橙色	灰釉	瀬戸・美濃	30%	
42	B-30	碗	口径9.8 器高6.0 底径4.0				肥前系(伊万里)	80%	
43	B-30	碗	口径10.3 器高5.1 底径4.0				肥前系(伊万里)	100%	
44	B-29	碗	口径(10.6) 残存高4.2				肥前系(伊万里)	40% (口縁 の60%)	
45	B-29	碗	口径(10.0) 残存高5.0				肥前系(伊万里)	口縁の 15%	
46	B-30	碗	口径10.2 器高4.7 底径4.3				肥前系(伊万里)	99%	
47	B-30	皿	口径(13.8) 残存高2.7				肥前系(伊万里)	口縁の 30%	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手 法 の 特 徴 等	胎土	釉薬	生産地	残存率	備考
48	B-30	小鉢	口径12.8 器高5.4 底径5.1		淡黄色	透明釉	肥前系(伊万里)	60%	呉須絵 山水楼閣
49	B-30	碗	口径(14.0) 残存高7.1		明黄褐色	灰釉		50%	
50	B-29・30	碗	口径9.0 器高7.9 底径5.8		灰白色	鉄釉	瀬戸・美濃	60%	
51	B-20	徳利	残存高13.0		灰白色	灰釉	瀬戸・美濃		胴上半 ～中央 部破片
52	F-23	灯明台	残存高4.9 底径4.5	内外面回転ナデ。底部外面回転系切り。	にぶい橙色				脚台部 破片
53	I-30	仏具	口径6.9 器高4.6 底径3.3	—			肥前系	80%	
54	B-30	播鉢	口径35.3 残存高13.9	10本単位の櫛目。	赤褐色	錆釉	備前	70%	
55	C-26	播鉢	残存高5.4 底径(19.0)	10本単位の櫛目。	灰色	鉄釉	瀬戸・美濃	底径の 20%	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
56	I-4	焙烙	器高4.9	口縁部から体部上半ヨコナデ。体部下半ヘラケズリ。	黒色粒子含む。	にぶい黄橙色	良好	耳の部分 破片	
57	B-30	焙烙	口径38.9 残存高5.6 底径36.5	口縁部から体部上半ヨコナデ。下半未調整。	黒色粒子多量、 石英含む。	にぶい黄橙色	良好	70%	
58	B-30	瓦質脚付鉢	最大長18.0 幅(18.5) 器高11.5 最大厚8.5	体部外面ミガキ状のナデ、内面ナデ。底部外面未調整。内面ナデ。脚ナデツケ。	白色粒子、黒色 粒子、赤褐色粒 子含む。 比較的密。	にぶい黄橙色	普通		
59	B-20	砥石	最大長8.7 最大幅4.9 最大厚3.5 重さ250g	欠損部をのぞいて5面使用。砂岩製。				欠損	
60	C-24	古銭	直径2.3	熙寧元宝。初銭年代1068年。				一部欠 損	
61	B-30	古銭	直径2.4	寛永通宝。初銭年代1672年。				100%	
62	B-29	土鍾	最大長6.8 最大幅1.5 最大厚1.5 重さ13g	—	白色粒子、雲母 含む。	橙色	良好	一方端 欠損	
63	F-23	板石塔婆	残存長15.5 残存幅10.2 最大厚1.8	種子「キリーク」。緑泥片岩製。				欠損	
64	D-24	板石塔婆	残存長27.1 残存幅13.7 最大厚3.0	種子「キリーク」。裏面に鑿痕。緑泥片岩製。				上・下 左側欠 損	
65	F-21	板石塔婆	残存長21.6 残存幅12.8 最大厚2.5	種子「キリーク」。山型・二条線残存。緑泥片岩製。				上・下 左側欠 損	
66	E-22	板石塔婆	残存長25.0 残存幅23.0 最大厚2.7	銘文「〇〇〇辰〇月」。緑泥片岩製。				上・下 左側欠 損	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
67	表採	単弁12 葉蓮華 文軒丸 瓦	直径(15.4)	瓦当面／中房:直径4.7cm、蓮子 7個(5個欠損)、間弁:「Y」字状 一割りつけが乱れ右斜め上は 省略、界線:なし、周縁は直立縁 で端面は平坦。瓦当裏面／布紋 り痕。瓦当外周／斜格子小叩き。 丸瓦部／下半はへうによる切り 取りで顎をつくる。成形技法 ／一本造り。		白色粒子多量、 石英、黒色粒 子含む。	灰色	普通	瓦当部 の90%	
68	表採	単弁12 葉蓮華 文軒丸 瓦	—	瓦当面／間弁:「Y」字状一文様 の割りつけが乱れ右斜め上は 省略、界線:なし、周縁は直立縁 で端面は平坦、瓦当裏面／布紋 り痕。瓦当外周／斜格子小叩き。 成形技法／一本造り。		白色粒子、黒 色粒子、砂粒 多量に含む。	灰色	やや 良好	瓦当部 の25%	
69	表採	単弁12 葉蓮華 文軒丸 瓦	直径16.5	瓦当面／中房:直径4.7cm、蓮子 17個(5個欠損)、間弁:「Y」字状 一文様の割りつけが乱れ右斜 め上は省略、界線:なし、周縁は 直立縁で端面は平坦。瓦当裏面 ／布紋り痕。瓦当外周／斜格子 小叩き、左斜め上に丸瓦部の粘 土板巻きとじ痕残る。成形技法 ／一本造り。		白色粒子多量、 長石、片岩含 む。	青灰色	普通	瓦当部 の90%	
70	表採	単弁12 葉蓮華 文軒丸 瓦	—	瓦当面／間弁:「Y」字状、界線: なし、周縁は直立縁で端面は平 坦にナデ。 瓦当裏面／布紋り痕。瓦当外周 ／正格子小叩き。成形技法／一 本造り。		黒色粒子、白 色粒子、長石 含む。	灰色	良好	瓦当部	
71	表採	単弁12 葉蓮華 文軒丸 瓦	—	瓦当面／間弁:「Y」字状、界線: なし、周縁は直立縁で端面は平 坦。瓦当裏面／布紋り痕。瓦当 外周／斜格子小叩き。丸瓦部／ 下半はへうによる切り取りで 顎をつくる。成形技法／一本造 り。		褐色粒子、片 岩、砂粒多量 に含む。	浅黄色	不良	瓦当部 の35%	
72	H-10	単弁12 葉蓮華 文軒丸 瓦	—	瓦当面／蓮弁:肉厚、間弁:「Y」 字状、周縁は直立縁で端面は平 坦。瓦当裏面／布紋り痕。丸瓦 部／凸面:正格子小叩き、凹面: 布目痕、横方向のナデ。成形技 法／一本造り。		砂粒多量に含 む。	淡黄色	やや 良好	瓦当部 の一部	
73	表採	単弁16 葉蓮華 文軒丸 瓦	—	瓦当面／蓮弁:先端がとがる、 間弁:「Y」字状、界線:あり、 外区:内に唐草(扁行)文配す。		黒色粒子、白 色粒子、細礫 含む。	灰色	普通	瓦当部 の一部	
74	I-7	単弁9 葉蓮華 文軒丸 瓦	直径(16.2)	瓦当面／中房:細縁を主体に表 現、直径約5cm、蓮子20個、蓮 弁:細線で表現、肉薄のもの。 間弁:「Y」字状、界線:なし、周 縁は直立縁で端面は平坦。 瓦当裏面／ナデ。成形技法／印 籠つぎ。		白色粒子、赤 褐色粒子、細 礫、黒雲母含 む。	暗灰黄色、に ぶい黄色、に ぶい橙色	良好	瓦当部 の一部	
75	H-9	単弁9 葉蓮華 文軒丸 瓦	—	瓦当面／蓮弁:細縁で表現、肉 薄のもの、間弁:「V」字状、界 線:なし、周縁は直立縁で端面は 平坦。丸瓦部／凸面:へうケズ リ。成形技法／印籠つぎ。		赤褐色粒子、 長石、砂粒含 む。	黒色、灰黄色	良好	瓦当部 の一部	

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
76	表採	三重弧 文軒平 瓦	瓦当厚さ 3.5	瓦当面／型挽き。頸／粘土板貼 りつけ成形。平瓦部／凹面：横 方向のナデ。凸面：正・斜格子 小叩き。		白色粒子、砂 粒、長石、石英、 片岩含む。	黒色、黒褐色	普通	瓦当部 の一部	
77	H-11	三重弧 文軒平 瓦	瓦当厚さ 3.6	瓦当面／型挽き。頸／粘土板貼 りつけ成形。平瓦部／凹面：横 方向のナデ。凸面：斜格子小叩 き。粘土紐桶巻造り？		砂粒、長石、片 岩含む。	黄灰色	やや 良好	瓦当部 の一部	
78	表採	均正唐 草文軒 平瓦	瓦当厚さ 8.2 平瓦部5.5	瓦当面／文様の隆線と界線は 断面三角形。頸／斜め段頸幅 8.0cm、横方向のヘラケズリ。平 瓦部／凹面：横方向のヘラケズ リ、一部に布目痕残る。凸面： 縦方向のヘラケズリ。粘土板巻 きつけ一枚造り。	7×6	白色粒子、石 英、黒雲母含 む。	に ぶ い 赤 褐 色	やや 良好	瓦当部 の一部	
79	F・G- 19～21	均正唐 草文軒 平瓦	—	瓦当面／文様の隆線と界線は 段面三角形の細い線。頸／段頸、 朱付着。粘土板巻きつけ一枚造 り。		赤褐色粒子、 砂粒多量含 む。	灰色	普通	瓦当部 の一部	
80	F・G- 19～21	均正唐 草文軒 平瓦	—	瓦当面／文様の隆線と界線は 断面三角形。瓦当上部／ヘラケ ズリ。		砂粒多量、片 岩、長石含む。	暗灰色	やや 良好	瓦当部 の一部	
81	I-6	丸瓦	厚さ 1.9～2.7	凸面：斜格子小叩き。 凹面：横方向のナデ。 粘土紐丸木造り。		赤褐色粒子、 白色粒子含 む。	暗青灰色	良好	広端部 側	
82	表採	丸瓦	厚さ 1.6～2.0 狭端部幅 12.0	凸面：斜格子大叩き。 凹面：布目痕、一部横方向のナ デ。 粘土紐丸木造り。	7×10	白色粒子、黒 色粒子、長石 含む。	灰色	良好	狭端部 側	
83	H-10	丸瓦	厚さ 1.5～1.9	凸面：斜格子大叩き。 凹面：布目痕、一部斜め方向の ナデ。 粘土紐丸木造り。		白色粒子、長 石、細礫含む。	灰色	良好	狭端部 側	
84	H-11	丸瓦	厚さ 1.4～2.1	凸面：縦方向のナデ。 凹面：布目痕、布とじ目痕。 粘土紐丸木造り。	8×10	白色粒子、黒 色粒子、細礫 含む。	灰色	良好	狭端部 側	
85	H-10	丸瓦	厚さ 1.6～2.6	凸面：縦方向のナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。		細礫、長石、 片岩含む。	灰赤色	良好	広端部 側	
86	G-24	丸瓦	厚さ 1.0～1.8	凸面：縦方向のナデ。 凹面：布目痕。 粘土紐丸木造り。	7×10	白色粒子、細 礫、長石、片 岩含む。	暗青灰色	良好	広端部 側	
87	表採	平瓦	厚さ 3.5～4.0	凹面：布目痕、布とじ目痕、模骨 痕。 凸面：斜格子大叩き。 粘土紐桶巻造り。	9×6	白色粒子、黒 色粒子、赤褐 色粒子含む。	灰白色、橙色	良好	広端部 側	
88	H-11	平瓦	厚さ 1.5～2.2	凹面：布目痕、粘土板糸切り痕。 凸面：長格子小(陰)叩き。 粘土板一枚造り。	8×7	黒雲母多量、 長石含む。	浅黄色、灰黄 色	やや 良好	狭端部	
89	H-7	平瓦	厚さ 1.6～2.0	凹面：布目痕、粘土板糸切り痕。 模骨痕。 凸面：縄叩き。 粘土板桶巻造り。	6×7	白色粒子多量 含む。	暗青灰色	良好	広端部 側	
90	I-6	平瓦	厚さ 1.3～2.2	凹面：布目痕、布とじ痕、粘土板 糸切り痕。 凸面：縄叩き。 粘土板桶巻造り。	9×8	粗い砂礫多量、 長石、片岩含 む。	灰色	不良		

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	布目 (本/cm)	胎土	色調	焼成	残存率	備考
91	D-25	平瓦	厚さ 1.1~1.9	凹面:布目痕。 凸面:櫛目状の叩き。 粘土紐丸木造り。	5×7	白色粒子、褐色粒子、片岩、細礫含む。	灰色	良好	狭端部側	
92	I-5	平瓦	厚さ 2.6~3.3	凹面:布目痕、ヘラケズリ痕、模骨痕。 凸面:ナデ。 粘土紐桶巻造り。	7×7	赤褐色粒子、白色粒子、細礫、長石含む。	灰色、にぶい 橙色	やや 良好		
93	H-11	平瓦	厚さ 0.9~2.4	凹面:布目痕、模骨痕。 凸面:ナデ。 粘土紐桶巻造り。	11×9	細礫多量(最大0.8cm)、片岩、長石含む。	暗青灰色	良好	狭端部側	
94	H-10	平瓦	厚さ 1.5~2.4	凹面:布目痕、粘土板糸切り痕、模骨痕。 凸面:ナデ。 粘土板桶巻造り。	7×8	白色粒子、赤褐色粒子、石英含む。	橙色	良好	狭端部側	
95	B-30	丸瓦	最大長28.2 最大幅6.4 最大厚2.0	-		白色粒子、黒色粒子含む。	灰黄色	良好	80%	玉縁付

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
96	I-5	瓦塔	残存高12.8 孔径 上部2.0 下部 3.0~3.3	体部ヘラナデ。下部へ向かって末広がりの中空の円筒。四方にのびる羽部は欠損して不明。また上端部も欠損している。	白色粒子、長石、白色針状物質含む。	暗灰色	良好	相輪水煙部破片	南比企産
97	表採	瓦塔	-	幅1.1cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。軒先〜継ぎ目約3.0cm〜継ぎ目約3.7cm。隅棟の先端近くに隅垂木へと貫通する穿孔あり。地垂木・飛檐垂木ともヘラによる切り取り線を入れた後削り出す。 地垂木 長約3.5cm 幅約1.0cm 飛檐垂木 長約2.0cm 幅約1.5cm 隅垂木 幅約2.5~2.7cm	白色粒子、黒色粒子、長石、白色針状物質、礫含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
98	I-6	瓦塔	-	幅約1.1cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。軒先から継ぎ目は1.5~3.0cmの長さ。その先の継ぎ目は約4.1cm。隅棟の先端近くに隅垂木へと貫通する穿孔あり。垂木はヘラによる切り取り線を施した後に削り出す。 地垂木 長4.5~5.5cm 幅1.0cm 飛檐垂木 長2.8cm 幅1.4~1.6cm	白色粒子、長石、白色針状物質、礫、片岩含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
99	表採	瓦塔	-	幅約1.1cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。軒先から継ぎ目まで約4.7~7.0cm〜継ぎ目長さ約4.5cm。隅棟の先端近くに隅垂木へと貫通する穿孔あり。地垂木・飛檐垂木ともヘラによる切り取り線を施した後に削り出す。 地垂木 長5.5cm 幅1.3cm 飛檐垂木 長3.0~3.5cm 幅1.2~1.6cm 隅垂木 幅2.3~3.3cm	白色粒子、長石、白色針状物質、礫含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
100	表採	瓦塔	-	幅1.0cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。継ぎ目長は2.3~2.7cm。地垂木・飛檐垂木ともヘラによる切り取り線を施した後に削り出す。 地垂木 長3.3cm 幅1.5cm 飛檐垂木 長2.6~2.8cm 幅1.2~1.4cm	白色粒子、白色針状物質、礫含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産

番号	出土位置	器種	法量 (cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
101	表採	瓦塔	—	幅約1.0cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具先端で爪線状の結線が施される。継ぎ目長約3.0cm。垂木はヘラによる切り取り線が施された後削り出す。軒先に平行して一条の凹線がある。 地垂木 幅約1.3cm 飛檐垂木 長1.8cm 幅1.1cm	白色粒子、石英、白色針状物質含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
102	H-10	瓦塔	—	幅約1.0cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。継ぎ目長は軒先からは2.5~2.7cm、その先は約3.3cm。垂木はヘラによる削り出し。 地垂木 長約3.5cm 幅約1.3cm 飛檐垂木 長約1.5cm 幅約1.3cm	白色粒子、黒色粒子、白色針状物質、石英、細礫含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
103	表採	瓦塔	—	幅約1.2cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。継ぎ目長は4.5~5.0cm。垂木はヘラによる切り取り線を施した後削り出す。 地垂木 長4.6cm 幅約1.2cm 飛檐垂木 長3.7cm 幅1.2cm	黒色粒子多量、片岩、石英、長石、小石含む。	灰白色	良好	屋蓋部破片	
104	H-7	瓦塔	—	幅約1.2cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。継ぎ目長は軒先から継ぎ目まで約4.5cm。その先継ぎ目まで約3.3cm。垂木はヘラによる切り取り線を施した後削り出すが非常に肉薄。 地垂木 長約3.5cm 幅約1.5cm 飛檐垂木 長約2.5cm 幅1.5~1.7cm	黒色粒子、長石、細礫含む。	表:灰白色 裏:灰白色、黄灰色	良好	屋蓋部破片	
105	H-9	瓦塔	—	突帯部をヘラにより切り取り線をつけた後切り取る。	白色粒子、黒色粒子、長石含む。	灰白色	良好	初軸部の一部破片	
106	表採	瓦塔	—	幅約1.2cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。軒裏はヘラケズリ成形。	白色粒子、黒色粒子、礫含む。	灰白色	良好	屋蓋部破片	
107	表採	瓦塔	—	幅1.2cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。隅棟の先端付近に軒裏まで貫通する穿孔あり。垂木はヘラによる切り取り線を施した後に削り出す。 地垂木 長約3.5cm 幅約1.0cm 飛檐垂木 幅約1.6cm	白色粒子、黒色粒子、長石、砂粒含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	
108	H-9	瓦塔	—	幅約1.5cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具先端で爪線状の結節を施す。継ぎ目長2.5cm。軒裏はヘラケズリ。	白色粒子、黒色粒子、長石、白色針状物質ごくわずかに含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
109	表採	瓦塔	—	幅1.4cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具先端で爪線状の結節を施す。継ぎ目長は2.0~2.5cm。軒裏はヘラケズリ。	白色粒子、白色針状物質わずかに、黒雲母含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産 ややカーブを描く丸瓦表現なので瓦堂の可能性あり。
110	I-6	瓦塔	—	幅1.5cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具先端で爪線状の結線が施される。継ぎ目長約3.0cm。飛檐垂木・地垂木ともヘラによる切り取り線が施された後削り出す。軒下に一条のくぼみあり。 地垂木 幅1.6cm 飛檐垂木 長2.0cm 幅1.6cm	白色粒子、砂粒、白色針状物質ごくわずかに含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法・形態の特徴等	胎土	色調	焼成	残存率	備考
111	H-7	瓦堂	—	幅約1.5cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具先端で爪線状の結節を施す。継ぎ目長は約2.0cm。垂木はヘラによる削り出し。 地垂木 幅1.3cm 飛檐垂木 長約1.4cm 幅1.3cm	白色粒子、白色針状物質、砂粒含む。 密	灰色	良好	屋蓋部破片	No112と同一個体。 南比企産
112	表採	瓦堂	—	幅約1.5cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具先端で爪線状の結節を施す。継ぎ目長は2.3cm。垂木はヘラによる切り取り線を施した後削り出す。 地垂木 長3.3cm 幅約1.0cm 飛檐垂木 長1.3cm 幅1.2cm	白色粒子、長石、白色針状物質ごくわずかに礫含む。	灰色	良好	屋蓋部破片	南比企産
113	H-10	瓦塔	—	幅約1.0cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。継ぎ目長は約2.1cm。飛檐垂木の表現はわずかで地垂木のみ。 地垂木 残存長3.0cm 幅1.4cm	白色粒子、黒色粒子、赤褐色粒子含む。	橙色	普通	屋蓋部先端破片	土師質
114	H-6	瓦塔	—	幅約0.8cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。瓦継ぎ目は工具押し引きによる結節を施す。垂木はヘラにより削り出す。 地垂木のみ残存 幅約0.9cm	白色粒子、黒色粒子、砂粒含む。	にぶい赤褐色	良好	屋蓋部破片	土師質
115	I-7	瓦塔	—	斗拱及び台輪部残存。斗拱は凸型。台輪は脱落している箇所が多い。	白色粒子、赤褐色粒子、砂粒、石英含む。	橙色	良好	初軸部破片	土師質
116	I-7	瓦塔	—	赤彩と白彩？施される。上部に穿孔。	白色粒子、石英、黒雲母、赤褐色粒子含む。	橙色	良好	初軸部の基壇の一部	土師質
117	表採	瓦堂	—	幅0.8cmの半截竹管状工具による丸瓦表現。	赤褐色粒子、白色粒子、黒雲母、石英含む。	橙色	良好	屋蓋部先端破片	金堂の表現。 土師質

附 編

西別府廃寺出土鉄滓の分析調査

西別府廃寺出土鉄滓の分析調査

1. はじめに

埼玉県熊谷市教育委員会で発掘調査された西別府廃寺の出土品のうち、鍛冶滓と思われる鉄滓2点について、学術的な記録の一環として、化学分析を含む自然科学の観点からの調査のご依頼がありました。その結果についてご報告いたします。

2. 調査項目および方法

(1) 化学成分分析

分析はJIS規格の鉄鉱石分析法に準じて行いました。分析方法および分析結果は別表・分析結果(鉄滓)表をご参照ください。

この調査は化学成分から、鉄を作るための原料の推定と、生産工程のどの部分で発生した滓か、の判断用データを得るために行いました。

全鉄分(T.Fe)は両試料とも、鍛冶滓としては低く、またチタン分(TiO₂)はやや高めになっております。製鉄原料として砂鉄を使用したと想定されます。

鉄滓の発生を鉄の生産工程から、大まかに分類すると

- (1) 砂鉄や鉄鉱石を溶解して、鉄を取り出す時に発生する製錬滓
- (2) (1)で出来た鉄塊から不純物を取り出す時に発生する精錬鍛冶滓
- (3) 鉄を製品にしてゆく時に発生する鍛錬鍛冶滓
- (4) 溶けた鉄を鋳型に流し込んで鋳物を作る時に発生する鋳物滓

などがありますが、今回調査した鉄滓は一般的に住居址などから多く出土する(3)の鍛錬鍛冶滓よりも、(2)の精錬鍛冶滓や、(4)の鋳物滓に近いものではないかと考えられますが、この2点の試料だけで断定は出来ませんでした。

なお、ご承知とは思いますが、Feは鉄で、FeO、Fe₂O₃など酸化の状態で分析され、金属鉄がある場合にはM.Feが多くなります。T.Telは以上のFeの合計%になります。SiO₂(硅酸)、Al₂O₃

(酸化アルミ)、CaO(酸化カルシウム)、MgO(酸化マグネシウム)の4成分は鉱物に多く含まれ、造滓元素として判断されますが、古代の製鉄では硅酸が多いのが特徴とされています。

TiO₂(酸化チタン)は砂鉄に多く含まれ、製鉄の際に殆ど滓の方に残ります。このため、精錬滓には多く、鍛冶滓には非常に少なくなっているのが一般的です。その他:Cr=クロム、Mn=マンガン、P=リン、S=硫黄 Cu=銅、V=バナジウムなどは原料の推定やその他の金属精錬滓かどうかの判定などにも利用されます。

(2) 顕微鏡組織写真

試料の一部を切り出し、樹脂に埋め込み、細かいサンドペーパーで鏡のようになるまで研磨してから、顕微鏡で観察して特徴的な組織を100倍および400倍に拡大して写真撮影し、熔融状況や鉱物の混合状態等から加工状況や鉄滓の材質の判断をするものです。

試料.1 では酸化鉄の一種であるマグネタイト (Fe_3O_4) と鉄と硅素の化合物であるファイアライト (Fe_2SiO_4) 鉄とチタンの化合物のウルボスピネル (Fe_2TiO_4) などが観察されます。中央下部の黒点は空隙です。

試料.2 では、ファイアライトと鉄とチタンの化合物の一種プシュドブローカイト ($\text{FeO} \cdot 2\text{TiO}$) の白い結晶が見られ、チタンの多い鉄滓であることが分析データと同じ傾向を示しています。

(3) X線回析測定結果

試料を粉碎して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶それぞれに固有の反射(回折)されたX線が観察されることを利用して、試料中の未知の化合物を観測するものです。

多くの種類の化合物の結晶について、標準データが整備されており、そのデータと対比することで、同定されます。

試料.1 ～.2 ともマグネタイトと酸化鉄の一種であるゲーサイト ($\alpha\text{-FeO(III)}$)、鑄型や炉材の主成分である硅酸 (SiO_2) や、Plagioclase ($\text{Na,Ca}(\text{Al,Si})_4\text{O}_8$) 等が同定されております。

3. まとめ

今回の分析調査では分析した試料数も少なく、このデータだけで遺物の性格を確定することまでは出来ません。しかしながら、ここで加工された鉄は砂鉄が原料であったことと、鉄塊を加熱しながら叩いて製品にして行く工程で発生する鍛冶滓よりも、その前工程か、鑄物を作る工程で発生する滓ではないかと想定され、そのような鉄滓がここに存在する意味については、その他の出土品等との総合的な判断で、更に解明されることを期待したいと思います。

分 析 結 果 (鉄滓)

単 位 (%)

	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	MgO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃
No. 1	43.9	1.10	10.5	49.5	17.4	5.42	0.58	1.19	3.68	0.01
No. 2	36.8	0.15	7.93	43.6	25.2	7.88	0.56	1.02	2.72	0.01

	MnO	P ₂ O ₅	C	S	Cu	V	Na ₂ O	K ₂ O	C.W
No. 1	0.20	0.24	1.34	0.056	0.01	0.25	0.25	0.26	5.97
No. 2	0.16	0.21	0.96	0.061	0.01	0.17	0.50	0.49	6.45

【分析方法】 JIS法に準拠し、以下の方法とした。

T.Fe： 三塩化チタン還元－二クロム酸カリウム滴定法

M.Fe： 臭素メタノール分解－EDTA滴定法

FeO： 二クロム酸カリウム滴定法

Fe₂O₃： 計算

C： 燃焼－赤外線吸収法

S： 熱分解－よう素カリウム滴定法

Cu,v,Na₂O,K₂O： 原子吸光法

SiO₂,Al₂O₃,CaO,MgO
TiO₂,MnO,P₂O₅,Cr₂O₃ } : ガラスビード蛍光X線分析法

C.W： カールフィッシャー法

X線回折測定結果

1. 依頼件名

鉄滓の定性分析

2. 試料記号

1) № 1

2) № 2

3. 測定条件

測定装置：理学電機株式会社製ガイガーフレックス(RAD-Ⅱ型)を使用

① 使用X線	C o - K α (波長=1.79021Å)
② K α 線吸収フィルター	F e
③ 管電圧・管電流	50 k V ・ 35 m A
④ スキャンング・ステップ巾	0.020°
⑤ スキャンング・プリセット・タイム	0.4 s e c
⑥ D.S. スリット	1°
⑦ R.S. スリット	0.3 mm
⑧ S.S. スリット	1°
⑨ 検出器	シンチレーション・カウンター

4. 同定された物質は、チャートに記入しました。

5. 測定者のコメント

●印のピークは、試料ホルダーからのものと思われます。

TARGET/FILTER(MONOCHRO): Co/Fe
VOLTAGE/CURRENT: 50 KV/ 35 MA
SLITS: DS/SS 1.0 DEG RS 0.3 MM
STEP WIDTH: 0.020
PRESET TIME: 0.4
ANGLE ZOOM: 2
SMOOTHING: 3
PEAK WIDTH: 10
PEAK STEEP: 20
DETECTOR: S.G.
SAMPLE: NaI
OPERATOR: KTEC
DATE:

FeO(Magnetite)
SiO2(Quartz, low)
Fe(OH)3(Goethite)
Fe(OH)2(Lepidocrocite)
OH-Ca(OH)2-Diols (Hydroxide)

2.518
2.514
2.510
2.506
2.502
2.498
2.494
2.490
2.486
2.482
2.478
2.474
2.470
2.466
2.462
2.458
2.454
2.450
2.446
2.442
2.438
2.434
2.430
2.426
2.422
2.418
2.414
2.410
2.406
2.402
2.398
2.394
2.390
2.386
2.382
2.378
2.374
2.370
2.366
2.362
2.358
2.354
2.350
2.346
2.342
2.338
2.334
2.330
2.326
2.322
2.318
2.314
2.310
2.306
2.302
2.298
2.294
2.290
2.286
2.282
2.278
2.274
2.270
2.266
2.262
2.258
2.254
2.250
2.246
2.242
2.238
2.234
2.230
2.226
2.222
2.218
2.214
2.210
2.206
2.202
2.198
2.194
2.190
2.186
2.182
2.178
2.174
2.170
2.166
2.162
2.158
2.154
2.150
2.146
2.142
2.138
2.134
2.130
2.126
2.122
2.118
2.114
2.110
2.106
2.102
2.100
2.098
2.096
2.094
2.092
2.090
2.088
2.086
2.084
2.082
2.080
2.078
2.076
2.074
2.072
2.070
2.068
2.066
2.064
2.062
2.060
2.058
2.056
2.054
2.052
2.050
2.048
2.046
2.044
2.042
2.040
2.038
2.036
2.034
2.032
2.030
2.028
2.026
2.024
2.022
2.020
2.018
2.016
2.014
2.012
2.010
2.008
2.006
2.004
2.002
2.000
1.998
1.996
1.994
1.992
1.990
1.988
1.986
1.984
1.982
1.980
1.978
1.976
1.974
1.972
1.970
1.968
1.966
1.964
1.962
1.960
1.958
1.956
1.954
1.952
1.950
1.948
1.946
1.944
1.942
1.940
1.938
1.936
1.934
1.932
1.930
1.928
1.926
1.924
1.922
1.920
1.918
1.916
1.914
1.912
1.910
1.908
1.906
1.904
1.902
1.900
1.898
1.896
1.894
1.892
1.890
1.888
1.886
1.884
1.882
1.880
1.878
1.876
1.874
1.872
1.870
1.868
1.866
1.864
1.862
1.860
1.858
1.856
1.854
1.852
1.850
1.848
1.846
1.844
1.842
1.840
1.838
1.836
1.834
1.832
1.830
1.828
1.826
1.824
1.822
1.820
1.818
1.816
1.814
1.812
1.810
1.808
1.806
1.804
1.802
1.800
1.798
1.796
1.794
1.792
1.790
1.788
1.786
1.784
1.782
1.780
1.778
1.776
1.774
1.772
1.770
1.768
1.766
1.764
1.762
1.760
1.758
1.756
1.754
1.752
1.750
1.748
1.746
1.744
1.742
1.740
1.738
1.736
1.734
1.732
1.730
1.728
1.726
1.724
1.722
1.720
1.718
1.716
1.714
1.712
1.710
1.708
1.706
1.704
1.702
1.700
1.698
1.696
1.694
1.692
1.690
1.688
1.686
1.684
1.682
1.680
1.678
1.676
1.674
1.672
1.670
1.668
1.666
1.664
1.662
1.660
1.658
1.656
1.654
1.652
1.650
1.648
1.646
1.644
1.642
1.640
1.638
1.636
1.634
1.632
1.630
1.628
1.626
1.624
1.622
1.620
1.618
1.616
1.614
1.612
1.610
1.608
1.606
1.604
1.602
1.600
1.598
1.596
1.594
1.592
1.590
1.588
1.586
1.584
1.582
1.580
1.578
1.576
1.574
1.572
1.570
1.568
1.566
1.564
1.562
1.560
1.558
1.556
1.554
1.552
1.550
1.548
1.546
1.544
1.542
1.540
1.538
1.536
1.534
1.532
1.530
1.528
1.526
1.524
1.522
1.520
1.518
1.516
1.514
1.512
1.510
1.508
1.506
1.504
1.502
1.500
1.498
1.496
1.494
1.492
1.490
1.488
1.486
1.484
1.482
1.480
1.478
1.476
1.474
1.472
1.470
1.468
1.466
1.464
1.462
1.460
1.458
1.456
1.454
1.452
1.450
1.448
1.446
1.444
1.442
1.440
1.438
1.436
1.434
1.432
1.430
1.428
1.426
1.424
1.422
1.420
1.418
1.416
1.414
1.412
1.410
1.408
1.406
1.404
1.402
1.400
1.398
1.396
1.394
1.392
1.390
1.388
1.386
1.384
1.382
1.380
1.378
1.376
1.374
1.372
1.370
1.368
1.366
1.364
1.362
1.360
1.358
1.356
1.354
1.352
1.350
1.348
1.346
1.344
1.342
1.340
1.338
1.336
1.334
1.332
1.330
1.328
1.326
1.324
1.322
1.320
1.318
1.316
1.314
1.312
1.310
1.308
1.306
1.304
1.302
1.300
1.298
1.296
1.294
1.292
1.290
1.288
1.286
1.284
1.282
1.280
1.278
1.276
1.274
1.272
1.270
1.268
1.266
1.264
1.262
1.260
1.258
1.256
1.254
1.252
1.250
1.248
1.246
1.244
1.242
1.240
1.238
1.236
1.234
1.232
1.230
1.228
1.226
1.224
1.222
1.220
1.218
1.216
1.214
1.212
1.210
1.208
1.206
1.204
1.202
1.200

TARGET/FILTER(MONOCRD) : Co / Fe
VOLTAGE/CURRENT: 50 KV/ 35 MA
SLITS: DS/SS 1.0/DEG RS 0.3 MM
STEP WIDTH : 0.020
PRESET TIME : 0.4
ANGLE ZOOM : 2
SMOOTHING : 3
PEAK WIDTH : 10
PEAK STEP : 20
DETECTOR : S.G.
SAMPLE : No.2
OPERATOR : KTEC
DATE :
2/1

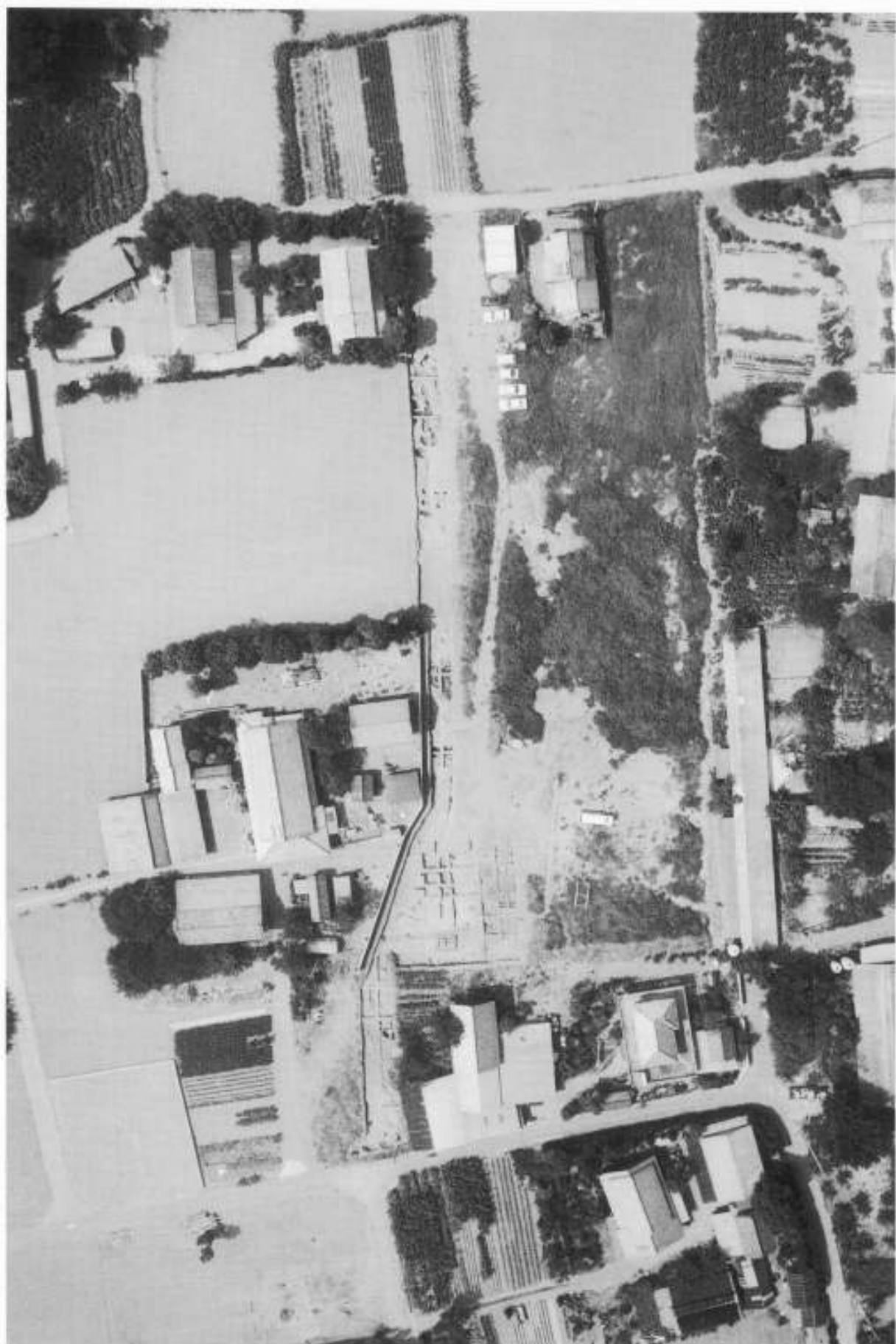
CP8 2000 1500 1000

9 6 4.242 4.171 3.526 2.952 2.445 2.278 2.246 1.186

2.608 1.7 1.218 0.814

□ FeO(Magnetite)
○ SiO₂(Quartz, low)
△ e-FeO(GH) (Gothite)
■ Ni₃CO₃(SJO) (Pisgottite)

写 真 图 版



西別府麻寺調査区全景



第1号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡



第2号住居跡鉄滓・羽口出土状況



第2号住居跡坏出土状況



第2号住居跡瓦・羽口出土状況



第3号住居跡



第3号住居跡カマド



第3号住居跡遺物出土状況



第3号住居跡坏出土状況 (1)



第3号住居跡坏出土状況 (2)



第1・2号竖穴遺構



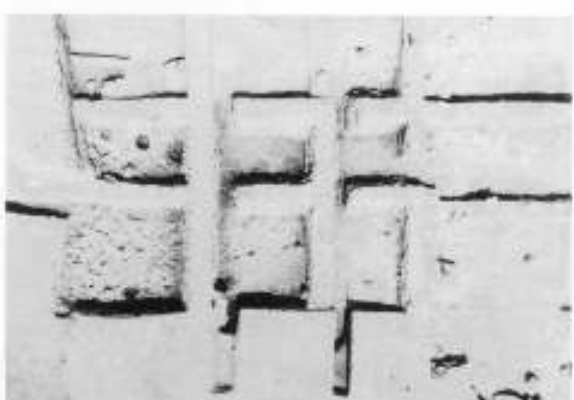
第1号竖穴遺構遺物出土状況



第2号竖穴遺構遺物出土状況 (1)



第2号竖穴遺構遺物出土状況 (2)



第3号竖穴遺構



第3号竪穴遺構川原石分布状況



第4号竪穴遺構遺物出土状況(1)



第4号竪穴遺構遺物出土状況(2)



第2号土坑



第2号土坑遺物出土状況



第9～13号土坑、第4～8号ビット



第10号土坑坏出土状況



第4号竪穴遺構、第15～29号土坑、第9号ビット、第5号溝跡



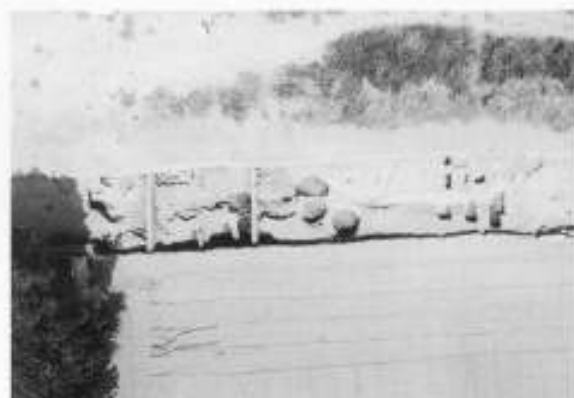
第27号土坑



第1号沟迹



第1号沟迹平瓦出土状况



第2号沟迹



第2号沟迹遗物出土状况



第4号沟迹

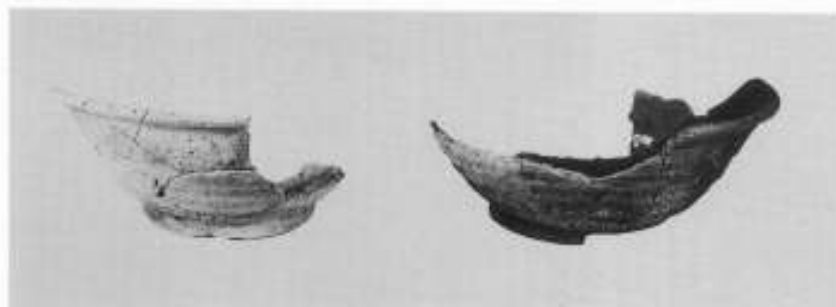


瓦塔出土状况 (1)



瓦塔出土状况 (2)

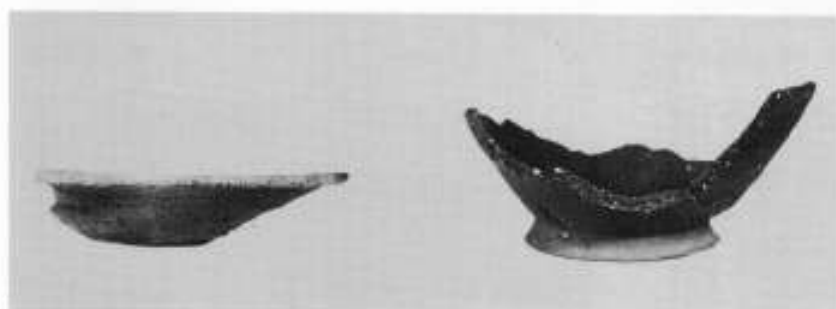
図版 6



第1号住居跡 8・7



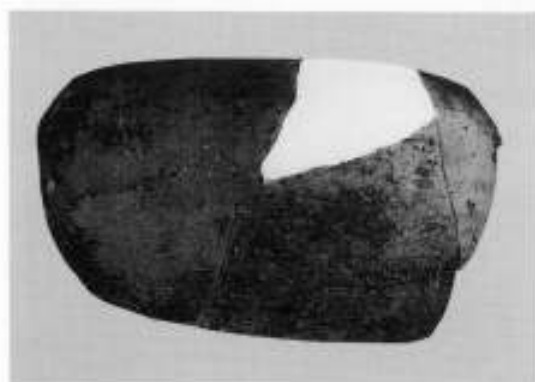
第1号住居跡 5



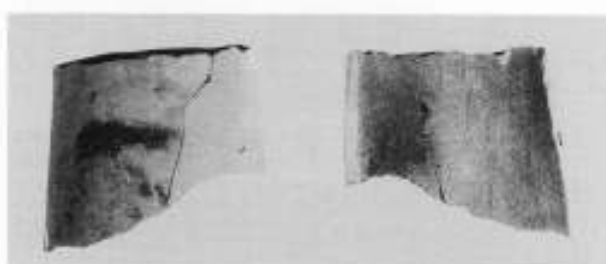
第1号住居跡 12・3



第1号住居跡 17



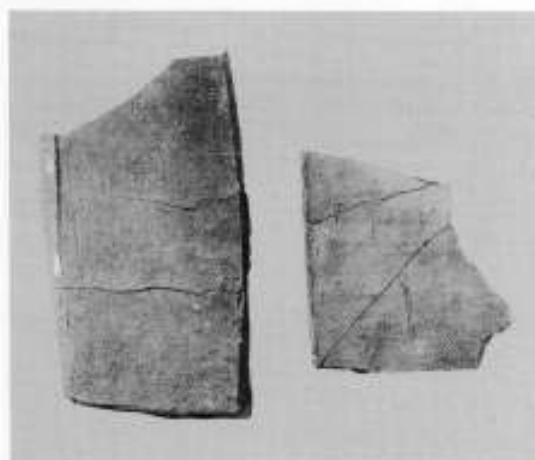
第1号住居跡 13



第1号住居跡 20



第1号住居跡 21



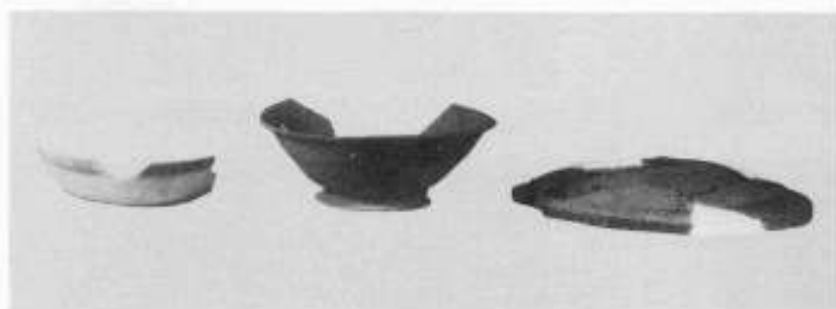
第1号住居跡 22・23 凹面



第1号住居跡 22・23 凸面



第2号住居跡 3・1・2



第2号住居跡 11・12・10



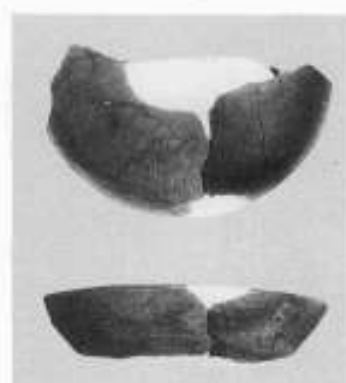
第2号住居跡 12 墨書



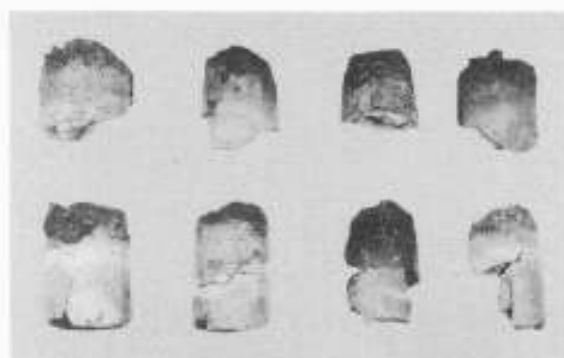
第2号住居跡 16



第2号住居跡 6



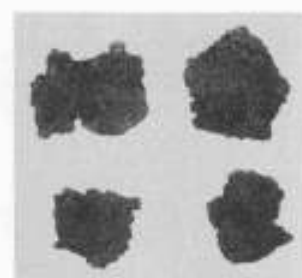
第2号住居跡 7



第2号住居跡 羽口 28・32・34・36・37



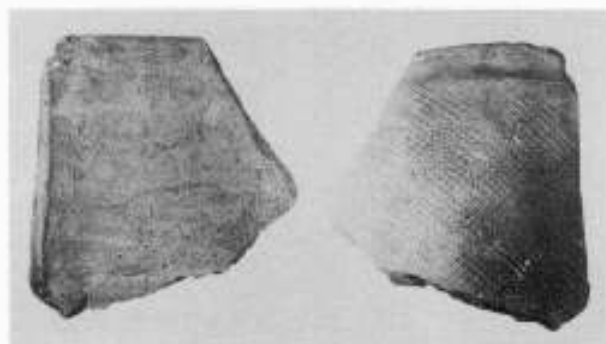
第2号住居跡 鉄器 20~25



第2号住居跡 鉄滓

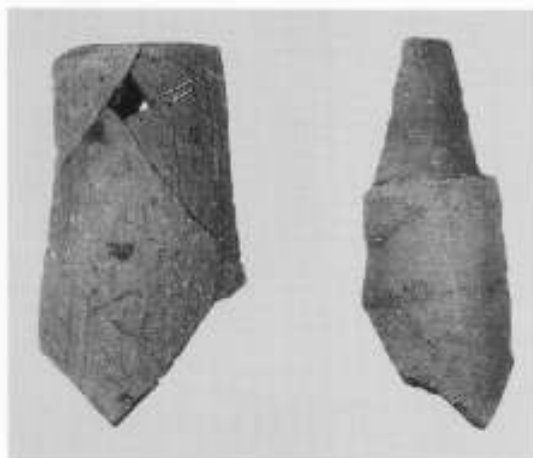


第2号住居跡 38

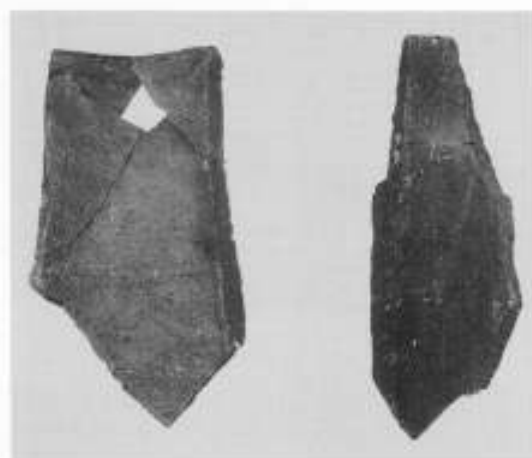


第2号住居跡 46

図版 8



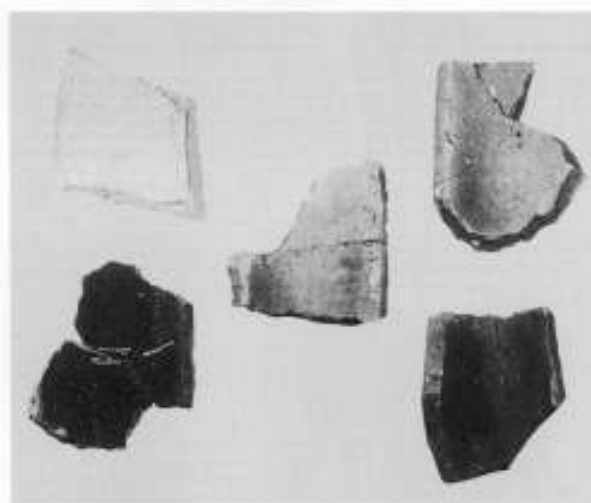
第 2 号住居跡40・45凸面



第 2 号住居跡40・45凹面



第 2 号住居跡39・41~44凸面



第 2 号住居跡39・41~44凹面



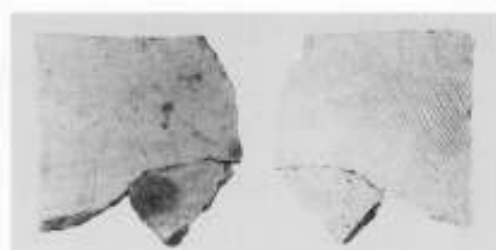
第 2 号住居跡54凹面



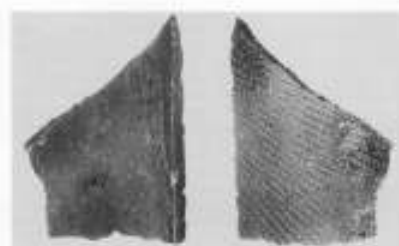
第 2 号住居跡54凸面



第2号住居跡49



第2号住居跡51



第2号住居跡50



第2号住居跡47・48・53凹面



第2号住居跡47・48・53凸面



第2号住居跡55～57凹面



第2号住居跡55～57凸面



第3号住居跡4・5



第3号住居跡49



第3号住居跡9



第3号住居跡19・25・24



第3号住居跡36・14・6



第3号住居跡39



第3号住居跡21・10・17



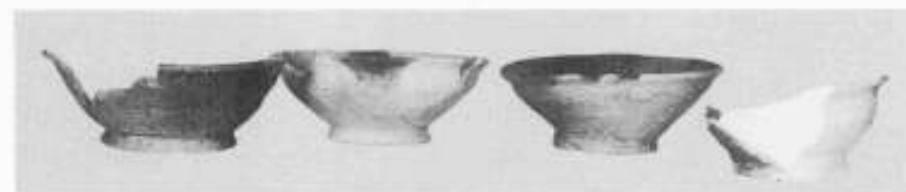
第3号住居跡33・18・20



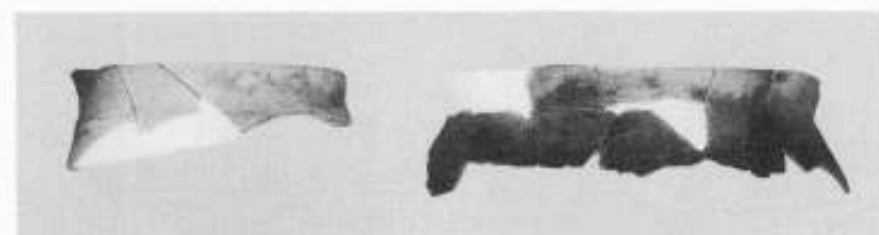
第3号住居跡44



第3号住居跡16・34・23



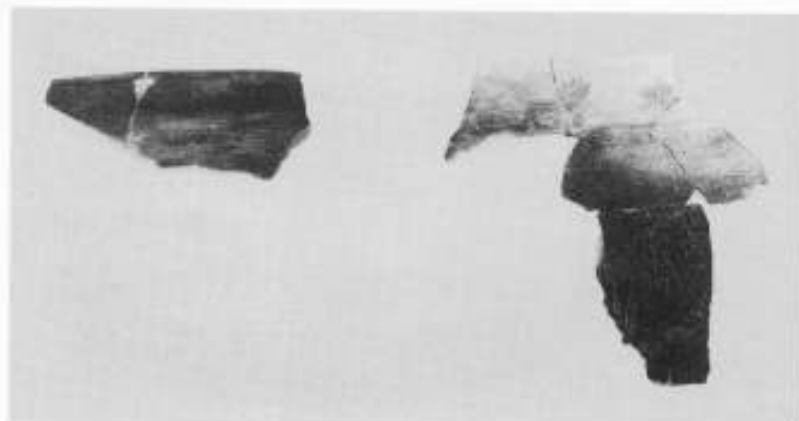
第3号住居跡7・41・40・38



第3号住居跡50・54



第3号住居跡55



第3号住居跡52・53



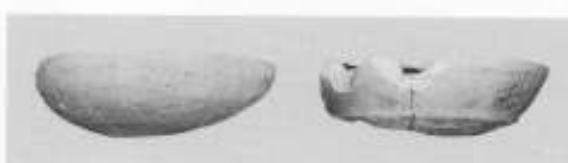
第3号住居跡59



第3号住居跡62



第3号住居跡45・47・48



第2号竪穴遺構9・2



第2号竪穴遺構12



第2号竪穴遺構14



第3号竪穴遺構3～7・11



第3号竪穴遺構16・17・19



第3号竪穴遺構20・21・22・28・23



第3号竪穴遺構34・35



第3号竖穴遺構56



第3号竖穴遺構77



第3号竖穴遺構83



第3号竖穴遺構65~71



第3号竖穴遺構113~116・118



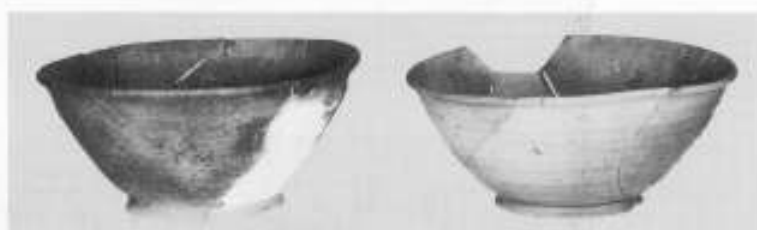
第3号竖穴遺構90~94



第3号竖穴遺構98・97・96



第4号竖穴遺構1



第4号竖穴遺構8・7



第4号竖穴遺構10・9



第4号竖穴遺構5 墨書



第4号竖穴遺構13・14



第10号土坑12



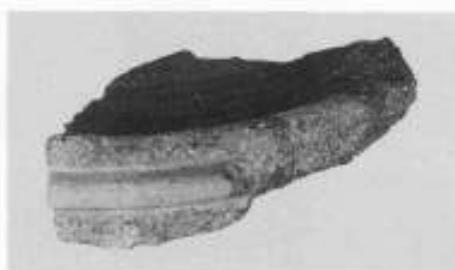
第1号溝跡7



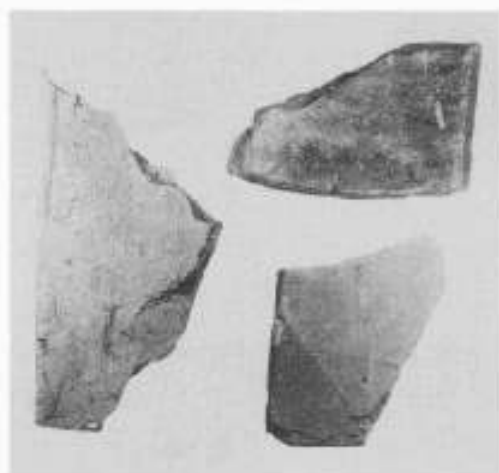
第1号溝跡6



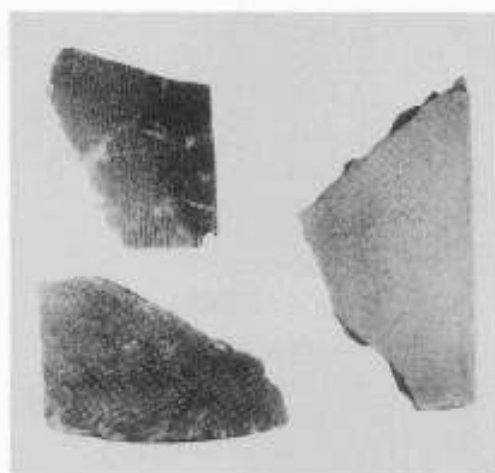
第1号溝跡8



第1号溝跡9



第1号溝跡10~12凹面



第1号溝跡10~12凸面



第2号溝跡6・14・1



第2号溝跡7 墨書



第2号溝跡17



第4号溝跡 1・3・4



第4号溝跡 9



第4号溝跡 13



グリッド・表採68～71・73



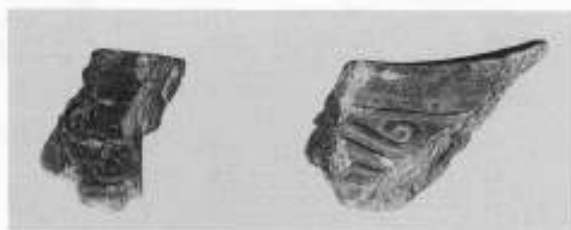
グリッド・表採67



グリッド・表採74・75・72



グリッド・表採78



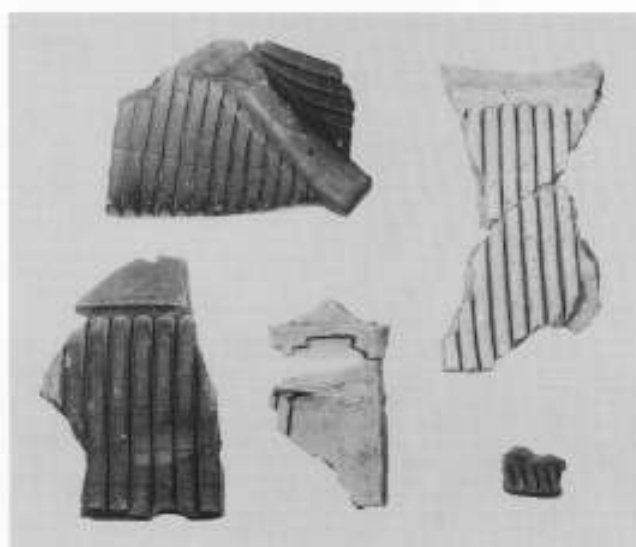
グリッド・表採80・79



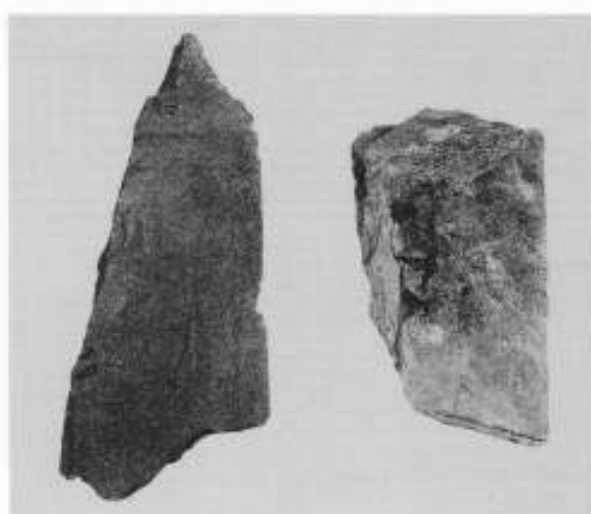
グリッド・表採96



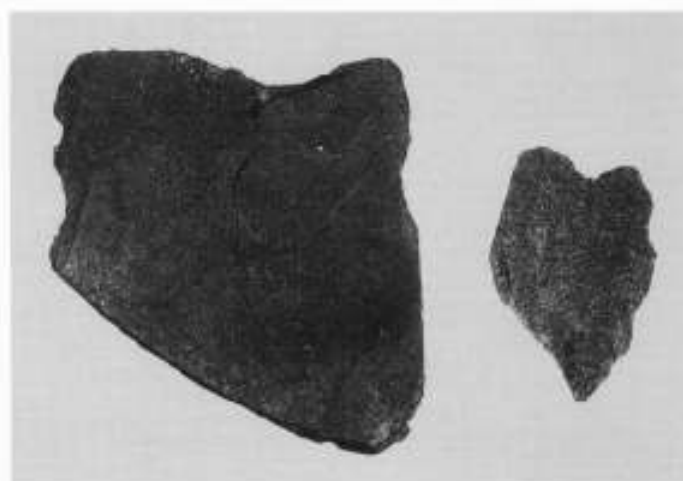
グリッド・表採98



グリッド・表採99・103・112・115・117



グリッド・表採64・65



グリッド・表採66・63

鉄滓分析調査
写真図版

外 観 写 真



No. 1

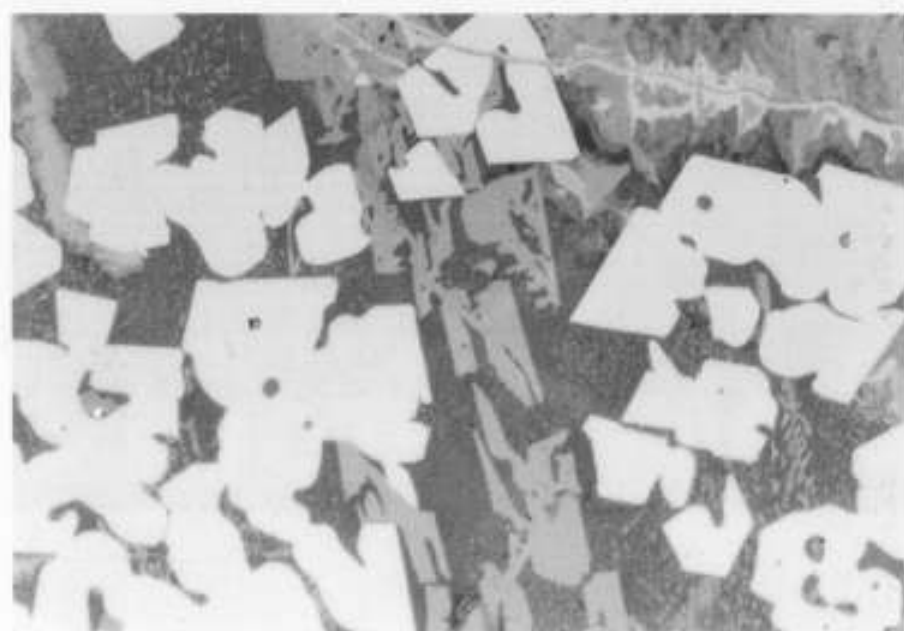
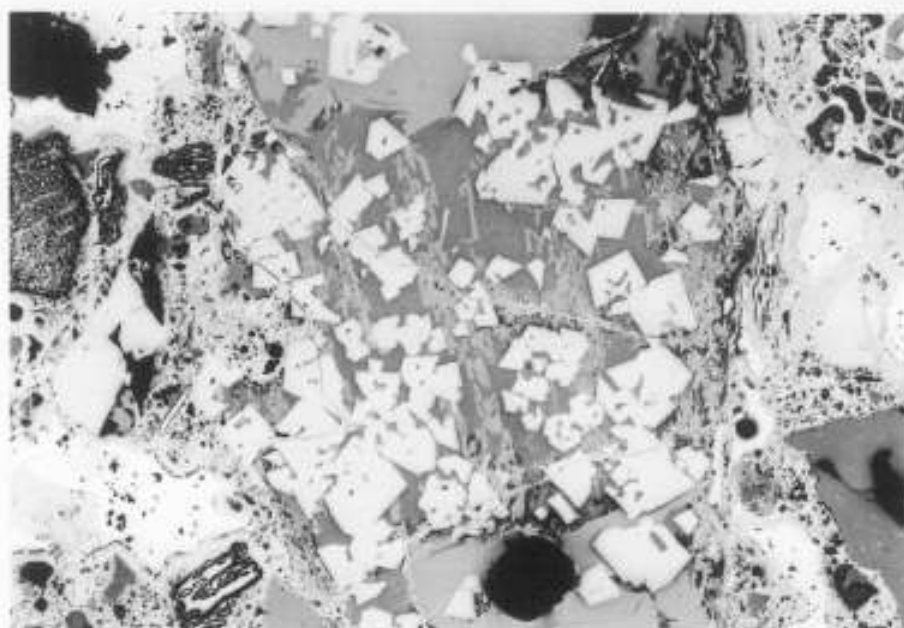


No. 2

顕微鏡写真

試料番号	種別
No. 1	鉄滓

位置	倍率	× 毛
上	×100	
下	×400	



顕微鏡写真

試料番号	種別
No 2	鉄滓

位置	倍率	× 毛
上	×100	
下	×400	



平成3年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

西別府廃寺

平成4年3月31日発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会

印刷／株式会社 博文社